

（案）

## 農薬評価書

# フルキサピロキサド

2013年1月25日

食品安全委員会農薬専門調査会

目 次

1		頁
2		
3	○ 審議の経緯.....	3
4	○ 食品安全委員会委員名簿.....	3
5	○ 食品安全委員会農薬専門調査会専門委員名簿.....	3
6	○ 要約.....	5
7		
8	I. 評価対象農薬の概要.....	7
9	1. 用途.....	7
10	2. 有効成分の一般名.....	7
11	3. 化学名.....	7
12	4. 分子式.....	7
13	5. 分子量.....	7
14	6. 構造式.....	7
15	7. 開発の経緯.....	7
16		
17	II. 安全性に係る試験の概要.....	9
18	1. 動物体内運命試験.....	9
19	(1) ラット.....	9
20	(2) 畜産動物（ヤギ）.....	14
21	(3) 畜産動物（ニワトリ）.....	16
22	2. 植物体内運命試験.....	17
23	(1) トマト.....	17
24	(2) だいず.....	17
25	(3) 小麦①.....	18
26	(4) 小麦②.....	20
27	3. 土壌中運命試験.....	21
28	(1) 好氣的土壌中運命試験①.....	21
29	(2) 好氣的土壌中運命試験②.....	22
30	(3) 好氣的土壌中運命試験③.....	22
31	(4) 嫌氣的土壌中運命試験.....	23
32	(5) 土壌吸着試験.....	23
33	4. 水中運命試験.....	23
34	(1) 加水分解試験（緩衝液）.....	23
35	(2) 水中光分解試験（緩衝液）.....	23
36	(3) 水中光分解試験（自然水）.....	24
37	5. 土壌残留試験.....	24
38	6. 作物残留試験.....	24

1	(1) 作物残留試験	24
2	(2) 畜産物残留試験	24
3	7. 一般薬理試験	25
4	8. 急性毒性試験	26
5	(1) 急性毒性試験	26
6	(2) 急性神経毒性試験	27
7	9. 皮膚に対する刺激性及び皮膚感作性試験	27
8	10. 亜急性毒性試験	27
9	(1) 90 日間亜急性毒性試験（ラット）	27
10	(2) 90 日間亜急性毒性試験（マウス）	29
11	(3) 90 日間亜急性毒性試験（イヌ）	29
12	(4) 90 日間亜急性神経毒性試験（ラット）	30
13	(5) 代謝物 001 の 90 日間亜急性毒性試験（ラット）	31
14	(6) 代謝物 002 の 90 日間亜急性毒性試験（ラット）	31
15	11. 慢性毒性試験及び発がん性試験	32
16	(1) 1 年間慢性毒性試験（イヌ）	32
17	(2) 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験（ラット）	33
18	(3) 18 か月間発がん性試験（マウス）	35
19	12. 生殖発生毒性試験	36
20	(1) 2 世代繁殖試験（ラット）	36
21	(2) 発生毒性試験（ラット）	37
22	(3) 発生毒性試験（ウサギ）	38
23	(4) 代謝物 001 の発生毒性試験（ウサギ）	39
24	(5) 代謝物 002 の発生毒性試験（ウサギ）	39
25	(6) 代謝物 048 の発生毒性試験（ウサギ）	39
26	13. 遺伝毒性試験	39
27	14. その他の試験	43
28	(1) 肝酵素誘導試験（ラット）	43
29	(2) 甲状腺機能試験（ラット）	44
30	(3) 肝細胞増殖反応試験（ラット）	45
31		
32	III. 食品健康影響評価	48
33		
34	・別紙 1：代謝物/分解物略称	52
35	・別紙 2：検査値等略称	55
36	・別紙 3：作物残留試験成績（海外）	57
37	・別紙 4：畜産物残留試験（海外）	133
38	・参照	141
39		

1 <審議の経緯>

- 2012年 7月 10日 インポートトレランス設定の要請  
2012年 8月 21日 厚生労働大臣から残留基準設定に係る食品健康影響評価について要請（厚生労働省発食安 0821 第 3 号）、関係書類の接受（参照 1～62）  
2012年 8月 27日 第 444 回食品安全委員会（要請事項説明）  
2012年 11月 9日 第 19 回農薬専門調査会評価第二部会  
2012年 12月 5日 第 20 回農薬専門調査会評価第二部会  
2013年 1月 25日 第 90 回農薬専門調査会幹事会

2

3 <食品安全委員会委員名簿>

（2012年7月1日から）

熊谷 進（委員長）  
佐藤 洋（委員長代理）  
山添 康（委員長代理）  
三森国敏（委員長代理）  
石井克枝  
上安平冽子  
村田容常

4

5 <食品安全委員会農薬専門調査会専門委員名簿>

（2012年4月1日から）

- ・幹事会  
納屋聖人（座長）                      三枝順三                      松本清司  
西川秋佳（座長代理）              永田 清                      吉田 緑  
赤池昭紀                              長野嘉介  
上路雅子                              本間正充
- ・評価第一部会  
上路雅子（座長）                      津田修治                      山崎浩史  
赤池昭紀（座長代理）              福井義浩                      義澤克彦  
相磯成敏                              堀本政夫                      若栗 忍
- ・評価第二部会  
吉田 緑（座長）                      桑形麻樹子                      藤本成明  
松本清司（座長代理）              腰岡政二                      細川正清  
泉 啓介                              根岸友恵                      本間正充

・評価第三部会

三枝順三（座長）	小野 敦	永田 清
納屋聖人（座長代理）	佐々木有	八田稔久
浅野 哲	田村廣人	増村健一

・評価第四部会

西川秋佳（座長）	代田真理子	森田 健
長野嘉介（座長代理）	玉井郁巳	山手丈至
川口博明	根本信雄	與語靖洋

1

2 <第 19 回農薬専門調査会評価第二部会専門参考人名簿>

小澤正吾	長尾哲二
------	------

3

4 <第 20 回農薬専門調査会評価第二部会専門参考人名簿>

小澤正吾	長尾哲二
------	------

5

6 <第 90 回農薬専門調査会幹事会専門参考人名簿>

小澤正吾	林 真
------	-----

7

8

## 要 約

カルボキシアミド系の殺菌剤「フルキサピロキサド」（CAS No. 907204-31-3）について、各種試験成績等を用いて食品健康影響評価を実施した。

評価に用いた試験成績は、動物体内運命（ラット、ヤギ及びニワトリ）、植物体内運命（小麦、トマト等）、作物残留、亜急性毒性（ラット、マウス及びイヌ）、亜急性神経毒性（ラット）、慢性毒性（イヌ）、慢性毒性/発がん性併合（ラット）、発がん性（マウス）、2 世代繁殖（ラット）、発生毒性（ラット及びウサギ）、遺伝毒性等の試験成績である。

各種毒性試験結果から、フルキサピロキサド投与による影響は主に肝臓（小葉中心性肝細胞肥大：ラット<sup>西川専門委員修文</sup>）、脂肪化：マウス、肝細胞色素沈着（鉄陽性）：イヌ）、甲状腺（ろ胞細胞肥大/過形成：ラット）、骨（骨化過剰：ラット及びマウス<sup>西川専門委員修文</sup>）及び歯（白変：ラット及びマウス）に認められた。繁殖能に対する影響、催奇形性及び生体にとって問題となるような遺伝毒性は認められなかった。

2 年間慢性毒性/発がん性併合試験では、肝臓において、3,000 ppm 投与群の雄で肝細胞癌、3,000 ppm 投与群の雌で肝細胞腺腫、肝細胞腺腫及び癌の合計、1,500 ppm 以上投与群の雄で肝細胞腺腫、肝細胞腺腫及び癌の合計が有意に増加し、

長野専門委員修文案

3,000 ppm 投与群の雄で肝細胞癌、3,000 ppm 投与群の雌で肝細胞腺腫、1,500 ppm 以上投与群の雄で肝細胞腺腫、肝細胞腺腫及び癌の合計

西川専門委員修文案

1,500 ppm 以上投与群の雄及び 3,000 ppm 投与群の雌で肝細胞腫瘍

甲状腺において、ろ胞腺腫<sup>西川専門委員修文</sup>及び癌の合計が 3,000 ppm 投与群の雄で増加したが、メカニズム試験及び遺伝毒性試験の結果から、腫瘍発生機序は遺伝毒性メカニズムによるものとは考え難く、評価に当たり閾値を設定することは可能であると考えられた。

ラットを用いた 90 日間亜急性毒性試験の雄、90 日間亜急性神経毒性試験の雌及び 2 世代繁殖試験の親動物の雌雄では無毒性量が設定できなかったが、これらに比し、より低用量かつ長期間行われたラットを用いた 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験では無毒性量 2.1 mg/kg 体重/日が得られており、2.1 mg/kg 体重/日がラットの無毒性量として妥当と考えられた。

以上より、食品安全委員会農薬専門調査会は、各試験で得られた無毒性量のうち最小値はラットを用いた 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験の無毒性量 2.1 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.021 mg/kg 体重/日を一日摂取許容量（ADI）と設定した。

1

**【西川専門委員より】**

中心性肝細胞肥大：マウスにもみられます。削除？

肝細胞色素沈着（鉄陽性）、イヌ：鉄反応は不明ですが、ラットでも色素沈着がみられます。

2

3

1 **I. 評価対象農薬の概要**

2 **1. 用途**

3 殺菌剤

4

5 **2. 有効成分の一般名**

6 和名：フルキサピロキサド

7 英名：Fluxapyroxad

8

9 **3. 化学名**

10 **IUPAC**

11 和名：3-(ジフルオロメチル)-1-メチル-*N*-(3',4',5'-トリフルオロビフェニル

12 -2-イル)ピラゾール-4-カルボキサミド

13 英名：3-(difluoromethyl)-1-methyl-*N*-(3',4',5'-trifluorobiphenyl

14 -2-yl)pyrazole-4-carboxamide

15

16 **CAS (No. 907204-31-3)**

17 和名：3-(ジフルオロメチル)-1-メチル-*N*-(3',4',5'-トリフルオロ

18 [1,1'-ビフェニル]-2-イル)-1*H*ピラゾール-4-カルボキサミド

19 英名：3-(difluoromethyl)-1-methyl-*N*-(3',4',5'-trifluoro

20 [1,1'-biphenyl]-2-yl)-1*H*pyrazole-4-carboxamide

21

22 **4. 分子式**

23  $C_{18}H_{12}F_5N_3O$

24

25 **5. 分子量**

26 381.3

27

28 **6. 構造式**

29

30

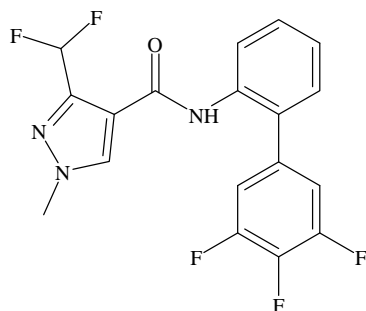
31

32

33

34

35



36

37

7. 開発の経緯

フルキサピロキサドは、BASF 社によって開発されたカルボキサミド系の殺

- 1 菌剤で、ミトコンドリア内呼吸鎖複合体Ⅱに作用し殺菌効果を示すと考えられて
- 2 いる。
- 3 日本では農薬として登録されておらず、米国及び欧州では農薬として登録され
- 4 ている。
- 5 今回、インポートトレランス設定の要請（大豆、小麦等）がなされている。
- 6

## 11 II. 安全性に係る試験の概要

12 インポートトレランス設定要請に係る資料、米国資料（2012 年）及び EU 資料  
13 （2012 年）を基に、毒性に関する主な科学的知見を整理した。（参照 1～62）

14 各種運命試験 [II. 1～4] はフルキサピロキサドのピラゾール環 4 位の炭素を  
15  $^{14}\text{C}$  で標識したもの（以下「[pyr- $^{14}\text{C}$ ] フルキサピロキサド」という。）、アニリ  
16 ンのフェニル基を  $^{14}\text{C}$  で均一に標識したもの（以下「[phe- $^{14}\text{C}$ ] フルキサピロキサ  
17 ド」という。）、トリフルオロフェニル基のフェニル基を  $^{14}\text{C}$  で均一に標識した  
18 もの（以下「[tri- $^{14}\text{C}$ ] フルキサピロキサド」という。）を用いて実施された。放  
19 射能濃度及び代謝物濃度は、特に断りがない場合は比放射能（質量放射能）から  
20 フルキサピロキサドに換算した値（mg/kg 又は  $\mu\text{g/g}$ ）を示した。代謝物/分解物略  
21 称及び検査値等略称は別紙 1 及び 2 に示されている。

### 12 1. 動物体内運命試験

#### 13 (1) ラット

##### 14 ①吸収

##### 15 a. 血中濃度推移

16 Wistar ラット（一群雌雄各 4 匹）に [phe- $^{14}\text{C}$ ] フルキサピロキサドを 5、50  
17 又は 500 mg/kg 体重で単回経口投与し、血中濃度推移について検討された。

18 各投与群における血漿中薬物動態学的パラメータは表 1 に示されている。

19 AUC は 500 mg/kg 体重では雌の方が雄よりも高値を示した。（参照 1、2）

20 表 1 血漿中薬物動態学的パラメータ

投与量 性別	5 mg/kg 体重		50 mg/kg 体重		500 mg/kg 体重	
	雄	雌	雄	雌	雄	雌
$C_{\max}$ ( $\mu\text{g/g}$ )	1.85	1.57	13.4	11.8	65.3	66.1
$T_{\max}$ (hr)	1	1	8	8	24	24
$T_{1/2\text{ter}}$ (hr)	34.3	30.1	37.2	36.0	53.2	38.5
AUC (hr · $\mu\text{g/g}$ )	45.4	35.7	435	532	4,220	5,670

##### 21 b. 吸収率

22 胆汁中排泄試験 [1. (1)④b] の尿、胆汁及び組織中の放射能から推定した吸  
23 収率は、少なくとも 72%であった。（参照 1、2）

##### 24 ②分布

25 Wistar ラット（一群雌雄各 3 又は 4 匹）に [phe- $^{14}\text{C}$ ] フルキサピロキサドを  
26 7.5 mg/kg 体重（以下 [1. (1)] において「低用量」という。）若しくは 150  
27 mg/kg 体重（以下 [1. (1)] において「高用量」という。）で単回経口投与、又  
28 は低用量のフルキサピロキサドを 14 日間反復経口投与後、15 日目に [phe- $^{14}\text{C}$ ]

フルキサピロキサドを高用量で単回経口投与（以下 [1. (1)] において「14 日間反復投与」という。）し、体内分布試験が実施された。

単回投与群の主要組織における残留放射能濃度は表 2 に示されている。

消化管以外では、胃、副腎、肝臓及び甲状腺で高い放射能分布が認められた。また、投与 48、72 又は 80 時間後では、約 90%TAR 以上が排泄された。なお、この場合は組織中放射能濃度は多くの組織で血漿中よりも低値を示した。

永田専門委員修文

投与 168 時間後の組織中の残留放射能の合計は 0.25～0.68%TAR と僅かであった。（参照 1、2）

表 2 単回投与群の主要組織における残留放射能濃度 (µg/g)

投与量	性別	C <sub>max</sub> 付近 <sup>a</sup>	48、72 又は 80 時間後 <sup>b</sup>
7.5 mg/kg 体重	雄	胃内容物(119)、腸内容物(34.5)、胃(34.2)、副腎(13.6)、肝臓(11.9)、甲状腺(9.91)、腸(9.51)、膵臓(5.91)、腎臓(4.98)、脂肪組織(4.80)、心臓(4.40)、肺(3.98)、脳(2.96)、骨髄(2.61)、皮膚(2.41)、脾臓(2.39)、血漿(2.28)	腸内容物(7.52)、腸(1.02)、肝臓(0.57)、甲状腺(0.37)、腎臓(0.17)、副腎(0.17)、血漿(0.12)
	雌	胃内容物(264)、腸内容物(42.3)、胃(33.3)、副腎(21.0)、肝臓(13.7)、腸(12.2)、甲状腺(10.7)、膵臓(9.30)、脂肪組織(6.82)、卵巣(6.61)、肺(6.13)、腎臓(5.80)、心臓(5.10)、脳(4.45)、皮膚(4.09)、残部体組織(3.79)、骨髄(3.23)、脾臓(3.10)、筋肉(2.51)、血漿(2.15)	腸内容物(13.3)、腸(2.04)、脂肪組織(0.90)、肝臓(0.85)、副腎(0.52)、甲状腺(0.48)、卵巣(0.44)、腎臓(0.30)、胃(0.29)、膵臓(0.28)、骨髄(0.23)、血漿(0.22)
150 mg/kg 体重	雄	腸内容物(843)、胃内容物(798)、胃(143)、腸(84.4)、肝臓(38.1)、脂肪組織(33.4)、副腎(18.4)、甲状腺(17.0)、血漿(14.5)	腸内容物(26.8)、肝臓(7.94)、腎臓(2.88)、甲状腺(1.98)、腸(1.52)、血漿(1.06)
	雌	胃内容物(7,730)、腸内容物(1,060)、胃(369)、腸(188)、肝臓(72.3)、脂肪組織(70.8)、副腎(53.1)、甲状腺(52.7)、膵臓(38.6)、卵巣(36.8)、腎臓(24.6)、心臓(23.5)、血漿(23.4)	腸内容物(169)、胃内容物(42.3)、腸(16.8)、肝臓(11.5)、血漿(3.93)

<sup>a</sup> : 低用量群は投与 1 時間後、高用量群では投与 16 時間後

<sup>b</sup> : 低用量群は投与 48 時間後、高用量群の雄は 72 時間後、雌は 80 時間後

### ③代謝

排泄試験 [1. (1)④] で得られた尿、糞及び胆汁、並びに Wistar ラット（一群雌雄各 4 匹）に [phe-<sup>14</sup>C] フルキサピロキサド又は [pyr-<sup>14</sup>C] フルキサピロキサド

1 サドを低用量又は高用量で単回経口投与して得られた尿、糞、肝臓、腎臓、血  
2 漿及び脂肪を用いて、代謝物同定・定量試験が実施された。

3 各投与群の尿及び糞中の代謝物は表 3 に示されている。

4 尿中には未変化のフルキサピロキサドは認められず、抱合体を含む多数の代  
5 謝物が認められた。糞中には未変化のフルキサピロキサド及び 7 種の代謝物が  
6 検出され、尿及び糞で認められた主要な代謝物に性別、投与量及び投与回数に  
7 よる差は認められなかったが、代謝物の組成には投与量と雌雄間で量的変動が  
8 認められた。胆汁中には未変化のフルキサピロキサドは認められず、ほとんど  
9 がグルクロン酸又はグルタチオン由来の抱合体であった。

10 [pyr-<sup>14</sup>C] フルキサピロキサド投与群において、低用量では 1 時間後、高用量  
11 では 16 時間後の肝臓、腎臓、血漿及び脂肪中に認められた未変化体のフルキサ  
12 ピロキサドは、低用量群の雌雄の肝臓で 3.03～3.66%**TAR**、高用量群及び低用  
13 量群の雌の脂肪で 1.55～2.72%**TAR** 認められたほかはいずれも 0.5%**TAR** 以下  
14 と僅かであった。組織中に認められた代謝物はいずれも 1%**TAR** 未満と僅かで  
15 あり、尿、糞及び胆汁中に認められた代謝物と同様であった。

16 フルキサピロキサドのラット体内における主な代謝経路は、①ビフェニル環  
17 の水酸化、②ビフェニル環のフッ素原子の消失、③ピラゾール環の N-脱メチル  
18 化、④ 水酸基のグルクロン酸、グルタチオン誘導体又は硫酸との抱合、である  
19 と考えられた。（参照 1、3）

21 表 3 各投与群の尿、糞及び胆汁中の代謝物 (%**TAR**)

標識化合物	群	投与量	性別	試料	投与後時間	フルキサピロキサド	代謝物
[phe- <sup>14</sup> C]	単回	7.5 mg/kg 体重	雄	尿	120	n.d.	F014(3.09)、F004(1.61)、F015(1.41)、F005/F024(1.12)、F009/F028(1.03)、F020(0.13)、F023(0.03)
			雌			n.d.	F014(8.60)、F009(3.70)、F004(0.63)、F061(0.63)、F015(0.45)、F020(0.20)、F011(0.14)、F016(0.07)
			雄	糞	144	2.51	F009(22.2)、F006(13.3)、F016(11.8)、F005(9.44)、F010(4.83)、F024(2.90)、F008(0.61)
			雌			3.32	F009(53.0)、F005(8.70)、F006(3.42)、F016(3.31)、F024(3.13)、F010(2.34)、F008(1.69)
			雄	胆汁	72	n.d.	F004(14.0)、F009/F125(9.85)、F005/F024(9.83)、F014/F122(5.41)、F015/F123(3.27)、F118(3.14)、F117(2.20)、F120/F121(1.73)、F113(1.26)、F006(0.97)、F042(0.73)、F115/F116(0.61)、F032(0.37)、

						F124(0.24)			
			雌		n.d.	F014/F122(22.0)、F009/F125(13.2)、F004(10.8)、F005/F024(4.23)、F015/F123(3.91)、F117(1.59)、F042(1.26)、F113(1.25)、F118(0.85)、F115/F116(0.33)、F006(0.16)、F120/F121(0.14)、F124(0.06)、F032(0.03)			
[phe- <sup>14</sup> C]	単回	150 mg/kg 体重	雄	尿	96	n.d.	F005/F024(0.76)、F009/F028(0.51)、F014(0.40)、F015(0.40)、F004(0.30)、F016(0.10)、F023(0.01)		
雌			n.d.			F009(3.34)、F014(2.26)、F061(1.22)、F004(0.39)、F015(0.17)、F011(0.08)、F020(0.05)、F016(0.02)			
雄			糞	96	43.8	F009(7.63)、F006(6.69)、F016(5.43)、F005(3.53)、F024(2.62)、F010(2.49)			
雌					33.6	F009(18.2)、F024(4.90)、F005(4.50)、F006(4.45)、F016(2.91)、F010(2.26)、F008(0.55)			
[phe- <sup>14</sup> C]			雄	胆汁	60	n.d.	F004(21.2)、F014/F122(9.64)、F015/F123(6.66)、F009/F125(4.18)、F117(3.80)、F005/F024(3.36)、F118(3.01)、F113(2.20)、F120/F121(1.98)、F115/F116(0.75)、F042(0.32)、F006(0.18)、F032(0.11)		
雌			72			n.d.	F004(19.5)、F014/F122(10.9)、F015/F123(10.1)、F113(8.63)、F009/F125(7.25)、F005/F024(4.58)、F117(4.32)、F118(1.10)、F120/F121(0.95)、F115/F116(0.71)、F006(0.31)、F124(0.31)、F042(0.26)、F032(0.25)		
[phe- <sup>14</sup> C]			単回	150 mg/kg 体重	雄	尿	168	n.d.	F014(0.94)、F015(0.82)、F004(0.58)、F009/F028(0.55)、F005/F024(0.39)、F016(0.25)、F020(0.09)、F011(0.04)、F023(0.01)
雌					n.d.			F014(2.86)、F009(1.35)、F015(0.62)、F004(0.25)、F061(0.23)、F011(0.06)、F020(0.06)	
雄	糞	30.2			F009(11.4)、F006(7.13)、F016(6.89)、F005(5.49)、F010(3.14)、F024(2.22)、F008(0.78)				
雌		23.4			F009(19.2)、F006(5.47)、F024(5.01)、F005(4.94)、F010(2.41)、F016(1.98)、F008(0.90)				
[pyr- <sup>14</sup> C]			雄	尿	168	n.d.	F014(1.20)、F004(0.72)、F015(0.71)、F009/F028(0.56)、F001(0.20)、F005/F024(0.16)、F002(0.07)、		

						F011(0.07)、F020(0.06)、 F026/F027(0.06)、 F023(0.04)、 F016(0.03)、 F025(0.01)	
			雌		n.d.	F014(4.82)、 F015(0.97)、 F009(0.84)、 F004(0.82)、 F061(0.23)、 F001(0.12)、 F011(0.05)、 F016(0.05)、 F002(0.04)、 F020(0.04)	
			雄	糞	96	18.6	F009(14.1)、 F006(9.16)、 F016(8.72)、 F005(6.08)、 F010(3.91)、 F024(2.58)、 F008(1.09)
			雌		168	26.3	F009(22.5)、 F005(6.82)、 F006(5.88)、 F024(4.54)、 F010(2.43)、 F016(2.24)、 F008(1.12)
[phe- <sup>14</sup> C]	反復	150 mg/ kg 体重	雄	尿	120	n.d.	F015(2.14)、 F014(0.99)、 F005/F024(0.82)、 F004(0.58)、 F009/F028(0.42)、 F020(0.27)、 F011(0.18)、 F016(0.04)
			雌				n.d.
			雄	糞		30.5	F016(9.46)、 F009(8.95)、 F006(7.76)、 F024(3.40)、 F010(3.23)、 F005(2.72)、 F008(0.34)
			雌			30.7	F009(10.6)、 F024(7.30)、 F006(6.20)、 F005(5.22)、 F016(4.17)、 F010(1.86)、 F008(0.34)

1 n.d. : 検出されず

2 [phe-<sup>14</sup>C] : [phe-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサド [pyr-<sup>14</sup>C] : [pyr-<sup>14</sup>C] フルキサピロキサド

3

#### 4 ④排泄

##### 5 a 尿及び糞中排泄

6 Wistar ラット（一群雌雄各 4 匹）に[phe-<sup>14</sup>C] フルキサピロキサドを低用量  
7 若しくは高用量で単回経口投与又は高用量で反復経口投与し、尿、糞及び呼気  
8 中排泄試験が実施された。

9 投与後 72 時間（単回投与群）及び投与後 168 時間（反復投与群）の尿及び糞  
10 中排泄率は表 4 に示されている。

11 単回投与群では投与後 72 時間で 87.3～108%TAR、反復投与群では投与後  
12 168 時間で 93.2%TAR 以上が尿及び糞中へ排泄され、主要排泄経路は糞中であ  
13 った。

14 単回投与群の雄 2 匹について、投与 48 時間後の呼気中の放射能濃度が測定さ  
15 れたが、呼気中への排泄率はいずれも 2%TAR 未満と僅かであった。（参照 1、  
16 2）

17

18

1 表 4 投与後 72 時間（単回投与群）及び投与後 168 時間（反復投与群）  
2 の尿及び糞中排泄率（%TAR）

群	単回				反復	
	7.5 mg/kg 体重		150 mg/kg 体重		150 mg/kg 体重	
投与量	雄	雌	雄	雌	雄	雌
尿	9.72	16.0	3.22	8.31	6.82	9.39
糞	87.5	91.9	84.1	81.6	86.4	84.4
排泄合計	97.2	108	87.3	89.9	93.2	93.8
組織残留 <sup>a</sup>	0.69	0.67	0.26	0.30	0.45	0.41
合計	98.8	110	88.4	91.0	94.3	95.2

3 <sup>a</sup>：投与 168 時間後の脳、心臓、脂肪組織、肝臓、肺、筋肉、胃/内容物、腸/内容物、脾臓、腎臓、膵  
4 臓、甲状腺、副腎、精巣、卵巣、子宮、皮膚、骨、骨髄、血球、血漿及びカーカス<sup>1</sup>

5  
6 **b. 胆汁中排泄**

7 胆管カニューレを挿入した Wistar ラット（一群雌雄各 4 匹）に[phe-<sup>14</sup>C] フ  
8 ルキサピロキサドを低用量又は高用量で単回経口投与し、胆汁中排泄試験が実  
9 施された。

10 投与後 72 時間の尿、糞及び胆汁中排泄率は表 5 に示されている。

11 放射能は投与後 72 時間で 70.8～82.3%TAR が尿、糞及び胆汁中へ排泄され、  
12 胆汁を介した糞中が主要排泄経路であると考えられた。

13 胆汁中への排泄は、雄で投与後 48 時間に 58.2～53.6%TAR、雌で 49.4～  
14 56.6%TAR であった。（参照 1、2）

15  
16 表 5 投与後 72 時間の尿、糞及び胆汁中排泄率（%TAR）

投与量	7.5 mg/kg 体重		150 mg/kg 体重	
	雄	雌	雄	雌
尿	11.5	20.6	3.08	2.94
糞	3.29	5.01	18.8	16.2
胆汁	56.0	55.8	58.9 <sup>a</sup>	63.2
排泄合計	70.8	81.4	80.8	82.3
胃腸管合計 <sup>b</sup>	8.62	6.39	13.4	5.54
カーカス	3.88	2.99	2.21	0.95
合計	83.3	90.8	96.4	88.8

17 <sup>a</sup>：高用量群の雄では投与後 60 時間の胆汁が測定された。

18 <sup>b</sup>：胃内容物、胃、腸内容物及び腸の合計

19  
20 **（2）畜産動物（ヤギ）**

21 泌乳期ヤギ（Deutsche Bunte Edelziege 系、一群雌 2 頭）に[phe-<sup>14</sup>C] フル  
22 キサピロキサド又は[pyr-<sup>14</sup>C] フルキサピロキサドを 8 日間反復強制経口（原  
23 体：[phe-<sup>14</sup>C] フルキサピロキサドで 0.42 mg/kg 体重、[pyr-<sup>14</sup>C] フルキサピロ

<sup>1</sup> 組織・臓器を取り除いた残渣のことをカーカスという（以下、同じ）。

キサドで 0.41 mg/kg 体重) 投与し、動物体内運命試験が実施された。

投与後 8 日の乳汁及び最終投与 23 時間後の組織における総残留放射能濃度並びに代謝物は表 6 に示されている。

乳汁中の残留放射能濃度は、投与 8 日後まで 0.008~0.042 µg/g の範囲で推移した。肝臓では抽出残渣に 68.4~74.4%TRR の放射能が検出されたが、加水分解後に代謝産物の分析を行ったところ、先に(表 6)同定された代謝物は認められなかった。永田専門委員修文

投与後 8 日の尿及び糞中への排泄率は、79.8~83.3%TAR であり、約 60%TAR が糞中へ排泄された。

尿、糞及び胆汁中の総残留放射能濃度及び代謝物は表 7 に示されている。

フルキサピロキサドの主な代謝経路はラットと同様で、ピラゾール環の脱メチル化及びビフェニル環の水酸化であり、その後、脱メチル化、酸化抱合化を受けると考えられた。標識化合物による代謝物の差はほとんど認められなかった。(参照 1、4、5)

【永田専門委員より】

この表現で良いでしょうか。

【事務局より】

表 6 では、加水分解前までをまとめておりますので、先生のご指摘のとおりです。

表 6 投与後 8 日の乳汁及び最終投与 23 時間後の組織における総残留放射能濃度並びに代謝物

標識化合物	試料	総残留放射能濃度 (µg/g)	フルキサピロキサド (%TRR)	代謝物 (%TRR)	抽出残渣 (%TRR)
[phe- <sup>14</sup> C]	肝臓	0.348	3.2	F008(16.7)、F005(6.4)、F009(2.3)、F004(1.9)、F010/F040(0.7)	76.6
	腎臓	0.036	7.0	F008(25.6)、F004(13.1)、F038/F039/F111(9.0)、F034/F036(5.2)、F005/F024(5.2)、F015(5.2)、F014(3.5)、F010/F040(3.1)、F046/F047(3.1)、F009(2.0)	16.5
	筋肉	0.007	12.0	F008(54.7)	22.9
	脂肪	0.021	43.6	F008(25.9)、F005/F024(3.4)	不明
	乳汁	0.011	13.0	F008(23.9)、F010/F040(12.3)、F009(5.5)	2.8
[pyr- <sup>14</sup> C]	肝臓	0.555	3.7	F008(12.8)、F005(8.3)、F004(2.6)、F009(2.5)	68.4
	腎臓	0.078	5.4	F008(22.5)、F005/F024(19.2)、F004(12.3)、F038/F039/F111(5.1)、F034/F036(4.9)、F046/F047(4.4)、F015(4.1)、F010/F040(4.0)、F009(3.6)、F014(3.0)	8.5
	筋肉	0.009	n.d.	F008(82.9)	11.5
	脂肪	0.025	34.1	F008(25.8)、F005/F024(13.7)、F004(6.1)、	10.1

				F010/F040(3.7)	
	乳汁	0.017	19.8	F008(25.4)、F010/F040(15.0)、F009(5.7)	4.9

1 n.d. : 検出されず / : なし  
 2 [phe-<sup>14</sup>C] : [phe-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサド [pyr-<sup>14</sup>C] : [pyr-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサド

3  
4  
5

表 7 尿、糞及び胆汁中の総残留放射能濃度及び代謝物

標識化合物	試料	総残留放射能濃度 (μg/g)	フルキサピロキサド (%TRR)	代謝物 (%TRR)	抽出残渣 (%TRR)
[phe- <sup>14</sup> C]	尿 <sup>a</sup>	1.86	n.d.	F008/F006(35.8)、F005/F024(32.6)、F046/F047(9.3)、F009(8.8)、F041/F042/F043/F044(2.6)、F010/F040(2.6)、F038/F039/F111(2.5)、F034/F036(1.3)	
	糞 <sup>a</sup>	1.92	4.0	F005/F024(35.1)、F009(20.2)、F008/F006(9.5)、F010(2.7)、F033(1.9)	18.6
	胆汁 <sup>b</sup>	7.33	n.d.	F004(55.3)、F014(25.1)、F015(10.2)、F112(0.8)	
[pyr- <sup>14</sup> C]	尿 <sup>a</sup>	4.28	n.d.	F005/F024(34.4)、F008/F006(13.7)、F046/F047(10.3)、F009(8.4)、F034/F036(6.2)、F010/F040(3.0)、F038/F039/F111(2.8)、F004(1.3)	
	糞 <sup>a</sup>	1.76	2.0	F005/F024(50.5)、F009(18.0)、F008/F006(7.8)、F010(3.8)、F033(1.4)	16.8
	胆汁 <sup>b</sup>	6.56			

6 注) 尿及び胆汁試料は抽出せずに分析された。  
 7 n.d. : 検出されず a : 投与後 8 日の試料 b : 最終投与 23 時間後に採取  
 8 [phe-<sup>14</sup>C] : [phe-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサド [pyr-<sup>14</sup>C] : [pyr-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサド

9

10 (3) 畜産動物 (ニワトリ)

11 産卵期ニワトリ (褐色レグホン、一群雌 12 羽) に [phe-<sup>14</sup>C] フルキサピロキサドを 12 日間反復強制経口 (原体 : 0.76 mg/kg 体重) 投与し、動物体内運命  
 12 試験が実施された。

13 最終投与 23 時間後の組織中総残留放射能は、肝臓で 0.238 μg/g  
 14 (0.06%TAR)、胃腸管内容物及び胃腸管組織で 0.795 μg/g (0.22%TAR) 及び  
 15 0.152 μg/g (0.09%TAR) と高い残留が認められた。血液、腿肉、胸肉及び脂肪  
 16 中の残留放射能は、0.010~0.060 μg/g (0.02%TAR 以下) であった。卵は投与  
 17 12 日後まで 0.004~0.079 μg/g の範囲で推移し、投与 12 日後が最大であった。

18 組織及び卵中の残留放射能濃度及び代謝物は表 8 に示されている。

19 投与後 12 日後の排泄物中に 86.1%TAR が回収され、放射能の成分には未変  
 20 化のフルキサピロキサド及び組織中に認められた代謝物と同様な代謝物が検出  
 21

1 された。（参照 1、6、7）

2

3

表 8 組織及び卵中の総残留放射能濃度及び代謝物

試料	総残留放射能濃度 (µg/g)	フルキサピロキサド		代謝物 (%TRR)	抽出残渣 (%TRR)
		(µg/g)	(%TRR)		
肝臓	0.210	0.002	1.0	F024(7.3)、F009/F038(5.6)、F063(5.0)、F005(4.4)、F008/F016(4.3)、F047(1.7)	4.7 <sup>a</sup>
腿肉	0.010	0.0011	17.6	F008/F016(25.7)、F005(4.3)	27.5
脂肪	0.059	0.023	63.3	F008(25.3)、F005(1.7)	0.3
卵	0.077	0.009	13.5	F008 (49.9)、F005(7.6)、F009/F038(5.7)、F004(4.8)	9.0

4 注) 組織は最終投与 23 時間後に採取、卵は投与後 7~12 日後に採取され均質化された。

5 <sup>a</sup>: 抽出残渣をプロナーゼ処理した最終残渣

6

## 7 2. 植物体内運命試験

### 8 (1) トマト

9 トマト（品種：Cedel）をポットに移植し、生育期に乳剤に調製した[phe-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサド又は[pyr-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサドを約 100 g ai/ha の用量  
10 で植え付け 55、62 及び 69 日後の計 3 回葉面処理し、最終処理 3 日後の茎葉及  
11 び成熟果実を採取して、植物体内運命試験が実施された。

12 最終処理 3 日後の試料中の総残留放射能及び代謝物は表 9 に示されている。  
13 茎葉及び果実中で 10%TRR を超えて認められた代謝物は存在しなかった。（参  
14 照 1、8）

15

16

17

表 9 最終処理 3 日後の試料中の総残留放射能及び代謝物

標識化合物	試料	総残留放射能濃度 (mg/kg)	フルキサピロキサド (%TRR)	代謝物 (%TRR)	抽出残渣 (%TRR)
[phe- <sup>14</sup> C]	茎葉	6.70	90.1	F008(2.7)、F075/F076(1.4)、F048(0.8)	1.7
	果実	0.166	94.4	F008(1.4)	1.7
[pyr- <sup>14</sup> C]	茎葉	4.46	92.0	F008(2.8)、F075/F076(0.1)	1.4
	果実	0.112	98.5	n.d.	0.8

18 n.d.: 検出されず

19 [phe-<sup>14</sup>C] : [phe-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサド [pyr-<sup>14</sup>C] : [pyr-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサド

20

### 21 (2) だいず

22 だいず（品種：Pioneer 9091）をポットに移植し、乳剤に調製した[phe-<sup>14</sup>C]  
23 フルキサピロキサド又は[pyr-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサドを約 600 g ai/ha の用量  
24 で播種 143、150 及び 164 日後の計 3 回葉面処理し、1 回目処理直後、2 回目処  
25 理 14 日後、最終処理 22、29 及び 34 日後に試料を採取して、植物体内運命試

- 1 験が実施された。
- 2 各試料中の総残留放射能及び代謝物は表 10 に示されている。
- 3 種皮及び子実の抽出残渣の可溶化処理によって、種皮からは未変化のフルキ
- 4 サピロキサドが 0.2～1.5%TRR 検出された。だいた子実における主要代謝物と
- 5 して [phe-<sup>14</sup>C] フルキサピロキサド処理区で F048 が 19.9%TRR (0.023
- 6 mg/kg)、[pyr-<sup>14</sup>C] フルキサピロキサド処理区で F002 が 33.4%TRR (0.087
- 7 mg/kg) 認められた。(参照 1、9)

8

9

表 10 各試料中の総残留放射能及び代謝物

標識化合物	試料	採取日 (処理後 日数)	総残留 放射能 濃度 (mg/kg)	フルキ サピロ キサド (%TRR)	代謝物 (%TRR)	抽出 残渣 (%TRR)
[phe- <sup>14</sup> C]	青刈り 茎葉	1 回目処理 直後	6.41	97.7	F006/F008(0.6)	1.0
	青刈り 茎葉	2 回目処理 14 日後	5.09	93.8	F006/F008(1.2)、F048(0.6)	2.9
	落葉	3 回目処理 22-34 日後	61.2	88.6	F048(1.6)、F006/F008(0.9)	4.1
	わら	3 回目処理 34 日後	1.01	92.5	F048(0.8)、F006/F008(0.8)	4.9
	種皮		2.74	62.6	F006/F008(4.2)、F048(2.6)	19.0
	子実		0.115	21.2	F048(19.9)、 F006/F008(4.0)	22.3
[pyr- <sup>14</sup> C]	青刈り 茎葉	1 回目処理 直後	4.37	97.6	F006/F008(1.5)	0.8
	青刈り 茎葉	2 回目処理 14 日後	4.67	91.7	F006/F008(2.4)、F048(1.2)	3.1
	落葉	3 回目処理 22-34 日後	54.3	86.4	F048(2.2)、F006/F008(1.1)	4.8
	わら	3 回目処理 34 日後	0.837	89.5	F006/F008(1.2)	6.7
	種皮		2.24	53.8	F006/F008(5.5)、 F048(3.2)、F002(2.0)	21.4
	子実		0.260	7.4	F002(33.4)、F048(8.8)、 F006/F008(1.0)	7.7

10 n.d. : 検出されず

11 [phe-<sup>14</sup>C] : [phe-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサド [pyr-<sup>14</sup>C] : [pyr-<sup>14</sup>C] フルキサピロキサド

12

### 13 (3) 小麦①

14 春小麦 (品種 : Thasos) をポットに播種し、懸濁液に調製した 上路専門委員

15 修文 [phe-<sup>14</sup>C] フルキサピロキサド若しくは [pyr-<sup>14</sup>C] フルキサピロキサドを

16 125 g ai/ha の用量で播種 42 及び 91 日後の計 2 回茎葉に噴霧処理し、1 回目処

17 理 36 日後、2 回目処理 4 日後及び 2 回目処理 34 又は 35 日後に試料を採取して

18 植物体内運命試験が実施された。

- 1 各試料中の総残留放射能及び代謝物は表 11 に示されている。  
 2 各試料中に 10%TRR を超える代謝物は認められなかった。もみ殻及び子実の  
 3 抽出残渣の可溶化処理によって、もみ殻の抽出残渣からは未変化のフルキサピ  
 4 ロキサドが 1.9~4.3%TRR 検出された。（参照 1、10）  
 5

【上路専門委員より】  
 理解できません。どのような懸濁液か不明であれば、削除した方が良いと判断しました。

- 6  
 7

表 11 各試料中の総残留放射能及び代謝物

標識化合物	試料	採取日 (処理後 日数)	総残留放射能濃度 (mg/kg)	フルキサピロキサド (%TRR)	代謝物 (%TRR)	抽出残渣 (%TRR)
[phe- <sup>14</sup> C]	青刈り 茎葉	1 回目 処理 36 日後	0.885	91.3	F008/F043/F041/F006(4.2)、 F048/F057(0.5)、F074(0.3)、 F042/F024/F005(0.3)、 F058(0.3)、F059/F060(0.2)	2.9
	乾燥 茎葉	2 回目 処理 4 日後	10.2	89.4	F008/F043/F041/F006(2.4)、 F048/F057(0.5)、 F042/F024/F005(0.3)、 F134/F133(0.3)、F074(0.2)、 F058(0.2)、F059/F060(0.1)	2.3
	わら	2 回目 処理 35 日後	19.3	83.8	F008/F043/F041/F006(2.8)、 F042/F024/F005(0.7)、 F048/F057(0.6)、F074(0.3)、 F058(0.3)、F059/F060(0.3)、 F134/F133(0.3)、 F131/F041/F0130/F058(0.2)	5.4
	もみ殻		6.73	80.1	F008/F043/F041/F006(6.2)、 F048/F057(0.6)、 F042/F024/F005(0.6)、 F074(0.4)、F134/F133(0.4)、 F058(0.3)、F059/F060(0.1)、 F082(0.1)	7.3
	子実		0.045	63.0	F008/F043/F041/F006(6.5)、 F131/F041/F0130/F058(0.3)	24.5
[pyr- <sup>14</sup> C]	青刈り 茎葉	1 回目 処理 36 日後	1.06	87.3	F008/F043/F041/F006(5.8)、 F058(1.2)、F048/F057(1.1)、 F036/F132(0.6)、F074(0.6)、 F007/F002(0.5)	4.0
	乾燥 茎葉	2 回目 処理 4 日後	10.3	86.6	F008/F043/F041/F006(3.3)、 F048/F057(0.6)、 F042/F024/F005(0.6)、 F058(0.4)、F007/F002(0.3)、 F074(0.3)、F134/F133(0.2)、 F036/F132(0.1)、F082(0.1)、 F059/F060(0.1)	2.5

	わら		17.4	85.6	F008/F043/F041/F006(3.7)、 F042/F024/F005(0.7)、 F007/F002(0.5)、 F048/F057(0.5)、F058(0.4)、 F134/F133(0.4)、F074(0.3)、 F059/F060(0.2)、F082(0.2)、 F001(0.1)	5.2
	もみ殻	2 回目 処理 34 日後	7.40	76.2	F008/F043/F041/F006(5.8)、 F042/F024/F005(0.7)、 F134/F133(0.6)、 F007/F002(0.5)、 F048/F057(0.5)、F001(0.3)、 F074(0.2)、F082(0.2)、 F058(0.1)	12.3
	子実		0.057	60.2	F008/F043/F041/F006(6.5)、 F131/F041/F0130/F058(0.6)、 F007/F002(0.5)	15.4

1 [phe-<sup>14</sup>C] : [phe-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサド [pyr-<sup>14</sup>C] : [pyr-<sup>14</sup>C] フルキサピロキサド

2

3 (4) 小麦②

4 春小麦（品種：Thasos）の種子を懸濁液に調製した 上路専門委員修文 [phe-  
5 <sup>14</sup>C] フルキサピロキサド又は [pyr-<sup>14</sup>C] フルキサピロキサドを 0.75 g ai/kg 種子  
6 （135 g ai/ha に相当）で処理し、処理 1 日後にポットに播種し、処理 93、112  
7 及び 161 又は 162 日後に採取された試料を採取し、植物体内運命試験が実施さ  
8 れた。

9 各試料中の総残留放射能及び代謝物は表 12 に示されている。

10 [phe-<sup>14</sup>C] フルキサピロキサド処理区の処理 112 日の乾燥茎葉中に F008 が  
11 10.6%TRR 認められたほかに 10%TRR を超える代謝物は認められなかった。各  
12 試料中の抽出残渣の可溶化処理によって、最終残渣は 3.2～18.5%TRR となっ  
13 が、遊離した成分中で同定された化合物は認められなかった。（参照 1、11）

14

15

表 12 各試料中の総残留放射能及び代謝物

標識 化合物	試料	採取日 (処理後 日数)	総残留放 射能濃度 (mg/kg)	フルキサピ ロキサド (%TRR)	代謝物 (%TRR)	抽出 残渣 (%TRR)
[phe- <sup>14</sup> C]	青刈り 茎葉	処理 93 日後	0.285	78.8	F008(9.0)、F058(2.6) 、 F048/F057(2.0)、 F042/F005(1.5)、F074(1.2)、 F036(0.8)	4.1
	乾燥 茎葉	処理 112 日 後	1.12	70.8	F008(10.6)、F058(3.4)、 F074(2.0) 、 F048/F057(2.0)、F036(1.8)、 F042/ F005(1.0)	7.6
	わら	処理	1.67	63.1	F008(8.0)、F058(3.2) 、	12.3

		162 日 後			F048/F057(2.3)、F036(1.7)、 F074(1.1)	
	もみ殻		0.307	63.3	F008(9.5)、F042/ F005(0.7)、 F074(0.6)	25.9
	子実		0.019	16.8	F008(4.5)	61.0
[pyr- <sup>14</sup> C]	青刈り 茎葉	処理 93 日後	0.288	70.3	F008(8.4)、F058(3.3)、 F074(2.2)、F048/F057(2.0)、 F036(1.6)、F059 (1.2) 、 F042/ F005(0.8)	5.7
	乾燥 茎葉	処理 112 日 後	0.886	58.7	F008(8.1)、F058(3.6)、 F048/F057(3.5)、F036(1.9)、 F059(1.2)、F042/ F005(1.1)	10.1
	わら	処理 161 日 後	1.87	65.1	F008(6.1)、F058(4.2)、 F074(2.4)、F036(2.3)、 F048/F057(1.9)、F059 (1.5)	11.0
	もみ殻		0.261	58.3	F008(9.6)	19.8
	子実		0.032	7.1	F008(2.2)	64.1

1 n.d. : 検出されず

2 [phe-<sup>14</sup>C] : [phe-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサド [pyr-<sup>14</sup>C] : [pyr-<sup>14</sup>C] フルキサピロキサド

3

4 植物体中におけるフルキサピロキサドの代謝は①ピラゾール環の脱メチル化、  
5 ②カルボキサミド結合の加水分解により開裂、③ビフェニル分子の水酸化、④  
6 ピラゾール環メチル基の水酸化、⑤ピラゾール分枝の *N*-グルコシル化により代  
7 謝され、次いで、抱合体を形成すると考えられた。

8

9 **3. 土壌中運命試験**10 **(1) 好氣的土壌中運命試験①**

11 砂壤土（ドイツ）の土壌水分を最大容水量の 40%に調整し、常温暗所下で 3  
12 日間プレインキュベーションした後、[phe-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサド又は[pyr-<sup>14</sup>C]  
13 [pyr-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサドを 0.4 mg/kg 乾土（150 g ai/ha に相当）となるように  
14 処理し、加湿した CO<sub>2</sub> を通気した暗所下 20°Cで 120 日間インキュベートする  
15 好氣的土壌中運命試験が実施された。

16 推定半減期は、[phe-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサド処理区で 71.9 日、[pyr-<sup>14</sup>C]フル  
17 キサピロキサド処理区で 68.8 日であった。

18 処理 120 日後に未変化のフルキサピロキサドは、[phe-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサ  
19 ド処理区で 35.4%TAR、[pyr-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサド処理区で 30.7%TAR 認め  
20 られた。試験期間中に[phe-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサド処理区では分解物 F008 が  
21 最大で 1.2%TAR、[pyr-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサド処理区で分解物 F001、F002 及  
22 び F008 がそれぞれ最大で 12.1、38.5 及び 0.3%TAR 認められた。

23 フルキサピロキサドの吸着率はインキュベーション期間に相関して高くなり  
24 Freundlich の吸着係数 K<sub>ads</sub> は 6.85~29.1、有機炭素含有率により補正した吸着  
25 係数 K<sub>oc</sub> は 311~1,330 であった。（参照 1、12）

1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14  
15  
16  
17  
18  
19  
20  
21  
22  
23  
24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31**(2) 好氣的土壤中運命試験②**

砂壤土（ドイツ）を 2 週間常温暗所でプレインキュベーションした後、土壤水分を最大容水量の 40%に調整し、[tri-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサドを 0.4 mg/kg 乾土<sup>上</sup>路専門委員修文（150 g ai/ha に相当）となるように処理し、加湿した空気を通気した暗所下 20℃で 120 日間インキュベートする好氣的土壤中運命試験が実施された。

推定半減期は、144 日であった。

処理 120 日後の抽出性放射能の主要成分は未変化のフルキサピロキサドであり、54.0% TAR 認められた。（参照 1、13）

**(3) 好氣的土壤中運命試験③**

シルト質埴壤土（スペイン）、壤土（ドイツ）及びシルト質壤土（ドイツ）を最大容水量の 40%に調整し 20℃で 4 日間プレインキュベーションした後、[pyr-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサドを 0.4 mg/kg 乾土（150 g ai/ha に相当）となるように処理し、暗所下 20/10℃<sup>2</sup>で 120 日間インキュベートする好氣的土壤中運命試験が実施された。

推定半減期は表 13 に示されている。

処理 120 日後の抽出性放射能の主要成分は未変化のフルキサピロキサドであり、71.7～90.2% TAR 認められた。分解物 F001 及び F002 が検出されたが、いずれも 2% TAR 未満であった。

フルキサピロキサドの吸着率は、壤土及びシルト質壤土（ドイツ）でインキュベーション期間に相関して高くなり Freundlich の吸着係数  $K_{ads}$  は壤土で 13.2～20.0、シルト質壤土で 21.6～38.3、有機炭素含有率により補正した吸着係数  $K_{oc}$  は壤土で 831～1,260、シルト質壤土で 1,290～2,280 であった。シルト質埴壤土（スペイン）では、Freundlich の吸着係数  $K_{ads}$  は 12.1～16.3、有機炭素含有率により補正した吸着係数  $K_{oc}$  は 410～555 であった。（参照 1、14）

表 13 フルキサピロキサドの推定半減期

土性	温度 (°C)	半減期 (日)
シルト質埴壤土	20	357
壤土	20	689
シルト質壤土	20	599
	10	810

<sup>2</sup> インキュベーション温度は、シルト質壤土のみ 20 及び 10℃、シルト質埴壤土及び壤土では 20℃のみ。

1 (4) 嫌氣的土壤中運命試験好氣的／嫌氣的土壤中運命試験<sup>上路専門委員修文</sup>

2 砂壤土（ドイツ）の土壤水分を最大容水量の 40%に調整し、[phe-<sup>14</sup>C]フルキ  
3 サピロキサド又は[pyr-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサドを 0.4 mg/kg 乾土（150 g ai/ha  
4 に相当）となるように処理し、加湿した CO<sub>2</sub> を通気した暗所下 20℃で 30 日間  
5 プレインキュベーションした後、脱イオン水を添加し、窒素で置換し嫌気条件  
6 に変換後の暗所下 20℃で 90 日間インキュベートする嫌氣的土壤中運命試験好  
7 氣的／嫌氣的土壤中運命試験<sup>上路専門委員修文</sup>が実施された。

8 推定半減期は、[phe-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサド処理区で 301 日、[pyr-<sup>14</sup>C]フル  
9 キサピロキサド処理区で 224 日であった。

10 処理 120 日後の抽出性放射能の主要成分は未変化のフルキサピロキサドであ  
11 り、[phe-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサド処理区で 62.2%TAR、[pyr-<sup>14</sup>C]フルキサピロ  
12 キサド処理区で 57.5%TAR 認められた。[pyr-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサド処理区で  
13 分解物 F001 及び F002 が最大 19.8 及び 7.2%TAR 認められた。（参照 1、  
14 15）

16 (5) 土壤吸着試験

17 [phe-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサドを用いて、8 点で採取した 5 種類の土壤 [砂壤  
18 土（米国、スペイン及び北海道）、シルト質埴壤土（スペイン）、壤質砂土  
19 （スペイン）、砂土（スペイン）及びシルト質壤土（米国及びドイツ）]にお  
20 ける土壤吸着試験が実施された。

21 Freundlich の吸着係数  $K_{ads}$  は 2.47～17.9、有機炭素含有率により補正した吸  
22 着係数  $K_{ads_{OC}}$  は 320～1,100、脱着係数  $K_{des}$  は 4.15～51.9、脱着係数  $K_{des_{OC}}$  は  
23 486～6,330 で移動性は低いと考えられた。（参照 1、16）

24  
25 4. 水中運命試験

26 (1) 加水分解試験（緩衝液）

27 [pyr-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサドを pH 4、pH 5（以上、クエン酸）、pH 7（リ  
28 ン酸）及び pH 9（ホウ酸）の各滅菌緩衝液に 1 mg/L となるように調製した後、  
29 50℃の暗所下で 5 日間インキュベートする加水分解試験が実施された。

30 回収率は 99.9～105%TAR であり、未変化のフルキサピロキサドのみ認めら  
31 れ、分解物は検出されなかった。フルキサピロキサドは、pH 4、pH 5、pH 7  
32 及び pH 9 で安定であり、25℃での半減期は 1 年以上と考えられた。（参照 1、  
33 17）

34  
35 (2) 水中光分解試験（緩衝液）

36 [phe-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサド又は[pyr-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサドを pH7 の滅菌  
37 緩衝液（リン酸）に 1 mg/L となるように添加し、21.1～22.4℃で最長 15 日間  
38 キセノン光（光強度：28～30.8 W/m<sup>2</sup>、波長：290 nm 以下をフィルターでカッ

1 ト) を照射して水中光分解試験が実施された。

2 回収率は 94.2～108%TAR であり、未変化のフルキサピロキサドが 93.0～  
3 108%TAR 認められ、ほかに同定された分解物はなかった。同様な結果が暗所  
4 対照区で得られた。フルキサピロキサドは pH7 の緩衝液中で光の有無に関わら  
5 ず安定であると考えられた。（参照 1、18）

### 7 (3) 水中光分解試験（自然水）

8 [phe-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサド又は[pyr-<sup>14</sup>C]フルキサピロキサドを滅菌した自  
9 然水（池水、ドイツ）に 1 mg/L となるように添加し、21.0～22.6℃で最長 15  
10 日間キセノン光（光強度：28.0～29.9 W/m<sup>2</sup>、波長：290 nm 以下をフィルター  
11 でカット）を照射して水中光分解試験が実施された。

12 回収率は 94.2～103%TAR であり、未変化のフルキサピロキサドは 91.4～  
13 101%TAR、分解物 F001 及び F007 が最大で 6.99 及び 4.05%TAR 認められた。

14 暗所対照区では安定に存在した。フルキサピロキサドは pH7 の滅菌自然水中  
15 で光の有無に関わらず、安定であった。（参照 1、19）

## 17 5. 土壌残留試験

18 土壌残留試験については、参照した資料に記載がなかった。

## 20 6. 作物残留試験

### 21 (1) 作物残留試験

22 海外において、大豆等を用いて、フルキサピロキサド、代謝物 F002、F008  
23 及び F048 を分析対象とした作物残留試験が実施された。結果は別紙 3 に示さ  
24 れている。フルキサピロキサドの最高値は、最終散布 21 日後に収穫された稲  
25 （穀粒）の 1.96 mg/kg、フルキサピロキサド、代謝物 F002、F008 及び F048  
26 の合計の最高値は最終散布 21 日後に収穫された稲（穀粒）の 1.97 mg/kg であ  
27 った。（参照 1）

### 29 (2) 畜産物残留試験

#### 30 ①ウシ

31 泌乳牛（Holstein Friesian 系、各 3 又は 6 頭）を用いた、カプセル経口 [原  
32 体：0、3、6、18 及び 60 ppm、代謝物 F002：0、0.1、0.3 及び 1.0 ppm（飼  
33 料中濃度相当量～10 倍相当量）：平均検体摂取量は表 14 参照] の濃度で 28 日  
34 間投与し、乳汁、脱脂乳、乳脂及び組織（筋肉、肝臓、腎臓及び脂肪）中のフ  
35 ルキサピロキサド、代謝物 008 及び 002 を分析対象とした海外の畜産物残留試  
36 験について、別紙 4 に示されている。

38 表 14 畜産物残留試験（ウシ）の平均検体摂取量

フルキサピロキサド		代謝物 F002	
投与群 (ppm)	平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	投与群 (ppm)	平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)
3	0.086		
6	0.171	0.1	0.003
18	0.512	0.3	0.008
60	1.56	1.0	0.025

1  
2 飼料中濃度相当量を投与した場合、フルキサピロキサド及び M008 の最高値  
3 それぞれ肝臓で 0.0379  $\mu\text{g/g}$ 、腎臓で 0.0105  $\mu\text{g/g}$ 、脂肪で 0.0193  $\mu\text{g/g}$  であっ  
4 た。M002 は投与期間を通していずれの臓器及び組織においても定量限界未満  
5 (0.01  $\mu\text{g/g}$  未満) であった。飼料中濃度 10 倍相当量を投与した場合、休薬 4  
6 日後以降は、フルキサピロキサド、代謝物 008 及び 002 はいずれにおいても定  
7 量限界未満であった。(参照 1、20)

## 8 9 ②ニワトリ

10 産卵期ニワトリ (ISA Warren、一群雌 10 羽) を用いた、カプセル経口 [原  
11 体 : 0、0.3、0.6、1.8 及び 6.0 ppm、代謝物 F002 : 0、0.025、0.05、0.15 及び  
12 0.50 (飼料中濃度相当量~10 倍相当量) : 平均検体摂取量は不明] の濃度で 28  
13 日間投与し、卵及び組織 (筋肉、肝臓、皮膚及び脂肪) 中のフルキサピロキサ  
14 ド、代謝物 008 及び 002 を分析対象とした海外の畜産物残留試験について、別  
15 紙 4 に示されている。

16 飼料中濃度相当量及び飼料中濃度 3 倍相当量を投与した場合、フルキサピロ  
17 キサド、代謝物 008 及び 002 は、投与期間を通していずれの臓器及び組織にお  
18 いても 0.01  $\mu\text{g/g}$  未満であった。飼料中濃度 10 倍相当量を投与した場合、フル  
19 キサピロキサド及び M008 が脂肪から検出されたが、休薬 3 日後以降は、0.01  
20  $\mu\text{g/g}$  未満であった。(参照 1、21)

## 21 22 7. 一般薬理試験

23 フルキサピロキサドを用い、ラット及びマウスを用いた一般薬理試験が実施  
24 された。結果は表 15 に示されている。(参照 1、22)

1

表 15 一般薬理試験概要

試験の種類	動物種	動物数 /群	投与量 (mg/kg 体重) (投与経路)	最大無作用量 (mg/kg 体重)	最小作用量 (mg/kg 体重)	結果の概要
中枢神経系	一般状態 (Irwin 法)	ICR マウス	雄 6 0、200、 600、2,000 (経口)	2,000	-	影響なし
		SD ラット	雄 5 0、200、 600、2,000 (経口)	600	2,000	2,000 mg/kg 体重で軟便・ 下痢
	自発運動量	ICR マウス	雄 6 0、200、 600、2,000 (経口)	2,000	-	影響なし
	電撃誘発性 痙攣	ICR マウス	雄 6 0、200、 600、2,000 (経口)	2,000	-	影響なし
循環器系	呼吸数・血 圧・心拍数	SD ラット (無麻酔)	雄 5 0、200、 600、2,000 (経口)	2,000	-	影響なし
腎機能	尿量・電解 質・浸透圧	SD ラット	雄 5 0、200、 600、2,000 (経口)	2,000	-	影響なし

2 注) いずれの試験でも検体は 0.5%CMC に懸濁した。

3 -: 設定できず

4

5 **8. 急性毒性試験**6 **(1) 急性毒性試験**7 フルキサピロキサド（原体）を用いた急性毒性試験が実施された。結果は表  
8 16 に示されている。（参照 1、23、24、25、61、62）

9

10

表 16 急性毒性試験概要（原体）

投与経路	動物種	LD <sub>50</sub> (mg/kg 体重)		観察された症状
		雄	雌	
経口	SD ラット 雌 6 匹	/		毒性所見なし 死亡例なし
経皮	SD ラット 雌雄各 5 匹			>2,000
吸入	Wistar ラット 雌雄各 5 匹	LC <sub>50</sub> (mg/L)		腹式呼吸、立毛、呼吸促迫及びう ずくまり姿勢 死亡例なし
		>5.1	>5.1	

11

12

13

フルキサピロキサドの代謝物 F001、F002 及び F048 を用いた急性毒性試験  
が実施された。結果は表 17 に示されている。（参照 1、26、27、28、61、

62)

表 17 急性毒性試験結果概要（代謝物 F001、F002 及び F048）

代謝物	投与経路	動物種	LD <sub>50</sub> (mg/kg 体重)		観察された症状
			雄	雌	
F001	経口	Wistar ラット 一群雌 6 匹	/	>2,000	一般状態の抑制、呼吸困難、立毛及び糞減少 死亡例なし
F002		Wistar ラット 一群雌 6 匹	/	>2,000	一般状態の悪化、呼吸困難及び立毛 死亡例なし
F048		Wistar ラット 一群雌 6 匹	/	>2,000	一般状態の抑制、呼吸困難、立毛、下痢、脱水症状及び糞減少 死亡例なし

## (2) 急性神経毒性試験

Wistar ラット（一群雌雄各 10 匹）を用いた単回経口（原体：0、125、500 及び 2,000 mg/kg 体重）投与による急性神経毒性試験が実施された。

投与日の検査において、2,000 mg/kg 体重投与群の雄で着地開脚幅増加、500 mg/kg 体重以上投与群の雌雄で自発運動量低下及び同群の雄で立ち上がり回数の減少が認められた。

投与日の検査において、雄では全ての投与群でオープンフィールド観察の探索活動の低下が認められたが、用量相関性がないことから、毒性学的に意義のない変化であると考えられた。また、2,000 mg/kg 群の雄 1 例で遠位脛骨神経の軸索変性が認められたが、近位脛骨神経を含む末梢神経系及び中枢神経系には異常が認められなかったことから、検体投与の影響ではないと判断した。

本試験において、500 mg/kg 体重以上投与群の雌雄で自発運動量低下が認められたので、急性神経毒性に関する無毒性量は、雌雄で 125 mg/kg 体重であると考えられた。（参照 1、29、61、62）

## 9. 皮膚に対する刺激性及び皮膚感作性試験

NZW ウサギを用いた眼及び皮膚刺激性試験が実施された。眼及び皮膚に対して軽度の刺激が認められた。

Hartley モルモットを用いた皮膚感作性試験（Maximization 法）が実施され、結果は陰性であった。（参照 1、30、31、32、61、62）

## 10. 亜急性毒性試験

### (1) 90 日間亜急性毒性試験（ラット）

Wistar ラット（一群雌雄各 10 匹）を用いた混餌（原体：0、100、500、2,000 及び 6,000 ppm：平均検体摂取量は表 18 参照）投与による 90 日間亜急

1 性毒性試験が実施された。

3 表 18 90 日間亜急性毒性試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群		100 ppm	500 ppm	2,000 ppm	6,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	6.1	31.2	126	407
	雌	7.3	35.1	144	424

4  
5 各投与群で認められた毒性所見は表 19 に示されている。

6 投与終了時に行われた FOB においては、6,000 ppm 投与群の雌で着地開脚幅  
7 の減少が認められたが、対照群の値が最も高かったこと、試験実施施設におけ  
8 る背景データ内であることから、検体投与による影響とは考えられなかった。  
9 また、同群の雌では自発運動量の減少が認められたが、1 セッションのみの変  
10 動であることから検体投与による影響ではないと考えられた。

11 血液生化学的検査においては、100 ppm 投与群雌で Chol 増加が認められた  
12 が、背景データの範囲内であり、毒性学的意義は低いと考えられた。

13 本試験において、100 ppm 以上投与群の雄で T<sub>3</sub> 増加、500 ppm 以上投与群  
14 の雌で甲状腺ろ胞細胞肥大/過形成等が認められたので、無毒性量は雄で 100  
15 ppm 未満 (6.1 mg/kg 体重/日未満)、雌で 100 ppm (7.3 mg/kg 体重/日) であ  
16 ると考えられた。(参照 1、33、61、62)

17 (甲状腺ホルモンへの影響に関するメカニズム試験は [14. (1) ~ (3)] を参  
18 照)

20 表 19 90 日間亜急性毒性試験（ラット）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
6,000 ppm	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重増加抑制</li> <li>・GGT 及び TG 増加</li> <li>・小葉中心性肝細胞凝固壊死</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重増加抑制及び摂餌量減少</li> <li>・GGT、無機リン及び Alb 増加</li> <li>・Glu 減少</li> <li>・尿細管上皮色素沈着</li> <li>・カルシウム増加</li> </ul>
2,000 ppm 以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Ure、TP、Alb、Glob、無機リン 及び Chol 増加</li> <li>・クロール及び Glu 減少</li> <li>・甲状腺ろ胞細胞肥大/過形成</li> <li>・カルシウム増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TP、TG、T<sub>3</sub> 及び TSH 増加</li> <li>・クロール減少</li> </ul>
500 ppm 以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肝絶対及び比重量増加</li> <li>・T.Bil 減少</li> <li>・小葉中心性肝細胞肥大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肝絶対及び比重量増加</li> <li>・PT 短縮</li> <li>・T.Bil 減少</li> <li>・Chol、Glob 及び T<sub>4</sub> 増加</li> <li>・小葉中心性肝細胞肥大</li> <li>・甲状腺ろ胞細胞肥大/過形成</li> </ul>
100 ppm	<ul style="list-style-type: none"> <li>・T<sub>3</sub> 増加</li> </ul>	毒性所見なし

21 注) 病理組織学的所見は統計検定が実施されていない。

1 【西川専門委員より】

100 ppm 投与群雄の T<sub>3</sub> 増加：明らかな毒性所見としてよいですか。

2  
3 **(2) 90 日間亜急性毒性試験（マウス）**

4 C57BL マウス（一群雌雄各 10 匹）を用いた混餌（原体：0、100、400、  
5 2,000 及び 6,000 ppm：平均検体摂取量は表 20 参照）投与による 90 日間亜急  
6 性毒性試験が実施された。

7  
8 **表 20 90 日間亜急性毒性試験（マウス）の平均検体摂取量**

投与群		100 ppm	400 ppm	2,000 ppm	6,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	21	77	390	1,140
	雌	32	128	610	1,660

9  
10 各投与群で認められた毒性所見は表 21 に示されている。

11 本試験において、400 ppm 以上投与群の雄で TG 及び Chol 減少、2,000 ppm  
12 以上投与群の雌で肝絶対及び比重量増加等が認められたので、無毒性量は雄で  
13 100 ppm (21 mg/kg 体重/日)、雌で 400 ppm (128 mg/kg 体重/日) であると  
14 考えられた。（参照 1、34、61、62）

15  
16 **表 21 90 日間亜急性毒性試験（マウス）で認められた毒性所見**

投与群	雄	雌
6,000 ppm	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体重増加抑制</li> <li>・ 副腎絶対及び比重量増加</li> <li>・ ALT、ALP 及び Ure 増加</li> <li>・ TP 及び Alb 減少</li> <li>・ 多巣性肝細胞壊死</li> </ul>	
2,000 ppm 以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肝絶対及び比重量増加</li> <li>・ 肝臓のび慢性脂肪化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 肝絶対及び比重量増加</li> <li>・ Chol 減少</li> </ul>
400 ppm 以上	・ TG 及び Chol 減少	400 ppm 以下 毒性所見なし
100 ppm	毒性所見なし	

17 注) 病理組織学的所見は統計検定が実施されていない。

18  
19 **(3) 90 日間亜急性毒性試験（イヌ）**

20 ビーグル犬（一群雌雄各 5 匹）を用いた混餌（原体：0、300、1,500 及び  
21 10,000/7,500 ppm<sup>3</sup>：平均検体摂取量は表 22 参照）投与による 90 日間亜急性毒  
22 性試験が実施された。

23  
24 **表 22 90 日間亜急性毒性試験（イヌ）の平均検体摂取量**

投与群	300 ppm	1,500 ppm	7,500 ppm	10,000 ppm
-----	---------	-----------	-----------	------------

<sup>3</sup> 最高用量群は、雄で 10,000 ppm、雌で 7,500 ppm。

平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	9	45	238	295
	雌	10	51		

1  
2 各投与群で認められた毒性所見は表 23 に示されている。  
3 本試験において、1,500 ppm 以上投与群の雌雄で Chol 減少等が認められたの  
4 で、無毒性量は雌雄とも 300 ppm（雄：9 mg/kg 体重/日、雌：10 mg/kg 体重/  
5 日）であると考えられた。（参照 1、35、61）

6  
7 表 23 90 日間亜急性毒性試験（イヌ）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
10,000 ppm	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ALP、GGT、無機リン及び TG 増加</li> <li>・ カルシウム及び T.Bil 減少</li> <li>・ 肝絶対及び比重量増加</li> </ul>	
7,500 ppm		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ALP 及び GGT 増加</li> <li>・ カルシウム及び T.Bil 減少</li> <li>・ 肝絶対<sup>a</sup>及び比重量増加</li> </ul>
1,500 ppm 以上	・ TP、Alb 及び Chol 減少	・ TP、Alb 及び Chol 減少
300 ppm	毒性所見なし	毒性所見なし

8 注) 病理組織学的所見は統計検定が実施されていない。

9 <sup>a</sup> : 有意差はないが投与の影響と判断した。

10  
11 (4) 90 日間亜急性神経毒性試験（ラット）

12 Wistar ラット（一群雌雄各 10 匹）を用いた混餌（原体：0、200、1,000 及  
13 び 5,000 ppm：平均検体摂取量は表 24 参照）投与による亜急性神経毒性試験が  
14 実施された。

15  
16 表 24 90 日間亜急性神経毒性試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群		200 ppm	1,000 ppm	5,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	11.5	57.7	302
	雌	13.4	67.2	338

17  
18 各投与群で認められた毒性所見は表 25 に示されている。

19 FOB においては、5,000 ppm 投与群の雌で前肢握力の増加が投与 1 日目に観  
20 察されたが、減少ではなく増加であること、ラットの 90 日間亜急性毒性試験  
21 [10. (1)] で同様の変化は認められなかったことから、検体投与による影響と考  
22 えられなかった。血液生化学的検査において 200 ppm 以上投与群の雌の T.Bil  
23 が減少したが、投与群の値は全て試験実施機関の背景データ内であった。この  
24 増加減少西川専門委員修文は、対照群の値が上限を超えていたことが原因であ  
25 り、毒性ではないと考えられた。病理組織学的検査において 5,000 ppm 投与群  
26 雄で近位坐骨神経軸索変性が 2 例に認められ、同所見は、雌では対照群の 1 例

でも認められた。その他の神経において同様の所見は認められなかったことから、5,000 ppm 投与群で観察された同所見は検体投与の影響とは考えられなかった。

本試験において、1,000 ppm 投与群の雄で小葉中心性肝細胞肥大等、200 ppm 投与群の雌で甲状腺絶対及び比重量増加が認められたので、一般毒性に対する無毒性量は雄で 200 ppm (11.5 mg/kg 体重/日)、雌で 200 ppm 未満 (13.4 mg/kg 体重/日未満) であると考えられた。亜急性神経毒性は認められなかった。(参照 1、36、61、62)

(甲状腺ホルモンへの影響に関するメカニズム試験は [14. (1) ~ (3)] を参照)

表 25 90 日間亜急性神経毒性試験 (ラット) で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
5,000 ppm	<ul style="list-style-type: none"> <li>下顎切歯の白変<sup>a</sup></li> <li>Glu 減少</li> <li>TP、Alb、GGT 及び Chol 増加</li> <li>甲状腺絶対及び比重量増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>下顎切歯の白変<sup>a</sup></li> <li>体重増加抑制</li> <li>TP、Alb 及び TG 増加</li> </ul>
1,000 ppm 以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>無機リン及び Glob 増加</li> <li>肝絶対及び比重量増加</li> <li>小葉中心性肝細胞肥大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Ure、Cre、Glob 及び Chol 増加</li> <li>肝絶対及び比重量増加</li> <li>小葉中心性肝細胞肥大</li> </ul>
200 ppm	毒性所見なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>甲状腺絶対及び比重量増加</li> </ul>

注) 肉眼的病理検査所見及び病理組織学的所見はともに統計検定が実施されていない。

<sup>a</sup>: 病理組織学的検査を実施していないが、2 世代繁殖試験 [12. (1)] での結果よりエナメル芽細胞及びエナメル層外層中の鉄含有色素の減少であると考えられた。

#### (5) 代謝物 F001 の 90 日間亜急性毒性試験 (ラット) 永田専門委員修文

ラットを用いた、代謝物 F001 永田専門委員修文 の混餌 (雄: 0、94.6、286 及び 954 mg/kg 体重/日、雌: 0、98.8、295 及び 983 mg/kg 体重/日) 投与による 90 日間亜急性毒性試験が実施された (詳細不明)。

本試験において、いずれの投与群においても検体投与による影響は認められなかったため、無毒性量は本試験の最高用量である雄: 954 mg/kg 体重/日、雌: 983 mg/kg 体重/日であると考えられた。(参照 61)

#### (6) 代謝物 F002 の 90 日間亜急性毒性試験 (ラット) 永田専門委員修文

ラットを用いた、代謝物 F002 永田専門委員修文 の混餌 (雄: 0、95.1、285 及び 958 mg/kg 体重/日、雌: 0、98.0、300 及び 929 mg/kg 体重/日) 投与による 90 日間亜急性毒性試験が実施された (詳細不明)。

本試験において、いずれの投与群においても検体投与による影響は認められなかったため、無毒性量は本試験の最高用量である雄: 958 mg/kg 体重/日、雌: 929 mg/kg 体重/日であると考えられた。(参照 61)

1

## 2 1 1. 慢性毒性試験及び発がん性試験

## 3 (1) 1 年間慢性毒性試験（イヌ）

4 ビーグル犬（一群雌雄各 5 匹）を用いた混餌（原体：0、300、1,500 及び  
5 12,000/9,000 ppm<sup>4</sup>：平均検体摂取量は表 26 参照）による 1 年間慢性毒性試験  
6 が実施された。

7

8

表 26 1 年間慢性毒性試験（イヌ）の平均検体摂取量

投与群		300 ppm	1,500 ppm	9,000 ppm	12,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	8	39		335
	雌	9	43	257	

9

10

各投与群で認められた毒性所見は表 27 に示されている。

11

12

本試験において、1,500 ppm 以上投与群の雌雄で肝細胞色素沈着（鉄陽性）  
等が認められたので、無毒性量は雌雄とも 300 ppm（雄：8 mg/kg 体重/日、  
雌：9 mg/kg 体重/日）であると考えられた。（参照 1、37、61、62）

13

14

（抄録：毒 57～67、EPA：14、15、EFSA:28）

15

16

表 27 1 年間慢性毒性試験（イヌ）で認められた毒性所見

投与群	雄	雌
12,000 ppm	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嘔吐<sup>a</sup></li> <li>・体重増加抑制<sup>a</sup>及び摂餌量低下<sup>a</sup></li> <li>・ALP、ALT、GGT 及び TG 増加</li> <li>・Cre 及び Chol 減少</li> <li>・肝絶対及び比重量増加</li> <li>・前立腺絶対及び比重量減少</li> <li>・脾臓絶対及び比重量減少</li> <li>・肝臓の多巣性線維化</li> <li>・赤脾髄萎縮</li> <li>・前立腺の萎縮</li> </ul>	
9,000 ppm		<ul style="list-style-type: none"> <li>・嘔吐<sup>a</sup></li> <li>・体重増加抑制及び摂餌量低下<sup>a</sup></li> <li>・ALP 及び GGT 増加</li> <li>・カルシウム、Chol 及び T.Bil 減少</li> <li>・肝絶対及び比重量増加</li> <li>・赤脾髄萎縮</li> </ul>
1,500 ppm 以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Ure、TP、Alb 及びカルシウム減少</li> <li>・肝細胞色素沈着（鉄陽性）</li> <li>・胆嚢上皮褐色色素沈着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・T.Bil、TP 及び Alb 減少</li> <li>・肝細胞色素沈着（鉄陽性）及び肝臓の多巣性線維化症</li> <li>・胆嚢上皮褐色色素沈着</li> </ul>

<sup>4</sup> 最高用量群は、雄で 12,000 ppm、雌で 9,000 ppm。

	・脾臓の結合組織色素沈着（鉄陽性）	・脾臓の結合組織色素沈着（鉄陽性）
300 ppm	毒性所見なし	毒性所見なし

1 注) 病理組織学的所見は統計検定が実施されていない。

2 a: 有意差はないが投与の影響と判断した。

3

4 **(2) 2年間慢性毒性/発がん性併合試験（ラット）**

5 Wistar ラット（発がん性試験群：一群雌雄各 50 匹、慢性毒性試験群：一群  
6 雌雄各 10 匹）を用いた、混餌（原体：0、50、250、1,500 及び 3,000 ppm：平  
7 均検体摂取量は表 28 参照）投与による 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験（ラ  
8 ット）が実施された。

9

10 **表 28 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験（ラット）の平均検体摂取量**

投与群		50 ppm	250 ppm	1,500 ppm	3,000 ppm
検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	2.1	11	68	145
	雌	2.7	14	82	182

11

12 各投与群で認められた毒性所見は表 29、投与により増加した腫瘍性病変の発  
13 生頻度は表 30、肝臓及び甲状腺の腫瘍性病変の背景データは表 31 に示されて  
14 いる。

15 肝臓において、3,000 ppm 投与群の雄で肝細胞癌、3,000 ppm 投与群の雌で  
16 肝細胞腺腫、肝細胞腺腫及び癌の合計、長野専門委員修文 1,500 ppm 以上投与  
17 群の雄で肝細胞腺腫、肝細胞腺腫及び癌の合計が有意に増加し投与の影響であ  
18 ると考えられた。

19 250 ppm 投与群の雄、1,500 ppm 投与群の雌においても、肝細胞腺腫が増加  
20 したが、有意差が認められなかったことから、農薬専門調査会は投与の影響と  
21 は考えられないと判断した。

22 甲状腺において、3,000 ppm 投与群の雄で腺腫及び癌の合計が増加した。

23 本試験において、250 ppm 以上投与群の雌雄で小葉中心性肝細胞肥大等が認  
24 められたので、無毒性量は雌雄とも 50 ppm（雄：2.1 mg/kg 体重/日、雌：2.7  
25 mg/kg 体重/日）であると考えられた。

26 （参照 1、39、61、62）

27 （甲状腺ホルモンへの影響に関するメカニズム試験は [14. (1) ~ (3)] を参  
28 照）

29

【長野専門委員より】  
雌の 3000 ppm 群では肝細胞癌の発生が 0 例であるため。

30

31 **表 29 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験（ラット）で認められた毒性所見**  
32 **（非腫瘍性病変）**

投与群	雄	雌
3,000 ppm	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体重増加抑制</li> <li>・ 無機リン増加</li> <li>・ 変異肝細胞巢（好塩基性）</li> <li>・ 前頭骨骨化過剰症</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ TG 増加</li> <li>・ 肝臓のび慢性色素沈着</li> <li>・ 変異肝細胞巢（好酸性）</li> <li>・ 前頭骨骨化過剰症及び頂頭骨骨化過剰症</li> </ul>
1,500 ppm 以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PT 短縮</li> <li>・ GGT、カルシウム<sup>a</sup>、TP 及び Glob 増加</li> <li>・ 腎絶対及び比重量増加・甲状腺のろ胞細胞過形成及び変性コロイド</li> <li>・ 肝臓のび慢性色素沈着及び海綿状変性</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ PT 短縮</li> <li>・ T.Bil 減少</li> <li>・ カルシウム、TP 及び Chol 増加</li> <li>・ 肝絶対及び比重量増加・甲状腺のろ胞細胞過形成及び変性コロイド</li> <li>・ 肝臓のび慢性色素沈着</li> </ul>
250 ppm 以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Glu 及び T.Bil<sup>a</sup> 減少</li> <li>・ Chol 増加</li> <li>・ 肝絶対及び比重量増加</li> <li>・ 切歯の白変<sup>b</sup></li> <li>・ 小葉中心性肝細胞肥大</li> <li>・ 大腿骨色素沈着（鉄陽性）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体重増加抑制</li> <li>・ Glob 増加</li> <li>・ 小葉中心性肝細胞肥大</li> <li>・ 切歯の白変<sup>b</sup></li> <li>・ 大腿骨色素沈着（鉄陽性）</li> </ul>
50 ppm	毒性所見なし	毒性所見なし

- 1 注) 肉眼的病理検査は統計検定が実施されていない。  
 2 a : 有意差はないが投与の影響と判断した。  
 3 b : 250 ppm 投与群では雄で 50 例中 2 例、雌で 50 例中 1 例（病理組織学的検査は実施されていない）。

表 30 肝臓及び甲状腺での腫瘍性病変発生頻度

性別	雄					雌					
	投与量 (ppm)	0	50	250	1,500	3,000	0	50	250	1,500	3,000
肝臓	検査動物数	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
	肝細胞腺腫	0 (0)	0 (0)	4 (8.0)	7** (14.0↑)	15** (30.0↑)	0 (0)	2 (4.1)	0 (0)	4 (8.2)	7** (14.0↑)
	肝細胞癌	1 (2.0)	0 (0)	1 (2.0)	3 (6.0)	9** (18.0↑)	1 (2.0)	1 (2.0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	腺腫/癌発生動物数	1(2.0)	0 (0)	5 (10.0)	10** (20.0↑)	21** (42.0↑)	1 (2.0)	3 (6.1)	0 (0)	4 (8.2)	7** (14.0↑)
甲状腺	検査動物数	50	50	50	50	50	50	49	50	48	50
	ろ胞細胞腺腫	3 (6.0)	2 (4.0)	4 (8.0)	8 (16.0)	9 (18.0)	0 (0)	3 (6.1)	1 (2.0)	3 (6.3)	2 (4.0)
	ろ胞細胞癌	0 (0)	0 (0)	1 (2.0)	1 (2.0)	3 (6.0)	2 (4.0)	0 (0)	1 (2.0)	0 (0)	1 (2.0)

腺腫/ 癌発生 動物数	3 (6.0)	2 (4.0)	5 (10.0)	9 (18.0)	11** <sup>2)</sup> (22.0↑)	2 (4.0)	3 (6.1)	2 (4.0)	3 (6.3)	3 (6.0)
-------------------	------------	------------	-------------	-------------	-------------------------------	------------	------------	------------	------------	------------

- 1 注) 上段は腫瘍発生数、下段は腫瘍発生率 (%) を示す。  
 2 <sup>1)</sup> は 3 動物、<sup>2)</sup> は 1 動物が腺腫と癌の両方を有していた。  
 3 Dunnet 多重比較検定 (両側) \* : p<0.05 \*\* : p<0.01  
 4 Fisher 直接確率検定 (片側) ↑↓ : p≤0.05、↑↓ : p≤0.01  
 5  
 6

表 31 肝臓及び甲状腺の腫瘍性病変背景データ

臓器	腫瘍	雄			雌		
		腫瘍発生動物数 /供試動物数	腫瘍発生率%		腫瘍発生動物数 /供試動物数	腫瘍発生率%	
			平均	範囲		平均	範囲
肝臓	肝細胞腺腫	8/400	2.0	0-4	3/400	0.8	0-6
	肝細胞癌	6/400	1.5	0-6	7/400	1.8	0-6
	腺腫/癌発生動物数	14/400	3.5	0-8	10/400	2.5	0-6
甲状腺	ろ胞細胞腺腫	52/400	13.0	4-28	—	—	—
	ろ胞細胞癌	9/400	2.3	0-4	—	—	—
	腺腫/癌発生動物数	60/400	15.0	4-30	—	—	—

- 7 注) 試験当たり各 50 匹、8 試験の発生率  
 8 — : データなし  
 9

10 (3) 18 か月間発がん性試験 (マウス)

11 C57BL マウス (発がん性試験群 : 一群雌雄各 50 匹、9 か月後と殺群<sup>5)</sup> : 一群  
 12 雌雄各 10 匹) を用いた、混餌 (原体 : 0、150、750、3,000 及び 6,000 ppm :  
 13 平均検体摂取量は表 32 参照) 投与による 18 か月間発がん性試験が実施された。  
 14

15 表 32 18 か月間発がん性試験 (マウス) の平均検体摂取量

投与群		150 ppm	750 ppm	3,000 ppm	6,000 ppm
検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	21	107	468	996
	雌	33	158	652	1,310

16 各投与群で認められた毒性所見 (非腫瘍性病変) は表 33 に示されている。  
 17 検体投与により発生頻度の増加した腫瘍性病変は認められなかった。

18 本試験において、750 ppm 以上投与群の雌雄で肝臓の大滴性脂肪化等が認め  
 19 られたので、無毒性量は雌雄とも 150 ppm (雄 : 21 mg/kg 体重/日、雌 : 33  
 20 mg/kg 体重/日) であると考えられた。発がん性は認められなかった。(参照 1、  
 21 38、61、62)  
 22  
 23

24 表 33 18 か月間発がん性試験 (マウス) で認められた毒性所見 (非腫瘍性病変)

投与群	雄	雌
6,000 ppm	・ TG 及び Chol 減少	・ TG <sup>a</sup> 及び Chol 減少

<sup>5)</sup> 血液検査及び病理検査用に 0 及び 6,000 ppm 投与群が設定された。

	・小葉中心性肝細胞肥大	・肝絶対及び比重量増加
3,000 ppm 以上	・体重増加抑制 ・切歯白変 <sup>b</sup>	・切歯白変 <sup>b</sup> ・門脈周囲性肝細胞肥大
750 ppm 以上	・肝絶対及び比重量増加 ・肝臓の脂肪化（大滴性）	・肝臓の脂肪化（大滴性）
150 ppm	毒性所見なし	毒性所見なし

1 a：有意差はないが投与の影響と判断した。

2 b：統計検定は実施されていないが投与の影響と判断した。

3

## 4 1 2. 生殖発生毒性試験

### 5 (1) 2 世代繁殖試験（ラット）

6 Wistar ラット（一群雌雄各 25 匹）を用いた混餌（原体：0、10、50 及び  
7 300 mg/kg 体重/日：平均検体摂取量は表 34 を参照）投与による 2 世代繁殖試  
8 験が実施された。

9

10

表 34 2 世代繁殖試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群（mg/kg 体重/日）		10	50	300	
平均検体摂取量 （mg/kg 体重/日）	P 世代	雄	9.5	47.6	285
		雌	9.8	48.8	293
	F <sub>1</sub> 世代	雄	9.6	47.7	286
		雌	9.6	47.9	289

11

12 各投与群で認められた毒性所見は表 35 に示されている。

13 親動物の 300 mg/kg 体重/日投与群雌雄で認められた切歯の白変は病理組織学  
14 的検査の結果、エナメル芽細胞及びエナメル層外層中の鉄含有色素の減少であ  
15 ると考えられた。

16 親動物では P 世代の 50 mg/kg 体重/日以上投与群の雌で妊娠期間の短縮（対  
17 照群の 22.5 日に対し、50 及び 300 mg/kg 体重/日投与群では 22.1 日）が認め  
18 られたが、背景データ（21.5～22.3 日）の範囲内であったこと及び分娩等の繁  
19 殖指標に変化が認められなかったことから毒性学的意義のある差とは考えられ  
20 なかった。

21 本試験において、親動物では 10 mg/kg 体重/日以上投与群の雄で小葉中心性  
22 肝細胞肥大等、雌で肝絶対及び比重量増加が認められ、児動物では 50 mg/kg 体  
23 重/日以上投与群の雌雄で体重増加抑制が認められたので、無毒性量は親動物の  
24 P 雄：9.5 mg/kg 体重/日未満、P 雌：9.8 mg/kg 体重/日未満、F<sub>1</sub> 雄：9.6 mg/kg  
25 体重/日未満、F<sub>1</sub> 雌：9.6 mg/kg 体重/日未満、児動物の P 雄：9.5 mg/kg 体重/日、  
26 P 雌：9.8 mg/kg 体重/日、F<sub>1</sub> 雄：9.6 mg/kg 体重/日、F<sub>1</sub> 雌：9.6 mg/kg 体重/日  
27 であると考えられた。繁殖能に対する影響は認められなかった。（参照 1、40、  
28 61、62）

29 （甲状腺ホルモンへの影響に関するメカニズム試験は [14. (1)～(3)] を参

1 照)

2

3

表 35 2 世代繁殖試験（ラット）で認められた毒性所見

投与群	親：P、児：F <sub>1</sub>		親：F <sub>1</sub> 、児：F <sub>2</sub>		
	雄	雌	雄	雌	
親動物	300 mg/kg 体重/日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重増加抑制</li> <li>・切歯の白変<sup>a</sup></li> <li>・副腎絶対及び比重量増加</li> <li>・甲状腺比重量増加</li> <li>・肝細胞壊死</li> <li>・副腎皮質肥大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切歯の白変<sup>a</sup></li> <li>・甲状腺比重量増加</li> <li>・副腎皮質肥大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重増加抑制</li> <li>・切歯の白変<sup>a</sup></li> <li>・副腎皮質肥大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重増加抑制</li> <li>・切歯の白変<sup>a</sup></li> <li>・甲状腺比重量増加</li> <li>・副腎皮質肥大</li> </ul>
	50 mg/kg 体重/日以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肝絶対及び比重量増加</li> <li>・甲状腺のび慢性ろ胞細胞肥大/過形成、コロイド分泌の枯渇</li> <li>・肝細胞細胞質空胞化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重増加抑制</li> <li>・肝絶対及び比重量増加</li> <li>・甲状腺のび慢性ろ胞細胞肥大/過形成、コロイド分泌の枯渇</li> <li>・小葉中心性肝細胞肥大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・甲状腺絶対及び比重量増加</li> <li>・甲状腺のび慢性ろ胞細胞肥大/過形成、コロイド分泌の枯渇</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・甲状腺のび慢性ろ胞細胞肥大/過形成、コロイド分泌の枯渇</li> <li>・小葉中心性肝細胞肥大</li> </ul>
	10 mg/kg 体重/日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肝比重量増加</li> <li>・小葉中心性肝細胞肥大</li> </ul>	毒性所見なし	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肝絶対及び比重量増加</li> <li>・小葉中心性肝細胞肥大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肝絶対及び比重量増加</li> </ul>
児動物	300 mg/kg 体重/日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包皮分離日遅延</li> <li>・胸腺絶対及び比重量減少</li> <li>・脾絶対及び比重量減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脾絶対及び比重量減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重増加抑制</li> <li>・脾絶対及び比重量減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重増加抑制</li> </ul>
	50 mg/kg 体重/日以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重増加抑制</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体重増加抑制</li> </ul>	50 ppm 以下 毒性所見なし	50 ppm 以下 毒性所見なし
	10 mg/kg 体重/日	毒性所見なし	毒性所見なし		

4 <sup>a</sup>：統計検定は実施されていないが投与の影響と判断した。

5

6 (2) 発生毒性試験（ラット）

7 Wistar ラット（一群雌 25 匹）の妊娠 6～19 日に強制経口（原体：0、25、  
8 200 及び 1,000 mg/kg 体重/日、溶媒：0.5%CMC）投与して発生毒性試験が実  
9 施された。

10 各投与群で認められた毒性所見は表 36 に示されている。

1 本試験において、母動物では 200 mg/kg 体重/日以上投与群で甲状腺絶対及び  
2 比重量増加等がみられた。胎児では生存性及び発育に影響はみられず、また形  
3 態異常及び変異の増加も認められなかったため、無毒性量は母動物で 25 mg/kg  
4 体重/日、胎児で本試験の最高用量である 1,000 mg/kg 体重/日であると考えられ  
5 た。催奇形性は認められなかった。（参照 1、41、61、62）

6 （甲状腺ホルモンへの影響に関するメカニズム試験は [14. (1)～(3)] を参  
7 照）

9 表 36 発生毒性試験（ラット）で認められた毒性所見

投与群	母動物	胎児
1,000 mg/kg 体重/日	・肝絶対及び比重量増加 ・カルシウム及び TP 増加	1,000 mg/kg 体重/日以下 毒性所見なし
200 mg/kg 体重/日以上	・甲状腺絶対及び比重量増加 ・T.Bil 減少 ・Alb 増加	
25 mg/kg 体重/日	毒性所見なし	

10  
11 **(3) 発生毒性試験（ウサギ）**

12 Himalayan ウサギ（一群雌 25 匹）の妊娠 6～28 日に強制経口（原体：0、  
13 10、25 及び 60 mg/kg 体重/日、溶媒：0.5%CMC）投与して、発生毒性試験が  
14 実施された。

15 各投与群で認められた毒性所見は表 37 に示されている。

16 60 mg/kg 体重/日投与群で認められた子宮重量減少、早期胚吸収数及び着床後  
17 胚損失率増加は、着床数 1 の 2 例に損失があった結果、損失率 100%となった  
18 ことによるものであり、着床後胚損失率については背景データの範囲内でもあ  
19 ったことから、これらに毒性学的意義は低いと考えられた。

20 本試験において、母動物では 60 mg/kg 体重/日投与群で体重増加抑制等、胎  
21 児では 60 mg/kg 体重/日投与群で肢過屈曲増加が認められたので、無毒性量は  
22 母動物及び胎児とも 25 mg/kg 体重/日であると考えられた。催奇形性は認めら  
23 れなかった。（参照 1、42、61、62）

24 （抄録：毒 127～134、EPA:14、EFSA:28）

26 表 37 発生毒性試験（ウサギ）で認められた毒性所見

投与群	母動物	胎児
60 mg/kg 体重/日	・無糞/糞量減少 <sup>a</sup> ・体重増加抑制	・肢過屈曲増加
25 mg/kg 体重/日以下	毒性所見なし	毒性所見なし

27 <sup>a</sup>：統計検定が実施されていないが、影響と判断した。

1 (4) 代謝物 F001 の発生毒性試験 (ウサギ) 永田専門委員修文

2 ウサギに代謝物 F001 を投与 (0、40、100 及び 250 mg/kg 体重/日) して、  
3 発生毒性試験が実施された (詳細不明)。

4 検体投与による影響は認められなかったので、本試験の無毒性量は母動物及  
5 び胎児で最高用量である 250 mg/kg 体重/日であると考えられた。催奇形性は認  
6 められなかった。(参照 61)

7  
8 (5) 代謝物 F002 の発生毒性試験 (ウサギ) 永田専門委員修文

9 ウサギに代謝物 F002 を投与 (0、100、300 及び 1,000 mg/kg 体重/日) して、  
10 発生毒性試験が実施された (詳細不明)。

11 母動物では 1,000 mg/kg 体重/日投与群で死亡率及び流産の増加が認められ、  
12 胎児では検体投与による影響は認められなかったので、本試験の無毒性量は母  
13 動物で 300 mg/kg 体重/日、胎児で最高用量である 1,000 mg/kg 体重/日である  
14 と考えられた。催奇形性は認められなかった。(参照 61)

15  
16 (6) 代謝物 F048 の発生毒性試験 (ウサギ) 永田専門委員修文

17 ウサギに代謝物 F048 を投与 (0、10、30 及び 100 mg/kg 体重/日) して、発  
18 生毒性試験が実施された (詳細不明)。

19 母動物では 100 mg/kg 体重/日投与群で死亡率、流産及び吸収胚の増加、胎児  
20 では 100 mg/kg 体重/日投与群で流産及び後期吸収胚が認められたので、本試験  
21 の無毒性量は母動物及び胎児とも 30 mg/kg 体重/日であると考えられた。催奇  
22 形性は認められなかった。(参照 61)

23  
24 1 3. 遺伝毒性試験

25 フルキサピロキサドの細菌を用いた復帰突然変異試験、チャイニーズハムス  
26 ター卵巣由来細胞 (CHO-K1) を用いた遺伝子突然変異試験、チャイニーズハ  
27 ムスター肺由来細胞 (V79) を用いた染色体異常試験、ラットを用いた肝細胞  
28 UDS 試験及びマウスを用いた小核試験が実施された。

29 結果は表 38 に示されている。

30 高用量で行われた染色体異常試験の 1 試験において、代謝活性化系非存在下  
31 及び存在下で陽性であったが、細菌を用いた復帰突然変異試験、*in vivo* での  
32 UDS 試験及び小核試験は全て陰性であったことから、生体において問題となる  
33 ような遺伝毒性はないものと考えられた。(参照 1、43~52、61、62)

34  
35 表 38 遺伝毒性試験概要 (原体)

試験		対象	処理濃度・投与量	結果
<i>in vitro</i>	復帰突然変異試験	<i>Salmonella typhimurium</i>	①標準プレート法： 20~5,000 µg/プレート (+/-S9)	陰性

	(TA98、TA100、 TA1535、TA1537 株)	②プレインキュベーション法： 20～5,000 µg/プレート (+/-S9)	
	<i>Escherichia coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)	①標準プレート法： 20～5,000 µg/プレート (+/-S9) ②プレインキュベーション法： 20～5,000 µg/プレート (+/-S9)	陰性
	<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、 TA1535、TA1537 株)	①標準プレート法： 21～5,300 µg/プレート (+/-S9) ②プレインキュベーション法 (TA100、TA1535) ：21～5,300 µg/プレート (+/-S9) ③プレインキュベーション法 (TA1537) ：11～2,650 µg/プレート (+/-S9) ④プレインキュベーション法 (TA98) ：2～530 µg/プレート (+/-S9)	陰性
	<i>E. coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)	①標準プレート法 ：21～5,300 µg/プレート (+/-S9) ②プレインキュベーション法 ：21～5,300 µg/プレート (+/-S9)	陰性
遺伝子突然 変異試験 ( <i>Hprt</i> 遺 伝子座)	チャイニーズハムスタ ー卵巣由来細胞 (CHO-K1 細胞)	①5.0～100µg/mL (+/-S9 ; 4 時間処理) ②6.3～100 µg/mL (-S9 ; 24 時間処理、+S9 ; 4 時 間処理)	陰性
		①6.3～125 µg/mL (+/-S9 ; 4 時間処理) ②6.3～125 µg/mL (-S9 ; 24 時間処理) 40.0～160 µg/mL (+S9 ; 4 時間処理) ③25.0～150 µg/mL (+S9 ; 4 時間処理)	陰性
染色体異常 試験	チャイニーズハムスタ ー肺由来細胞 (V79)	①15.6～62.5 µg/mL (+/-S9 ; 4 時間処理、14 時間 培養標本作成) ②7.8～31.3 µg/mL (-S9 ; 18 時間処理、直後に標 本作成) 62.5 µg/mL (-S9 ; 18 時間処理、10 時間 後に標本作成) 7.8～31.5 µg/mL (+S9 ; 4 時間処理、24 時間 後に標本作成) ③60.0～80 µg/mL (+/-S9 ; 4 時 間処理、14 時間培養標本作 成)	① 陰性(-S9)、 陽性(+S9) ② 陰性 ③ 陽性(+/-S9)

			①12.5～50.0 µg/mL (+/-S9 ; 4 時間処理、14 時間培養標本作成) ②12.5～50.0 µg/mL (-S9 ; 18 時間処理、直後に標本作成) 50.0 µg/mL (-S9 ; 18 時間処理、10 時間後に標本作成) 12.5～50.0 µg/mL (+S9 ; 4 時間処理、24 時間後に標本作成)	陰性
<i>in vivo</i>	UDS 試験	Wistar ラット (肝細胞) (一群雄 3 匹)	1,000、2,000 mg/kg 体重 (単回経口投与)	陰性
		Wistar ラット (肝細胞) (一群雄 3 匹)	2.5、5.0 mg/kg 体重 (静脈内投与)	陰性
	小核試験	NMRI マウス (骨髄細胞) (一群雄 5 匹)	500、1,000、2,000 mg/kg 体重 (2 回経口投与)	陰性
		NMRI マウス (骨髄細胞) (一群雄 5 匹)	500、1,000、2,000 mg/kg 体重 (単回腹腔内投与)	陰性

1 注) +/-S9 : 代謝活性化系存在下及び非存在下

2

3 フルキサピロキサドの代謝物 F001 及び F002 (動物、植物及び土壌由来) 並  
 4 びに F048 (植物由来) の細菌を用いた復帰突然変異試験、チャイニーズハムス  
 5 ター卵巣由来細胞を用いた遺伝子突然変異試験、ヒトリンパ球細胞を用いた染  
 6 色体異常試験、ラットを用いた肝細胞 UDS 試験及びマウスを用いた小核試験が  
 7 実施された。

8 結果は表 39 に示されている。

9 代謝物 F048 を用いた *in vitro* の染色体異常試験の代謝活性化系存在下で陽性  
 10 であった。しかし、代謝物 F048 の細菌を用いた復帰突然変異試験、遺伝子突  
 11 然変異試験、*in vivo* の小核試験及び UDS 試験では全て陰性であった。(参照  
 12 1、53、54、55、61)

13

14

表 39 遺伝毒性試験概要 (代謝物 F001、F002 及び F048 )

代謝物	試験		対象	処理濃度・投与量	結果
F001	<i>in vitro</i>	復帰突然変異試験	<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、TA1535、TA1537 株)	①標準プレート法 : 20～5,000 µg/プレート (+/-S9) ②プレートインキュベーション法 : 313～5,000 µg/プレート (+/-S9)	陰性
			<i>S. typhimurium</i> (TA1535 株)	プレートインキュベーション法 : 10～2,500 µg/プレート (+/-S9)	陰性
			<i>E. coli</i>	①標準プレート法 :	陰性

			(WP2 <i>uvrA</i> 株)	20～5,000 µg/7° レート (+/-S9) ②° レインキュベーション法： 313～5,000 µg/7° レート (+/-S9)	
		遺伝子突然変異試験	チャイニーズハムスター卵巣由来細胞	詳細不明	陰性
		染色体異常試験	ヒト末梢血リンパ球細胞	詳細不明	陰性
	<i>in vivo</i>	小核試験	マウス (詳細不明)	500、1,000、2,000 mg/kg 体重 (投与経路不明)	陰性
F002	<i>in vitro</i>	復帰突然変異試験	<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、 TA1535、TA1537 株)	①標準7° レート法： 20～5,000 µg/7° レート (+/-S9) ②° レインキュベーション法： 313～5,000 µg/7° レート (+/-S9)	陰性
			<i>E. coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)	①標準7° レート法： 20～5,000 µg/7° レート (+/-S9) ②° レインキュベーション法： 313～5,000 µg/7° レート (+/-S9)	陰性
		遺伝子突然変異試験	チャイニーズハムスター卵巣由来細胞	詳細不明	陰性
		染色体異常試験	ヒト末梢血リンパ球細胞	詳細不明	陰性
	<i>in vivo</i>	小核試験	マウス (詳細不明)	375、750、1,500 mg/kg 体重 (投与経路不明)	陰性
	F048	<i>in vitro</i>	復帰突然変異試験	<i>S. typhimurium</i> (TA98、TA100、 TA1535、TA1537 株)	①標準7° レート法： 22～5,500 µg/7° レート (+/-S9) ②° レインキュベーション法： 22～5,500 µg/7° レート (+/-S9)
<i>E. coli</i> (WP2 <i>uvrA</i> 株)				①標準7° レート法： 22～5,500 µg/7° レート (+/-S9) ②° レインキュベーション法： 22～5,500 µg/7° レート (+/-S9)	陰性
遺伝子突然変異試験			チャイニーズハムスター卵巣由来細胞	詳細不明	陰性
染色体異常試験			ヒト末梢血リンパ球細胞	詳細不明	陽性 (+S9)
<i>in vivo</i>		UDS 試験	ラット (肝細胞) (詳細不明)	1,000、2,000 mg/kg 体重 (投与経路不明)	陰性
		小核試験	マウス (詳細不明)	500、1,000、2,000 mg/kg 体重 (投与経路不明)	陰性

1 注) +/- S9 : 代謝活性化系存在下及び非存在下

1  
2 **14. その他の試験**

3 90 日間亜急性毒性試験（ラット）、90 日間亜急性毒性試験（ラット） [10. (1)  
4 及び(4)] 等で、甲状腺の重量変化及び病理組織学的変化が認められたため、その  
5 メカニズムを明らかにするための検討が実施された。

6  
7 **(1) 肝酵素誘導試験（ラット）**

8 甲状腺ホルモンの代謝及び恒常性を検討するため、Wistar ラット（投与群：  
9 一群雌雄各 10 匹、回復群<sup>6</sup>：一群雌雄各 10 匹）に 2 週間混餌（原体：0、250、  
10 1,500 及び 3,000 ppm：平均検体摂取量は表 40 参照）投与する肝酵素誘導試験  
11 が実施された。

12  
13 **表 40 肝酵素誘導試験（ラット）の平均検体摂取量**

投与群		250 ppm	1,500 ppm	3,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	16	96	192
	雌	19	126	234

14  
15 各投与群で認められた変化は表 41 に示されている。

16 検体投与による影響として、250 ppm 以上投与群の雌雄で小葉中心性肝細胞  
17 肥大、甲状腺ろ胞細胞肥大及び過形成並びに肝ミクロソームの薬物代謝酵素  
18 (P450、EROD、PROD、BROD、MUF-GT 及び HOBI-GT) の誘導が認めら  
19 れ、1,500 ppm 以上投与群の雌雄で T<sub>4</sub>-UDP-GT の誘導が認められた。また、  
20 雄では用量相関性のある TSH 増加が認められ、3,000 ppm 投与群では統計学的  
21 に有意であった。肝臓における T<sub>4</sub>-UDP-GT の亢進によって T<sub>4</sub> の代謝が誘発さ  
22 れたことが関与して（血中 T<sub>3</sub> 及び T<sub>4</sub> 値の低下は観察されなかったが）、TSH  
23 の増加、さらに標的細胞である甲状腺ろ胞細胞の過形成が誘発されたと考えら  
24 れた。これらの影響は、4 週間の休薬後にはほとんど認められなかったことか  
25 ら、回復性のある変化であることが示唆された。（参照 1、56、61、62）

26  
27 **表 41 肝酵素誘導試験（ラット）で認められた変化**

群	雄	雌	
投与群	3,000 ppm	<ul style="list-style-type: none"> <li>・甲状腺の変性コロイド</li> <li>・TSH 増加</li> </ul>	
	1,500 ppm 以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・甲状腺絶対及び比重量増加<sup>a</sup></li> <li>・T<sub>4</sub>-UDP-GT 増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肝絶対重量増加</li> <li>・甲状腺ろ胞細胞肥大及び過形成</li> <li>・T<sub>4</sub>-UDP-GT 増加</li> </ul>
	250 ppm 以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肝絶対及び比重量増加</li> <li>・小葉中心性肝細胞肥大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肝比重量増加</li> <li>・小葉中心性肝細胞肥大</li> </ul>

<sup>6</sup> 対照群及び 3,000 ppm 投与群で構成され、2 週間の混餌投与後、4 週間の休薬期間が設定された。

		・甲状腺ろ胞細胞肥大及び過形成 ・P450、EROD、PROD、BROD、MUF-GT 及び HOBI-GT 増加	・P450、EROD、PROD、BROD、MUF-GT 及び HOBI-GT 増加
回復群	3,000 ppm	・肝絶対及び比重量増加 ・MUF-GT 増加	・甲状腺絶対及び比重量増加 ・EROD 及び BROD 増加
	対照群	変化なし	変化なし

1 注) 病理組織学的所見は統計検定が実施されていない。

2 a : 3,000 ppm 投与群では比重量のみ有意差あり

## 4 (2) 甲状腺機能試験（ラット）

5 本剤の甲状腺に対する作用が直接的、あるいは間接的のいずれかを検討する  
6 ため、Wistar ラット（一群雌雄各 6 匹）に 2 週間混餌（原体：0 及び 3,000  
7 ppm：平均検体摂取量は表 42 参照）投与して、パークロレート放出試験が実施  
8 された。なお、陽性対照として甲状腺機能に直接作用する PTU 及び間接的に作  
9 用する PB が 2 週間混餌（PTU；2,000 ppm、PB；1,000 ppm、平均検体摂取  
10 量は表 42 参照）投与された。

12 表 42 甲状腺機能試験（ラット）の平均検体摂取量

投与群		フルキサピロキサド	PTU	PB
		3,000 ppm	2,000 ppm	1,000 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	283	231	89
	雌	247	192	97

13 結果は表 43 に示されている。

14 本試験において、フルキサピロキサド投与群は陽性対照である PB 投与群と  
15 類似した所見が認められたことから、甲状腺への直接的な影響ではないと考え  
16 られた。（参照 1、57、61、62）

18 表 43 甲状腺機能試験概要

投与群	性別	雄	雌
	フルキサピロキサド		・甲状腺へのヨード取込上昇
PTU		・体重増加抑制 ・甲状腺絶対重量増加 ・甲状腺へのヨード取込低下 ・甲状腺でのヨード有機化低下	・体重増加抑制 ・甲状腺絶対重量増加 ・甲状腺へのヨード取込低下
PB		・甲状腺絶対重量増加 ・甲状腺へのヨード取込上昇	・甲状腺中の放射能濃度増加

### 1 (3) 肝細胞増殖反応試験（ラット）

#### 2 ①肝細胞増殖反応試験（ラット）-1

3 肝細胞の増殖反応を検討するため、Wistar ラット（一群雌雄各 10 匹）に 1、  
4 4<sup>7</sup>又は 13 週間混餌（原体：0、250、1,500 及び 3,000 ppm：平均検体摂取量は  
5 表 44 参照）投与して、BrdU の取り込みが検討された。また、3000ppm 投与  
6 群の雌雄については、4 週投与後に 4 週間の休薬期間を設定し、肝細胞の増殖  
7 活性を検索した。

9 表 44 肝細胞増殖反応試験（ラット）-1 の平均検体摂取量

性別	雄			雌		
投与群	250 ppm	1,500 ppm	3,000 ppm	250 ppm	1,500 ppm	3,000 ppm
投与期間	平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)					
13 週	13	80	163	17	106	190
4 週	12	79	122	15	87	173
1 週	12	61	104	15	79	137

10  
11 投与 1 週後から 13 週後に 1,500 ppm 以上投与群の雌雄で肝細胞の増殖亢進  
12 が認められた。また、4 週投与後に 4 週間の休薬期間を設定した場合には増殖  
13 の亢進が認められなかったことから、肝細胞への増殖亢進作用は可逆的である  
14 と推察された。（参照 1、58、61、62）

#### 16 ②肝細胞増殖反応試験（ラット）-2

17 肝細胞の増殖反応を検討するため、Wistar ラット（一群雌雄各 10 匹）に最  
18 長 13 週間混餌（原体：0 及び 50 ppm：平均検体摂取量は表 45 参照）投与して、  
19 BrdU の取り込みが検討された。

21 表 45 肝細胞増殖反応試験（ラット）-2 の平均検体摂取量

50 ppm 投与	投与期間			
	性別	1 週	4 週	13 週
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	雄	2.5	2.5	3.0
	雌	2.9	3.1	3.5

22  
23 肝細胞の増殖亢進はいずれにおいても認められなかったことから、50 ppm 投  
24 与により、肝細胞の増殖亢進は生じないことが示された。（参照 1、59、61、  
25 62）

#### 27 ③肝細胞増殖反応試験（ラット）-3

28 肝細胞の増殖反応を検討するため、Wistar ラット（一群雌雄各 10 匹）に最

7 4 週間の投与終了後、4 週間の休薬期間が設定された。

1 長 2 週間混餌（原体：0、50、250、1,500 及び 3,000 ppm：平均検体摂取量は  
2 表 46 参照）投与して、BrdU の取り込みが検討された。

3

4

表 46 肝細胞増殖反応試験（ラット）-3 の平均検体摂取量

性別	雄				雌			
	50 ppm	250 ppm	1,500 ppm	3,000 ppm	50 ppm	250 ppm	1,500 ppm	3,000 ppm
投与期間	平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)							
14 日	4.0	17	106	201	3.5	20	104	214
7 日	3.3	16	100	183	3.5	17	92	195
3 日	3.0	16	93	176	3.2	15	82	186
1 日	3.0	15	86	150	3.6	17	91	146

5

6

結果は表 47 に示されている。

7

8

9

肝細胞の増殖活性亢進は、3 及び 7 日間投与群では雌雄とも全野で認められたが、14 日投与群では雄では中心静脈域のみであり、雌では門脈域及び中心静脈域で認められた。

10

11

本試験において、フルキサピロキサドは肝細胞の細胞増殖亢進作用を有すると考えられた。（参照 1、60、61、62）

12

13

表 47 肝細胞増殖反応試験（ラット）

性別 投与群	雄	雌
3,000 ppm		・小葉中心性肝細胞肥大（3、7 及び 14 日投与）
1,500 ppm 以上	・肝絶対及び比重量増加（3、7 及び 14 日投与） ・小葉中心性肝細胞肥大（7 及び 14 日投与） ・肝細胞増殖活性亢進 3、7 及び 14 日投与）	・肝絶対及び比重量増加（3、7 及び 14 日投与） ・小葉中心性肝細胞肥大（14 日投与）
250 ppm 以上	・肝絶対及び比重量増加（14 日投与）	・肝細胞増殖活性亢進（3、7 及び 14 日投与）
50 ppm	・甲状腺絶対及び比重量増加（3、7 及び 14 日投与）	・肝細胞増殖活性亢進（7 日投与）

14

注）病理組織学的所見は統計検定が実施されていない。

15

16

17

18

19

20

ラットを用いた種々の試験 [14. (1)、(2) 及び (3)] 結果より、本剤の投与により肝ミクロソームの薬物代謝酵素が誘導され、T4-UDP-GT 亢進による甲状腺ホルモン代謝が活性化することが関与して TSH が増加し、標的細胞である甲状腺ろ胞細胞の過形成及び甲状腺腫瘍が誘発されると考えられた。また、本剤は、肝細胞に対し分裂亢進作用を有すると考えられた。

1  
2

### 1 III. 食品健康影響評価

2 参照に挙げた資料を用いて、農薬「フルキサピロキサド」の食品健康影響評価  
3 を実施した。

4 <sup>14</sup>C で標識されたフルキサピロキサドのラットを用いた動物体内運命試験におい  
5 て、胆汁中排泄率から推定された消化管からの吸収率は、少なくとも 72%であっ  
6 た。放射能の排泄は速やかであり、単回投与後 72 時間で 87.3~108% TAR が尿  
7 及び糞中へ排泄され、糞中が主要排泄経路であった。

8 <sup>14</sup>C で標識したフルキサピロキサドの畜産動物（ヤギ及びニワトリ）を用いた動  
9 物体内運命試験の結果、筋肉、組織等で 10%TRR を超えて検出された代謝物は、  
10 F004、F005、F008、F010、F016、F024 及び F040 であり、F040 は、ラット  
11 で認められない代謝物であった。

12 <sup>14</sup>C で標識されたフルキサピロキサドを用いた植物体内運命試験の結果、小麦  
13 （茎葉）で代謝物 F008 が 10.6%TRR 以上、だいず（子実）で F002 が  
14 33.4%TRR 及び F048 が 19.9%TRR 検出された。

15 大豆等を用いて、フルキサピロキサド、代謝物 F002、F008 及び F048 を分析  
16 対象とした海外における作物残留試験が実施された結果、フルキサピロキサドの  
17 最高値は、稲（穀粒）の 1.96 mg/kg、フルキサピロキサド、代謝物 F002、F008  
18 及び F048 の合計の最高値は稲（穀粒）の 1.97 mg/kg であった。

19 各種毒性試験結果から、フルキサピロキサド投与による影響は主に肝臓（小葉  
20 中心性肝細胞肥大：ラット、脂肪化：マウス、肝細胞色素沈着（鉄陽性）：イ  
21 ヌ）、甲状腺（ろ胞細胞肥大/過形成：ラット）、骨（骨化過剰：ラット及びマウ  
22 ス）及び歯（白変：ラット及びマウス）に認められた。繁殖能に対する影響、催  
23 奇形性及び生体にとって問題となるような遺伝毒性は認められなかった。

24 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験では、肝臓において、3,000 ppm 投与群の雄  
25 で肝細胞癌、3,000 ppm 投与群の雌で肝細胞腺腫、肝細胞腺腫及び癌の合計、長  
26 野専門委員修文 1,500 ppm 以上投与群の雄で肝細胞腺腫、肝細胞腺腫及び癌の合  
27 計が有意に増加し、甲状腺において、3,000 ppm 投与群の雄で腺腫及び癌の合計  
28 が増加したが、メカニズム試験及び遺伝毒性試験の結果から、腫瘍発生機序は遺  
29 伝毒性メカニズムによるものとは考え難く、評価に当たり閾値を設定することは  
30 可能であると考えられた。

31 各種試験結果から、暴露評価対象物質は、農産物及び畜産物中でフルキサピロ  
32 キサド（親化合物のみ）と設定した。

33 各試験における無毒性量及び最小毒性量は表 48 に示されている。

34 ラットを用いた 90 日間亜急性毒性試験の雄、90 日間亜急性神経毒性試験の雌  
35 及び 2 世代繁殖試験の親動物の雌雄では無毒性量が設定できなかったが、これら  
36 に比し、より低用量かつ長期間行われたラットを用いた 2 年間慢性毒性/発がん性  
37 併合試験では無毒性量 2.1 mg/kg 体重/日が得られており、2.1 mg/kg 体重/日がラ  
38 ットの無毒性量として妥当と考えられた。

1 以上より、食品安全委員会農薬専門調査会は、各試験で得られた無毒性量のう  
2 ち最小値はラットを用いた 2 年間慢性毒性/発がん性併合試験の無毒性量 2.1  
3 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した  
4 0.021 mg/kg 体重/日を一日摂取許容量（ADI）と設定した。

5

ADI	0.021 mg/kg 体重/日
(ADI 設定根拠資料)	2 年間慢性毒性/発がん性併合試験
(動物種)	ラット
(期間)	2 年間
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	2.1 mg/kg 体重/日
(安全係数)	100

6

7

8

9

1

表 48 各試験における無毒性量及び最小毒性量

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量 (mg/kg 体重/日)	最小毒性量 (mg/kg 体重/日)	備考 <sup>1)</sup>
ラット	90 日間 亜急性 毒性試験	0、100、500、2,000、 6,000 ppm 雄：0、6.1、31.2、 126、407 雌：0、7.3、35.1、 144、424	雄：— 雌：7.3	雄：6.1 雌：35.1	雄：T <sub>3</sub> 増加 雌：甲状腺ろ胞細胞肥大/ 過形成等
	90 日間 亜急性 神経毒性 試験	0、200、1,000、5,000 ppm 雄：0、11.5、57.7、 302 雌：0、13.4、67.2、 338	雄：11.5 雌：—	雄：57.7 雌：13.4	雄：小葉中心性肝細胞肥 大等 雌：甲状腺絶対及び比重 量増加  (亜急性神経毒性は認め られない)
	2 年間 慢性毒性/ 発がん性 併合試験	0、50、250、1,500、 3,000 ppm 雄：0、2.1、11、68、 145 雌：0、2.7、14、82、 182	雄：2.1 雌：2.7	雄：11 雌：14	雌雄：小葉中心性肝細胞 肥大等  (3,000 ppm 投与群の雄 で肝細胞癌、3,000 ppm 投与群の雌で肝細胞腺 腫、肝細胞腺腫及び癌の 合計—長野専門委員修文 1,500 ppm 以上投与群の 雄で肝細胞腺腫、肝細胞 腺腫及び癌の合計が増 加)
	2 世代 繁殖試験	P 雄：0、9.5、47.6、 285 P 雌：0、9.8、48.8、 293 F <sub>1</sub> 雄：0、9.6、47.7、 286 F <sub>1</sub> 雌：0、9.6、47.9、 289	親動物 P 雄：— P 雌：— F <sub>1</sub> 雄：— F <sub>1</sub> 雌：—  児動物 P 雄：9.5 P 雌：9.8 F <sub>1</sub> 雄：9.6 F <sub>1</sub> 雌：9.6	親動物 P 雄：9.5 P 雌：9.8 F <sub>1</sub> 雄：9.6 F <sub>1</sub> 雌：9.6  児動物 P 雄：47.6 P 雌：48.8 F <sub>1</sub> 雄：47.7 F <sub>1</sub> 雌：47.9	親動物 雄：小葉中心性肝細胞肥 大等 雌：肝絶対及び比重量増 加  児動物 雌雄：体重増加抑制  (繁殖能に対する影響は 認められない)
	発生毒性 試験	0、25、200、1,000	母動物：25  胎児：1,000	母動物： 200  胎児：—	母動物：甲状腺絶対及び 比重量増加等  胎児：毒性所見なし  (催奇形性は認められな い)

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	無毒性量 (mg/kg 体重/日)	最小毒性量 (mg/kg 体重/日)	備考 <sup>1)</sup>
マウス	90 日間 亜急性毒 性試験	0、100、400、2,000、 6,000 ppm ----- 雄：0、21、77、390、 1,140 雌：0、32、128、610、 1,660	雄：21 雌：128	雄：77 雌：610	雄：TG 及び Chol 減少 雌：肝絶対及び比重量増 加等
	18 か月 発がん性 試験	0、150、750、3,000、 6,000 ppm ----- 雄：0、21、107、468、 996 雌：0、33、158、652、 1,310	雄：21 雌：33	雄：107 雌：158	雌雄：肝臓の大滴性脂肪 化等  (発がん性は認められな い)
ウサギ	発生毒性 試験	0、10、25、60	母動物及び 胎児：25	母動物及び 胎児：60	母動物：体重増加抑制等 胎児：肢過屈曲増加  (催奇形性は認められな い)
イヌ	90 日間 亜急性 毒性試験	雄：0、300、1,500、 10,000 ppm 雌：0、300、1,500、 7,500 ppm ----- 雄：0、9、45、295 雌：0、10、51、238	雄：9 雌：10	雄：45 雌：51	雌雄：Chol 減少等
	1 年間 慢性毒性 試験	雄：0、300、1,500、 12,000 ppm 雌：0、300、1,500、 9,000 ppm ----- 雄：0、8、39、335 雌：0、9、43、257	雄：8 雌：9	雄：39 雌：43	雌雄：肝細胞色素沈着 (鉄陽性) 等

1 <sup>1)</sup>：備考に最小毒性量で認められた主な毒性所見を記した。

2 -：無毒性量又は最小毒性量は設定できなかった。

3

## 1 &lt;別紙1:代謝物/分解物略称&gt;

略称	化学名
F001	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル-1 <i>H</i> -ピラゾール-4-カルボン酸
F002	3-(ジフルオロメチル)-1 <i>H</i> -ピラゾール-4-カルボン酸
F004	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> [(1-グルクロニル)オキシ-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> -ピラゾール-4-カルボキサミド
F005	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> [5'-ヒドロキシ-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> -ピラゾール-4-カルボキサミド
F006	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> [ヒドロキシ-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> -ピラゾール-4-カルボキサミド
F007	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル-1 <i>H</i> -ピラゾール-4-カルボキサミド
F008	3-(ジフルオロメチル)- <i>N</i> [3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> -ピラゾール-4-カルボキサミド
F009 F036	3-(ジフルオロメチル)- <i>N</i> [ヒドロキシ-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> -ピラゾール-4-カルボキサミド
F010	3-(ジフルオロメチル)- <i>N</i> [ヒドロキシ-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> -ピラゾール-4-カルボキサミド
F011	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> [ヒドロキシ-(1-グルクロニル)オキシ-3',[4'あるいは5']-ジフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> -ピラゾール-4-カルボキサミド
F014	3-(ジフルオロメチル)- <i>N</i> [(1-グルクロニル)オキシ-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> -ピラゾール-4-カルボキサミド
F015	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> [(1-グルクロニル)オキシ-3',[4'あるいは5']-ジフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> -ピラゾール-4-カルボキサミド
F016	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> [メチルチオ-ヒドロキシ-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> -ピラゾール-4-カルボキサミド
F020	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> [ヒドロキシ-(1-グルクロニル)オキシ-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> -ピラゾール-4-カルボキサミド
F023	3-(ジフルオロメチル)- <i>N</i> [(1-グルクロニル)オキシ-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> -ピラゾール-4-カルボキサミド
F024 F040	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> [ヒドロキシ-3',[4'あるいは5']-ジフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> -ピラゾール-4-カルボキサミド
F025	3-(ジフルオロメチル)- <i>N</i> [(ヒドロキシスルホニル)オキシ-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> -ピラゾール-4-カルボキサミド
F026	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> [(ヒドロキシスルホニル)オキシ-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> -ピラゾール-4-カルボキサミド
F027	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> [(ヒドロキシスルホニル)オキシ-3',[4'あるいは5']-ジフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> -ピラゾール-4-カルボキサミド
F028	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> [メチルチオ-(1-グルクロニル)オキシ-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> -ピラゾール-4-カルボキサミド
F032 F046	3-(ヒドロキシカルボニル)- <i>N</i> [3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> -ピラゾール-4-カルボキサミド
F033 F047	3-(ジフルオロメチル)- <i>N</i> [3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> -ヒドロキシピラゾール-4-カルボキサミド

F034 F111	3-(ジフルオロメチル)-1-グルクロニル- <i>N</i> -[3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> ピラゾール-4-カルボキサミド
F038	3-(ジフルオロメチル)- <i>N</i> -[ヒドロキシ-3',[4'あるいは5']-ジフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> ピラゾール-4-カルボキサミド
F039	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> -[ジヒドロキシ-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> ピラゾール-4-カルボキサミド
F042	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> -[ヒドロキシ-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> ピラゾール-4-カルボキサミド
F043	3-(ヒドロキシカルボニル)-1-メチル- <i>N</i> -[ヒドロキシ-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> ピラゾール-4-カルボキサミド
F044	3-(ヒドロキシカルボニル)-1-メチル- <i>N</i> -[3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> ピラゾール-4-カルボキサミド
F048	3-(ジフルオロメチル)-1-グルコシド- <i>N</i> -[3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> ピラゾール-4-カルボキサミド
F057	3-(ジフルオロメチル)-1-メトキシグルコシド- <i>N</i> -[3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> ピラゾール-4-カルボキサミド
F058 F130	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> -[(マロニルグルコシドオキシ)3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> ピラゾール-4-カルボキサミド
F059	3-(ジフルオロメチル)-1-メトキシマロニルグルコシド- <i>N</i> -[3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> ピラゾール-4-カルボキサミド
F060	3-(ジフルオロメチル)-1-マロニルグルコシド- <i>N</i> -[3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> ピラゾール-4-カルボキサミド
F061	3-(ジフルオロメチル)-5-(1-グルクロニル)オキシ- <i>N</i> -[3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> ピラゾール-4-カルボキサミド
F063	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> -[( <i>S</i> -システイニル)-ヒドロキシ-3',[4'あるいは5']-ジフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> ピラゾール-4-カルボキサミド
F074 F075	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> -[( <i>O</i> -グルコシド)-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> ピラゾール-4-カルボキサミド
F082	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> -(ベンゼン-2-カルボキシル)-1 <i>H</i> ピラゾール-4-カルボキサミド
F113	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> -[( <i>C</i> -グリシル)-( <i>S</i> -システイニル)-ヒドロキシ-3',[4'あるいは5']-ジフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> ピラゾール-4-カルボキサミド
F114	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> -[( <i>S</i> -システイニル)-(1-グルクロニル)オキシ-3',[4'あるいは5']-ジフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> ピラゾール-4-カルボキサミド
F115	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> -[( <i>C</i> -グリシル)-( <i>S</i> -システイニル)-ヒドロキシ-3',[4'あるいは5']-ジフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> ピラゾール-4-カルボキサミド
F116	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> -[( <i>S</i> -システイニル)-ヒドロキシ-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> ピラゾール-4-カルボキサミド
F117	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> -[( <i>S</i> -システイニル)-ヒドロキシ-3',[4'あるいは5']-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> ピラゾール-4-カルボキサミド
F118	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル- <i>N</i> -[( <i>S</i> -システイニル)-ヒドロキシ-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1 <i>H</i> ピラゾール-4-カルボキサミド

F120	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル-N[(S-システイニル)-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1Hピラゾール-4-カルボキサミド
F121	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル-N[(S-システイニル)-ヒドロキシ-3',[4'あるいは5']-ジフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1Hピラゾール-4-カルボキサミド
F122	3-(ジフルオロメチル)-N[(S-システイニル)-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1Hピラゾール-4-カルボキサミド
F123	3-(ジフルオロメチル)-N[(1-グルクロニル)オキシ-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1Hピラゾール-4-カルボキサミド
F124	3-(ジフルオロメチル)-N[2'-(1-グルクロニル)オキシ-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1Hピラゾール-4-カルボキサミド
F125	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル-N[2'-(1-グルクロニル)オキシ-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1Hピラゾール-4-カルボキサミド
F131	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル-N[2'-(1-フェルロイルグルコシド)オキシ-3',4',5'-トリフルオロ(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1Hピラゾール-4-カルボキサミド
F132	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル-N[ベンゼン-2-(2-アルキルジカルボキシル)]-1Hピラゾール-4-カルボキサミド
F133	3-(ジフルオロメチル)-1-メチル-N[3',[4'あるいは5']-ジフルオロ
F134	(1,1'-ビフェニル)-2-イル]-1Hピラゾール-4-カルボキサミド

1  
2

## 1 &lt;別紙2：検査値等略称&gt;

略称	名称
ai	有効成分量 (active ingredient)
Alb	アルブミン
ALP	アルカリホスファターゼ
ALT	アラニンアミノトランスフェラーゼ [=グルタミン酸ピルビン酸トランスアミナーゼ (GPT) ]
AUC	薬物濃度曲線下面積
BrdU	5-プロモ-2'-デオキシウリジン
BROD	ベンジルオキシレゾルフィン <i>O</i> -デペンチラーゼ
Chol	コレステロール
Cre	クレアチニン
EROD	エトキシレゾルフィン <i>O</i> -デエチラーゼ
FOB	機能観察総合検査
GGT	$\gamma$ -グルタミルトランスフェラーゼ [= $\gamma$ -グルタミルトランスペプチダーゼ ( $\gamma$ -GTP) ]
Glob	グロブリン
Glu	グルコース (血糖)
C <sub>max</sub>	最高濃度
CMC	カルボキシメチルセルロース
HOBIGT	4-ヒドロキシビフェニルグルクロニルトランスフェラーゼ
LC <sub>50</sub>	半数致死濃度
LD <sub>50</sub>	半数致死量
MUG-GT	4-メチルウンベリフェロングルクロニルトランスフェラーゼ
P450	チトクローム P450
PB	フェノバルビタール (ナトリウム)
PROD	ペントキシレゾルフィン <i>O</i> -デペンチラーゼ
PT	プロトロンビン時間
PTU	プロピルチオウラシル
T <sub>1/2</sub>	消失半減期
T <sub>3</sub>	トリヨードサイロニン
T <sub>4</sub>	サイロキシン
T <sub>4</sub> -UDP-GT	T <sub>4</sub> -UDP-グルクロノシルトランスフェラーゼ
T.Bil	総ビリルビン
TG	トリグリセリド
TP	総蛋白質
T <sub>max</sub>	最高濃度到達時間
TAR	総投与 (処理) 放射能
TRR	総残留放射能

TSH	甲状腺刺激ホルモン
UDS	不定期 DNA 合成
Ure	尿素

1

2

1 <別紙 3：作物残留試験成績（海外）>

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)						
					1 回 当り	1 作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計		
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)															
とう もろ こし	6.25% EC	Pepin, WI, 米国	-	-	-	-	穀粒*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
			2	7	101	202	穀粒*	7	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01		
						102	201	穀粒*	7	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01	
		RM of Portage la Prairie, MB, カダ	-	-	-	-	穀粒*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
			2	7	101	201	穀粒*	7	0.07	<LOD	<LOQ	<LOD	0.08		
						101	200	穀粒*	7	0.09	<LOD	<LOQ	<LOD	0.10	
		York, NE, 米国	-	-	-	-	穀粒*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
			2	7	101	201	穀粒*	7	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01		
						8	100	198	穀粒*	7	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01
		Stoddard, MO, 米国	-	-	-	-	穀粒*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
			2	7	99	198	穀粒*	7	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01		
						100	200	穀粒*	7	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01	
		Clarke, GA, 米国	-	-	-	-	穀粒*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
			2	7	98	197	穀粒*	7	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01		
								穀粒*	7	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01	
		MD of Taber, AB, カダ	-	-	-	-	穀粒*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
			2	9	101	200	穀粒*	5	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01		
								穀粒*	5	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01	
		Fresno, CA, 米国	-	-	-	-	穀粒*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
			2	7	99	197	穀粒*	7	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01		
						穀粒*	7	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01			
Payette, ID, 米国	-	-	-	-	穀粒*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-				
	2	7	102	202	穀粒*	7	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01				
						穀粒*	7	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01			
Hood River, OR, 米国	-	-	-	-	穀粒*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-				
	2	7	99	198	穀粒*	7	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01				
						穀粒*	7	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01			

2 \*穀粒+外皮を除いた穂軸

3 すべて茎葉処理。

4 <LOD: <0.002 ppm

5

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)						
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計		
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)															
とう もろ こし	6.25% EC	Wayne, NY, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
			2	7	101	203	穀粒	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01		
						105	205	穀粒	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01	
		Tift, GA, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			2	7	102	202	穀粒	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01		
						102	203	穀粒	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01	
		Pepin, WI, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			2	7	101	202	穀粒	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01		
						102	201	穀粒	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01	
		RM of Portage la Prairie, MB, カナダ	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			2	7	101	201	穀粒	22	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01	
						101	200	穀粒	22	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01	
		Pepin, WI, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			2	7	102	203	穀粒	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01	
						101	202	穀粒	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01	
		York, NE, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			2	7	101	201	穀粒	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01	
						8	100	198	穀粒	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01
		Cass, ND, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			2	8	102	201	穀粒	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01	
						7	101	202	穀粒	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01
		Ottawa, MI, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			2	7	100	199	穀粒	20	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01	
						100	200	穀粒	20	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01	
		Freeborn, MN, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			2	7	104	204	穀粒	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01	
						6	102	202	穀粒	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01
		Pepin, WI, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
2	7		102	203	穀粒	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01			
				102	201	穀粒	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01			
Steele, MN, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-			
	2	7	104	202	穀粒	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01			
				6	102	201	穀粒	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01		

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)						
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド <sup>1</sup>	F002	F008	F048	合計		
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)															
とう もろ こし	6.25% EC	Stoddard, MO, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
			2	7	99	198	穀粒	22	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01		
					100	200	穀粒	22	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01		
		Clinton, IL, 米国	2	7	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
					99	198	穀粒	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01		
		98	195	穀粒	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01			
		RM of Grey, MB, カナダ	2	7	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
					100	195	穀粒	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01		
		104	205	穀粒	21	<LOQ	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01			
Wharton, TX, 米国	2	7	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
			101	202	穀粒	20	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01				
8	104	206	穀粒	20	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01					

- 1 すべて茎葉処理。
- 2 <LOD: <0.002 ppm
- 3

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)					
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計	
試験実施機関 : BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)														
小麦	6.25% EC	Tift, GA, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			2	6	101	201	穀粒	22	0.06	<LOD	<LOQ	<LOD	0.07	
				7	99	196	穀粒	22	0.05	<LOD	<LOQ	<LOD	0.06	
		Butler, MO, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			2	6	100	199	穀粒	21	0.14	<LOD	0.03	<LOD	0.17	
		7		100	199	穀粒	21	0.10	<LOD	0.02	<LOD	0.12		
		Polk, NE, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			2	8	102	202	穀粒	21	0.07	<LOD	0.01	<LOD	0.08	
		7		100	199	穀粒	21	0.07	<LOD	0.01	<LOD	0.08		
		Cass, ND, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			2	7	100	200	穀粒	20	0.02	<LOD	<LOQ	<LOD	0.03	
		101			198	穀粒	20	0.03	<LOD	<LOQ	<LOD	0.04		
		Kent, MI, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			2	6	99	198	穀粒	21	0.05	<LOD	<LOQ	<LOD	0.06	
		7		100	198	穀粒	21	0.04	<LOD	0.01	<LOD	0.05		
		Wharton, TX, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			2	6	102	202	穀粒	20	0.07	<LOD	<LOQ	<LOD	0.08	
		8		101	201	穀粒	20	0.04	<LOD	<LOD	<LOD	0.04		
		Hall, NE, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			2	7	103	204	穀粒	21	0.07	<LOD	0.01	<LOD	0.08	
		101			201	穀粒	21	0.08	<LOD	0.02	<LOD	0.10		
		York, NE, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			2	8	102	204	穀粒	7	0.40	<LOD	0.05	<LOQ	0.46	
								14	0.28	<LOD	0.05	<LOQ	0.34	
								21	0.11	<LOD	0.02	<LOD	0.13	
								28	0.09	<LOD	0.02	<LOD	0.11	
					7	101	201	穀粒	7	0.38	<LOD	0.05	<LOQ	0.44
					14	0.27	<LOD	0.05	<LOQ	0.33				
21	0.10	<LOD	0.02	<LOD	0.12									
28	0.09	<LOD	0.02	<LOD	0.11									
RM of Vanscoy, SK, カナダ	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-			
	2	7	102	203	穀粒	20	0.04	<LOD	<LOQ	<LOD	0.05			
100			200	穀粒	20	0.07	<LOD	<LOQ	<LOD	0.08				

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関 : BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
小麦	6.25% EC	Stutsman, ND, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	105	204	穀粒	20	0.05	<LOD	<LOQ	<LOD	0.06
					102	203	穀粒	20	0.05	<LOD	<LOQ	<LOD	0.06
		RM of Portage la Prairie, MB, カナダ	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	102	195	穀粒	21	0.05	<LOD	<LOQ	<LOD	0.06
		100			197	穀粒	21	0.05	<LOD	<LOQ	<LOD	0.06	
		Taber, AB, カナダ	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	104	202	穀粒	27	0.08	<LOD	<LOQ	<LOD	0.09
		105			205	穀粒	27	0.08	<LOD	<LOQ	<LOD	0.09	
		Caddo, OK, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	100	198	穀粒	25	0.02	<LOD	<LOD	<LOD	0.02
		8			97	穀粒	25	0.02	<LOD	<LOQ	<LOD	0.03	
		Pawnee, KS, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	8	101	199	穀粒	21	0.12	<LOD	<LOQ	<LOD	0.13
		7			102	穀粒	21	0.14	<LOD	<LOQ	<LOD	0.15	
		Barton, KS, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	102	201	穀粒	21	<LOQ	<LOD	<LOQ	<LOD	<0.01
		100			201	穀粒	21	0.05	<LOD	<LOQ	<LOD	0.06	
		Washita, OK, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	103	204	穀粒	21	0.11	<LOD	<LOQ	<LOD	0.12
		8			102	穀粒	21	0.07	<LOD	<LOQ	<LOD	0.08	
		Payette, ID, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	101	201	穀粒	21	0.05	<LOD	<LOD	<LOD	0.05
		101			201	穀粒	21	0.04	<LOD	<LOD	<LOD	0.04	
		RM of Laird, SK, カナダ	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	100	200	穀粒	20	0.17	<LOD	<LOQ	<LOD	0.18
		8			100	穀粒	20	0.15	<LOD	<LOQ	<LOD	0.16	
		RM of Laird, SK, カナダ	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
2	7		100	200	穀粒	20	0.19	<LOD	<LOQ	<LOD	0.20		
		8	99	穀粒	20	0.19	<LOD	<LOQ	<LOD	0.20			
RM of Whitewater, MB, カナダ	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
	2	7	104	206	穀粒	21	0.05	<LOD	0.04	<LOD	0.09		
101			203	穀粒	21	0.05	<LOD	<LOQ	<LOD	0.06			

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド <sup>1</sup>	F002	F008	F048	合計
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
小麦	6.25% EC	RM of Rosthern, SK, カナダ <sup>2</sup>	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	8	102	201	穀粒	21	0.10	<LOD	<LOQ	<LOD	0.11
				6	102	203	穀粒	21	0.12	<LOD	<LOQ	<LOD	0.13
		RM of Rosthern, SK, カナダ <sup>2</sup>	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	8	102	202	穀粒	21	0.11	<LOD	<LOQ	<LOD	0.12
		6		103	202	穀粒	21	0.11	<LOD	<LOQ	<LOD	0.12	
		RM of Dundurn, SK, カナダ <sup>2</sup>	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	99	196	穀粒	21	0.12	<LOD	<LOQ	<LOD	0.13
		100			200	穀粒	21	0.12	<LOD	<LOQ	<LOD	0.13	
		Stutsman, ND, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	101	200	穀粒	20	0.11	<LOD	0.02	<LOD	0.13
		8		102	202	穀粒	20	0.08	<LOD	0.01	<LOD	0.09	
		Strathcona, AB, カナダ <sup>2</sup>	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	8	100	199	穀粒	7	0.19	<LOD	<LOQ	<LOD	0.20
							穀粒	13	0.17	<LOD	<LOQ	<LOD	0.18
							穀粒	20	0.21	<LOD	<LOQ	<LOD	0.22
穀粒	27						0.21	<LOD	<LOQ	<LOD	0.22		
99	197		穀粒	7	0.18	<LOD	<LOQ	<LOD	0.19				
			穀粒	13	0.15	<LOD	<LOQ	<LOD	0.16				
		穀粒	20	0.16	<LOD	<LOQ	<LOD	0.17					
穀粒	27	0.20	<LOD	<LOQ	<LOD	0.21							

- 1 すべて茎葉処理。
- 2 <LOQ:<0.01 ppm
- 3 <LOD: <0.002 ppm
- 4

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
ソル ガム	6.25% EC	Butler, MO, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	101	201	穀粒	21	0.13	<LOD	<LOQ	<LOD	0.14
					101	201	穀粒	21	0.12	<LOD	0.01	<LOD	0.13
		Ottawa, MI, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	100	199	穀粒	20	0.15	<LOD	<LOQ	<LOD	0.16
		100			199	穀粒	20	0.14	<LOD	<LOQ	<LOD	0.15	
		Cass, ND, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	8	100	199	穀粒	21	0.13	<LOD	0.04	<LOQ	0.18
				7	100	200	穀粒	21	0.17	<LOD	0.05	<LOQ	0.23
		Caddo, OK, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	8	99	197	穀粒	23	0.18	<LOD	<LOQ	<LOD	0.19
				6	102	201	穀粒	23	0.19	<LOD	<LOQ	<LOD	0.20
		Wharton, TX, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	102	201	穀粒	20	0.19	<LOD	<LOQ	<LOD	0.20
				7	101	201	穀粒	20	0.43	<LOD	0.01	<LOQ	0.45
		Clarke, GA, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	101	198	穀粒	21	0.41	<LOD	<LOQ	<LOD	0.42
		101			201	穀粒	21	0.38	<LOD	<LOQ	<LOD	0.39	
		York, NE, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	102	203	穀粒	22	0.21	<LOD	0.01	<LOQ	0.23
		100			199	穀粒	22	0.20	<LOD	0.01	<LOQ	0.22	
		Pawnee, KS, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	102	202	穀粒	21	0.16	<LOD	<LOQ	<LOD	0.17
		100			199	穀粒	21	0.17	<LOD	<LOQ	<LOD	0.18	
Stafford, KS, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
	2	7	101	200	穀粒	21	0.30	<LOD	0.08	<LOQ	0.39		
104			201	穀粒	21	0.17	<LOD	0.04	<LOQ	0.22			

1 すべて茎葉処理。

2

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
稲	6.25% EC	Stoddard, MO, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	101	200	穀粒	22	0.50	<LOD	0.02	<LOD	0.52
		Butler, MO, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	8	101	201	穀粒	22	0.67	<LOD	0.02	<LOQ	0.70
		Pima, AR, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	100	199	穀粒	21	0.08	<LOD	<LOQ	<LOQ	0.09
		Clay, AR, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	8	101	200	穀粒	21	0.35	<LOD	<LOQ	<LOD	0.36
							穀粒	21	0.30	<LOD	<LOQ	<LOD	0.31
		Wharton, TX, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	100	197	穀粒	20	0.51	<LOD	<LOQ	<LOD	0.52
		穀粒					20	0.51	<LOD	<LOQ	<LOD	0.52	
		Glenn, CA, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	100	199	穀粒	21	1.58	<LOD	<LOQ	<LOD	1.59
		穀粒					21	1.96	<LOD	<LOQ	<LOD	1.97	
		Wharton, TX, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	-*	-*	-*	-
			2	6	101	200	穀粒	21	1.21	<LOD	0.03	<LOQ	1.25
							穀粒	21	1.51	<LOD	0.03	<LOQ	1.55
							穀粒	22	1.25	<LOD	0.03	<LOQ	1.29
							穀粒	22	1.16	<LOD	0.03	<LOQ	1.20
							穀粒	24	1.43	<LOD	0.03	<LOQ	1.47
							穀粒	24	1.29	<LOD	0.03	<LOQ	1.33
							穀粒	28	1.29	<LOD	0.03	<LOQ	1.33
穀粒	28						1.26	<LOD	0.03	<LOQ	1.30		
穀粒	30						1.33	<LOD	0.03	<LOQ	1.37		
穀粒	30	1.21					<LOD	0.03	<LOQ	1.25			
Glenn, CA, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
	2	7	102	204	穀粒	21	1.28	<LOD	<LOQ	<LOD	1.29		
穀粒					21	1.05	<LOD	<LOQ	<LOD	1.06			

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
稲	6.25% EC	Rapides Parish, LA, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	100	200	穀粒	20	1.17	<LOD	0.01	<LOQ	1.19
							穀粒	20	1.18	<LOD	0.01	<LOQ	1.20
		Rapides Parish, LA, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	101	201	穀粒	20	1.19	<LOD	0.02	<LOQ	1.22
		Washington MS, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	102	201	穀粒	21	0.65	<LOD	<LOQ	<LOQ	0.66
		Washington MS, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	102	201	穀粒	26	0.36	<LOD	<LOQ	<LOD	0.37
						穀粒	26	0.40	<LOQ	<LOQ	<LOD	0.42	

- 1 すべて茎葉処理。
- 2 \*:この分析は2連で行われなかった。
- 3 <LOQ: <0.01 ppm      <LOD:      <0.002 ppm

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド <sup>1</sup>	F002	F008	F048	合計
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
大麦	6.25% EC	Payette, ID, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	8	103	204	穀粒	21	0.49	<LOD	<LOQ	<LOD	0.50
							穀粒	21	0.55	<LOD	0.01	<LOD	0.56
		Wayne, NY, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	101	200	穀粒	21	0.42	<LOD	0.02	<LOQ	0.45
						穀粒	21	0.35	<LOD	0.02	<LOQ	0.38	
		Pepin, WI, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	0.77	<LOD	<LOQ	<LOD	-
			2	8	102	202	穀粒	20	<LOQ	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01
						穀粒	20	-*	-*	-*	-*	-*	
		RM of Dundurn, SK, カナダ	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	100	200	穀粒	21	0.53	<LOD	<LOQ	<LOD	0.54
							穀粒	21	0.54	<LOD	<LOQ	<LOD	0.55
		RM of Vanscoy, SK, カナダ	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	102	203	穀粒	20	0.36	<LOD	<LOQ	<LOD	0.37
						穀粒	20	0.42	<LOD	<LOQ	<LOD	0.43	
		Hall, NE, 米国	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	101	202	穀粒	21	0.51	<LOD	0.02	<LOD	0.53
						穀粒	21	0.52	<LOD	0.02	<LOD	0.54	
		MD of Lethbridge, AB, カナダ	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	101	201	穀粒	21	0.86	<LOD	<LOQ	<LOD	0.87
						穀粒	21	0.88	<LOD	<LOQ	<LOD	0.89	
		MD of Taber, AB, カナダ	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	10	102	200	穀粒	21	1.09	<LOD	<LOQ	<LOD	1.10
						穀粒	21	0.94	<LOD	<LOQ	<LOD	0.95	
		RM of Laird, SK, カナダ	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	103	203	穀粒	22	0.82	<LOD	0.02	<LOD	0.84
				穀粒	22	0.81	<LOD	0.02	<LOD	0.83			
RM of Rosthern, SK, カナダ	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
	2	6	103	204	穀粒	21	0.54	<LOD	0.02	<LOD	0.56		
				穀粒	21	0.45	<LOD	0.01	<LOD	0.46			

1 \*：この分析は行われなかった。

2

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関: BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
大麦	6.25% EC	RM of Coldwell, MB, カナダ	-	-	-	-	穀粒	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	102	198	穀粒	20	0.38	<LOD	0.03	<LOD	0.41
							穀粒	20	0.28	<LOD	0.02	<LOD	0.30
							穀粒	21	0.27	<LOD	0.02	<LOD	0.29
							穀粒	21	0.37	<LOD	0.02	<LOD	0.39
							穀粒	25	0.41	<LOD	0.03	<LOD	0.44
							穀粒	25	0.38	<LOD	0.03	<LOD	0.41
							穀粒	27	**	**	**	**	**
							穀粒	27	0.41	<LOD	0.03	<LOD	0.44
							穀粒	31	0.37	<LOD	0.03	<LOD	0.40
	穀粒	31	0.37	<LOD	0.03	<LOD	0.40						
	RM of Woodlands, MB, カナダ	-	-	-	-	穀粒	-	0.03	<LOD	<LOD	<LOD	-	
		2	8	103	202	穀粒	20	1.65	<LOD	0.06	<LOD	1.72	
穀粒						20	0.78	<LOD	0.03	<LOD	0.81		

- 1 すべて茎葉処理。
- 2 \*\*: 容器破損のためサンプル分析を行わなかった。
- 3 <LOQ: <0.01 ppm
- 4 <LOD: <0.002 ppm
- 5

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散 布 間 隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部 位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付 け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
エンド ウ	6.25% EC	Wayne, NY, 米国	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	100	199	子実*	7	0.49	ND	0.01	ND	0.51
		Lehigh, PA, 米国	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	102	204	子実*	6	0.75	<0.01	<0.01	ND	0.77
		Portage la Prairie, MB, カナダ	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	102	201	子実*	7	0.63	ND	0.02	ND	0.66
		Freeborn, MN, 米国	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	105	207	子実*	4	0.97	<0.01	<0.01	<0.01	0.99
		Stutsman, IL, 米国	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	102	202	子実*	0	1.04	ND	<0.01	ND	1.05
			子実*	0	0.75	ND	<0.01	ND	0.76				
			子実*	4	0.71	ND	<0.01	ND	0.72				
			子実*	4	0.68	ND	<0.01	ND	0.69				
			子実*	7	0.78	ND	<0.01	<0.01	0.79				
			子実*	7	0.67	ND	<0.01	<0.01	0.68				
			子実*	13	0.13	ND	ND	ND	0.14				
		Grant, WA, 米国	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	101	201	子実*	7	0.21	ND	0.01	<0.01	0.23
		子実*	7	0.25	ND	0.01	<0.01	0.27					
		Fresno, CA, 米国	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	102	203	子実*	7	0.66	ND	ND	ND	0.67
		子実*	7	0.63	ND	ND	ND	0.64					
		Jerome, ID, 米国	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	100	200	子実*	7	0.26	ND	0.02	<0.01	0.29
子実*	7	0.17	ND	0.02	<0.01	0.20							

1 すべて茎葉処理。

2 \*:さやつき未成熟子実。

3 ND: <LOD, <0.003125 ppm

<LOD: <0.003125 ppm

4

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散 布 間 隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部 位	PHI (日)	残留濃度(ppm)						
					1回 当り	1作 付 け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計		
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)															
エンド ウ	6.25% EC	Grant, WA, 米国	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
			2	7	100	200	子実*	0	0.91	ND	<0.01	ND	0.92		
							子実*	0	1.04	ND	<0.01	ND	1.05		
							子実*	4	0.27	ND	0.01	ND	0.29		
							子実*	4	0.25	ND	<0.01	ND	0.26		
							子実*	7	0.17	ND	<0.01	ND	0.18		
							子実*	7	0.16	ND	<0.01	<0.01	0.17		
							子実*	14	0.09	ND	<0.01	ND	0.10		
						子実*	14	0.08	ND	<0.01	<0.01	0.09			
				Wayne, NY, 米国	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
		2	7		100	199	子実**	7	0.04	ND	ND	ND	0.05		
								子実**	7	0.04	ND	ND	ND	0.05	
				Lehigh, PA, 米国	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
		2	6		102	204	子実**	6	0.03	<0.01	ND	ND	0.04		
								子実**	6	0.03	<0.01	ND	ND	0.04	
				Portage la Prairie, MB, カダ	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
		2	6		102	201	子実**	7	0.04	ND	ND	ND	0.05		
								子実**	7	0.03	ND	ND	ND	0.04	
				Freeborn, MN, 米国	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
		2	7		105	207	子実**	4	0.04	ND	ND	ND	0.05		
								子実**	4	0.05	ND	ND	ND	0.06	
				Stutsman, IL, 米国	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
		2	7		102	202	子実**	0	0.03	ND	ND	ND	0.04		
							子実**	0	0.08	ND	ND	ND	0.09		
							子実**	4	0.06	ND	ND	ND	0.07		
							子実**	4	0.05	ND	ND	ND	0.06		
							子実**	7	0.03	ND	ND	ND	0.04		
							子実**	7	0.03	ND	ND	ND	0.04		
							子実**	13	0.03	ND	ND	ND	0.04		
						子実**	13	0.02	ND	ND	ND	0.03			
		Grant, WA, 米国	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
2	7		101	201	子実**	7	0.03	ND	ND	ND	0.04				
						子実**	7	0.03	ND	ND	ND	0.04			

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散 布 回 数 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部 位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付け 当り			フル キサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関: BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
エンド ウ	6.25% EC	Fresno, CA, 米国	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	102	203	子実**	7	<0.01	ND	ND	ND	0.01
							子実**	7	<0.01	ND	ND	ND	0.01
		Jerome, ID, 米国	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	100	200	子実**	7	0.03	ND	ND	ND	0.04
						子実**	7	0.03	ND	ND	ND	0.04	
		Grant, WA, 米国	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	100	200	子実**	0	0.02	ND	ND	ND	0.03
							子実**	0	0.02	ND	ND	ND	0.03
							子実**	4	0.02	ND	ND	ND	0.03
							子実**	4	0.02	ND	ND	ND	0.03
							子実**	7	0.02	ND	ND	ND	0.03
							子実**	7	0.02	ND	ND	ND	0.03
							子実**	14	0.02	ND	ND	ND	0.03
				子実**	14	0.02	ND	ND	ND	0.03			

1 すべて茎葉処理。

2 \*: さやつき未成熟子実。

\*\* : さやなし未成熟子実。

3 ND: <LOD, <0.003125 ppm

<LOD: <0.003125 ppm

4

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散 布 間 隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部 位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付け 当り			フル キサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
エンド ウ	6.25% EC	Wayne, NY, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	101	201	乾燥子実	21	0.12	ND	<0.01	ND	0.13
							乾燥子実	21	0.20	ND	<0.01	ND	0.21
		Lehigh, PA, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	103	203	乾燥子実	21	0.02	<0.01	ND	ND	0.03
							乾燥子実	21	0.02	<0.01	ND	ND	0.03
		Portage la Prairie, MB, カナダ	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	101	200	乾燥子実	21	0.12	<0.01	<0.01	ND	0.14
						乾燥子実	21	0.09	ND	<0.01	ND	0.10	
		Freeborn, MN, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	105	207	乾燥子実	21	<0.01	ND	ND	ND	<0.01
						乾燥子実	21	<0.01	ND	ND	ND	<0.01	
		Stutsman, IL, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	100	195	乾燥子実	21	0.03	ND	ND	ND	0.04
						乾燥子実	21	0.04	ND	ND	ND	0.05	
		RM 403, SK, カナダ	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	104	206	乾燥子実	22	<0.01	ND	ND	ND	<0.01
						乾燥子実	22	<0.01	ND	ND	ND	<0.01	
		RM 404, SK, カナダ	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	102	203	乾燥子実	21	0.02	ND	ND	ND	0.03
				乾燥子実	21	0.02	ND	ND	ND	0.03			
Red Deer, AB, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
	2	7	100	195	乾燥子実	21	0.15	<0.01	<0.01	ND	0.17		
				乾燥子実	21	0.14	<0.01	<0.01	ND	0.16			
Red Deer, AB, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
	2	7	102	200	乾燥子実	22	0.10	ND	ND	ND	0.11		
				乾燥子実	22	0.08	ND	ND	ND	0.09			

1 すべて茎葉処理。

2 ND: <LOD, <0.003125 ppm

<LOD: <0.003125 ppm

3

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散 布 間 隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部 位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
インゲン	6.25% EC	RM of Whitewater MB, カタダ	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	100	200	乾燥子実	22	<0.01	ND	ND	ND	<0.01
							乾燥子実	22	<0.01	ND	ND	ND	<0.01
			201	401	乾燥子実	22	<0.01	ND	ND	ND	<0.01		
		乾燥子実			22	0.02	ND	ND	ND	0.03			
		Dane, WI, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	101	201	乾燥子実	21	<0.01	ND	ND	ND	<0.01
							乾燥子実	21	<0.01	ND	ND	ND	<0.01
			205	403	乾燥子実	21	0.01	ND	ND	ND	0.02		
		乾燥子実			21	<0.01	ND	ND	ND	<0.01			
		Brant, ON, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	99	195	乾燥子実	21	<0.01	ND	ND	ND	<0.01
							乾燥子実	21	<0.01	ND	ND	ND	<0.01
			208	404	乾燥子実	21	0.02	ND	ND	ND	0.03		
		乾燥子実			21	0.03	ND	ND	ND	0.04			
		Clinton, IL, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	101	200	乾燥子実	21	<0.01	ND	ND	ND	<0.01
							乾燥子実	21	<0.01	ND	ND	ND	<0.01
			202	401	乾燥子実	21	0.01	ND	ND	ND	0.02		
		乾燥子実			21	<0.01	ND	ND	ND	<0.01			
		Caddo, OK, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	101	201	乾燥子実	21	0.07	ND	0.01	<0.01	0.09
							乾燥子実	21	0.14	ND	0.02	<0.01	0.17
			202	398	乾燥子実	21	0.21	ND	0.03	0.01	0.25		
乾燥子実	21	0.20			ND	0.03	0.01	0.24					
Stutsman, ND, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
	2	9	100	199	乾燥子実	21	0.03	ND	ND	ND	0.04		
					乾燥子実	21	0.06	ND	ND	ND	0.07		
	210	413	乾燥子実	21	0.04	ND	ND	ND	0.05				
乾燥子実			21	0.06	ND	<0.01	ND	0.07					

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散 布 間 隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部 位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付け 当り			フル キサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
インゲン	6.25% EC	LaMoire, ND, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<0.03	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	9	102	200	乾燥子実	21	ND	ND	ND	ND	<0.01
							乾燥子実	21	0.03	ND	ND	ND	0.04
			208	410	乾燥子実	21	0.05	ND	ND	ND	0.06		
		乾燥子実			21	0.04	ND	ND	ND	0.05			
		Pawnee, KS, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	102	202	乾燥子実	21	0.04	ND	ND	ND	0.05
							乾燥子実	21	0.05	ND	ND	ND	0.06
			202	405	乾燥子実	21	0.07	<0.01	ND	<0.01	0.09		
		乾燥子実			21	0.07	<0.01	<0.01	<0.01	0.09			
		Cache, UT, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	102	201	乾燥子実	22	0.01	ND	<0.01	ND	0.02
							乾燥子実	22	0.01	ND	<0.01	<0.01	0.02
			205	406	乾燥子実	22	0.04	ND	0.02	0.01	0.07		
		乾燥子実			22	0.03	ND	0.01	<0.01	0.05			
		Fresno, CA, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	101	201	乾燥子実	21	0.01	ND	ND	ND	0.02
							乾燥子実	21	0.01	ND	ND	ND	0.02
			201	401	乾燥子実	21	0.03	ND	<0.01	ND	0.04		
		乾燥子実			21	0.03	ND	<0.01	ND	0.04			
Grant, WA, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
	2	7	101	201	乾燥子実	21	0.02	ND	ND	ND	0.03		
					乾燥子実	21	0.01	ND	ND	ND	0.02		
	201	401	乾燥子実	21	0.04	ND	ND	ND	0.05				
乾燥子実			21	0.03	ND	ND	ND	0.04					

1 すべて茎葉処理。

2 ND: <LOD, <0.003125 ppm

<LOD: <0.003125 ppm

3

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
大豆	6.25% EC	Tift, GA, 米国	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	101	201	子実*	7	0.30	ND	0.02	<0.01	0.33
		Tift, GA, 米国	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	99	198	子実*	7	0.15	<0.01	0.01	<0.01	0.18
		Butler, MO, 米国	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	8	100	199	子実*	6	0.85	<0.01	0.04	0.01	0.91
		Crittenden, AR, 米国	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	100	200	子実*	7	0.69	<0.01	0.02	<0.01	0.73
		Clinton, IL, 米国	-	-	-	-	子実*	-	<LOQ	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	101	201	子実*	7	0.24	<0.01	0.04	0.01	0.30
		Pepin, WI, 米国	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	101	201	子実*	8	0.09	<0.01	0.01	<0.01	0.12
		Madison, IL, 米国	-	-	-	-	子実*	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	-
			2	6	100	197	子実*	8	0.11	<0.01	0.01	<0.01	0.14
		Cass, ND, 米国	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	102	198	子実*	7	0.27	ND	0.01	<0.01	0.29
		Freeborn, MN, 米国	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	103	204	子実*	7	0.10	<0.01	0.02	<0.01	0.14
		Steele, MN, 米国	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	103	204	子実*	7	0.12	<0.01	0.02	<0.01	0.16
		Pepin, WI, 米国	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	102	202	子実*	28	0.04	0.01	<0.01	<0.01	0.07
							子実*	28	0.04	0.01	<0.01	<0.01	0.07

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散 布 間 隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部 位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付 け 当り			フル キサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
大豆	6.25% EC	Stoddard, MO, 米国	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	100	199	子実*	8	0.53	<0.01	0.06	0.03	0.63
		Grey, MB, カタ	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	99	198	子実*	8	0.10	ND	0.01	<0.01	0.12
		Grey, MB, カタ	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	102	204	子実*	0	0.77	ND	<0.01	ND	0.78
		Portage la Prairie, MB, カタ	-	-	-	-	子実*	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	8	99	192	子実*	0	1.31	<0.01	0.05	<0.01	1.38
			子実*	0	1.40	<0.01	0.05	<0.01	1.47				
			子実*	5	1.15	0.02	0.12	0.03	1.34				
			子実*	5	1.11	0.02	0.12	0.02	1.30				
			子実*	8	0.20	0.02	0.03	<0.01	0.28				
			子実*	8	0.21	0.01	0.04	<0.01	0.28				
			子実*	15	0.15	0.03	0.06	0.02	0.30				
		子実*	15	0.19	0.03	0.06	0.02	0.34					

1 すべて茎葉処理。

2 \*: さやつき未成熟子実。

3 ND:<LOD, <0.003125 ppm

<LOD:<0.003125 ppm

<LOQ:<0.01 ppm

4

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部 位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
大豆	6.25% EC	Tift, GA, 米国	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	101	201	子実**	7	0.01	ND	ND	ND	0.02
		Tift, GA, 米国	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	99	198	子実**	7	<0.01	<0.01	ND	ND	<0.02
		Butler, MO, 米国	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	8	100	199	子実**	6	0.04	<0.01	<0.01	<0.01	0.06
		Crittenden, AR, 米国	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	100	200	子実**	7	0.35	<0.01	ND	ND	0.36
		Clinton, IL, 米国	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	101	201	子実**	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.03
		Pepin, WI, 米国	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	101	201	子実**	8	0.09	<0.01	0.01	<0.01	0.12
		Madison, IL, 米国	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	100	197	子実**	8	<0.01	<0.01	ND	ND	<0.02
		Cass, ND, 米国	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	102	198	子実**	7	0.04	ND	ND	ND	0.05
		Freeborn, MN, 米国	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	103	204	子実**	7	<0.01	<0.01	ND	<0.01	<0.02
		Steele, MN, 米国	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	103	204	子実**	7	<0.01	<0.01	ND	ND	<0.02
		Pepin, WI, 米国	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	102	202	子実**	28	0.03	<0.01	<0.01	<0.01	0.05
							子実**	28	0.04	<0.01	<0.01	<0.01	0.06

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散 布 間 隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部 位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
大豆	6.25% EC	Stoddard, MO, 米国	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	100	199	子実**	8	0.02	<0.01	0.01	0.02	0.06
		Grey, MB, カナダ	-	-	-	-	子実**	-	<LOQ	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	99	198	子実**	8	<0.01	ND	ND	<0.01	<0.01
		Grey, MB, カナダ	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	6	102	204	子実**	0	0.05	ND	ND	ND	0.06
							子実**	0	0.03	ND	ND	ND	0.04
							子実**	4	0.01	ND	ND	ND	0.02
							子実**	4	0.01	ND	ND	ND	0.02
							子実**	7	<0.01	ND	ND	ND	<0.01
							子実**	7	<0.01	ND	ND	ND	<0.01
							子実**	13	ND	ND	ND	ND	<0.01
		子実**	13	ND	ND	ND	ND	<0.01					
		Portage la Prairie, MB, カナダ	-	-	-	-	子実**	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	8	99	192	子実**	5	0.03	<0.01	ND	ND	0.04
							子実**	5	0.04	<0.01	<0.01	<0.01	0.06
							子実**	8	0.03	<0.01	ND	<0.01	0.05
							子実**	8	0.03	0.01	<0.01	<0.01	0.06
子実**	15						0.02	<0.01	ND	<0.01	0.04		
子実**	15	<0.01	<0.01	ND	<0.01	<0.02							

1 すべて茎葉処理。

2 \*\*: さやなし未成熟子実。

3 ND:<LOD, <0.003125 ppm

<LOD:<0.003125 ppm

<LOQ:<0.01 ppm

4

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部 位	PHI (日)	残留濃度(ppm)					
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計	
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)														
大豆	6.25% EC	Tift, GA, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			2	7	102	202	乾燥子実	20	ND	ND	ND	ND	<0.01	
							乾燥子実	20	ND	ND	ND	ND	<0.01	
		Tift, GA, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	99	198	乾燥子実	20	ND	ND	ND	ND	<0.01	
							乾燥子実	20	ND	ND	ND	ND	<0.01	
		Butler, MO, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	100	201	乾燥子実	22	.*	.*	.*	.*	.*	
							乾燥子実	22	ND	ND	ND	ND	<0.01	
		Crittenden, AR, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	100	200	乾燥子実	21	0.07	<0.01	<0.01	<0.01	0.09	
							乾燥子実	21	0.13	<0.01	<0.01	0.01	0.15	
		Clinton, IL, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	99	197	乾燥子実	21	0.01	ND	ND	ND	0.02	
							乾燥子実	21	<0.01	ND	ND	ND	<0.01	
		Pepin, WI, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	100	200	乾燥子実	22	ND	ND	ND	ND	<0.01	
							乾燥子実	22	ND	ND	ND	ND	<0.01	
		Madison, IL, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	8	94	186	乾燥子実	20	0.04	ND	ND	ND	0.05	
							乾燥子実	20	0.02	ND	ND	ND	0.03	
		Cass, ND, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	8	101	196	乾燥子実	21	<0.01	ND	ND	ND	<0.01	
							乾燥子実	21	<0.01	ND	ND	ND	<0.01	
Freeborn, MN, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
	2	7	101	201	乾燥子実	20	ND	ND	ND	ND	<0.01			
					乾燥子実	20	ND	ND	ND	ND	<0.01			
Steele, MN, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
	2	7	102	202	乾燥子実	20	ND	ND	ND	ND	<0.01			
					乾燥子実	20	ND	ND	ND	ND	<0.01			
Pepin, WI, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
	2	7	100	200	乾燥子実	22	ND	ND	ND	ND	<0.01			
					乾燥子実	22	<0.01	ND	ND	ND	<0.01			

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散 布 間 隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部 位	PHI (日)	残留濃度(mg/kg)					
					1回 当り	1作 付 け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計	
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)														
大豆	6.25% EC	Stoddard, MO, 米国	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			2	7	100	200	乾燥子実	20	<0.01	ND	ND	ND	<0.01	
							乾燥子実	20	ND	ND	ND	ND	<0.01	
		RM of Grey, MB, カナダ	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	99	196	乾燥子実	21	<0.01	ND	ND	ND	<0.01	
							乾燥子実	21	ND	ND	ND	ND	<0.01	
		RM of Grey, MB, カナダ	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	7	99	195	乾燥子実	21	<0.01	ND	ND	ND	<0.01	
							乾燥子実	21	<0.01	ND	ND	ND	<0.01	
		RM of Portage la Prairie, MB, カナダ	-	-	-	-	乾燥子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			2	8	102	201	乾燥子実	21	0.04	ND	ND	ND	0.05	
							乾燥子実	21	0.04	ND	ND	ND	0.05	

1 すべて茎葉処理。

2 -\*:この分析は行われなかった。

3 ND:<LOD, <0.003125 ppm

<LOD: <0.003125 ppm

4

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回数	処理量 (g a.i./100 kg 種子)	部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
							フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)											
綿	30% SC	Turner, GA, 米国	-	-	綿実	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	-
			1	20	綿実	156	ND	ND	ND	ND	<0.0051
							ND	ND	ND	ND	<0.0051
			1	100	綿実	156	ND	ND	ND	ND	<0.0051
		ND					ND	ND	ND	<0.0051	
		Monroe, AR, 米国	-	-	綿実	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	-
			1	20	綿実	162	ND	ND	ND	ND	<0.0051
		ND					ND	ND	ND	<0.0051	
		Woodruff, AR, 米国	-	-	綿実	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	-
			1	20	綿実	161	ND	ND	ND	ND	<0.0051
		ND					ND	ND	ND	<0.0051	
		Washington, MS, 米国	-	-	綿実	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	-
			1	20	綿実	155	ND	ND	ND	ND	<0.0051
		ND					ND	ND	ND	<0.0051	
		Wilbarger, TX, 米国	-	-	綿実	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	-
			1	20	綿実	174	ND	ND	ND	ND	<0.0051
		ND					ND	ND	ND	<0.0051	
		Gray, TX, 米国	-	-	綿実	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	-
			1	20	綿実	190	ND	ND	ND	ND	<0.0051
							ND	ND	ND	ND	<0.0051
			1	100	綿実	190	ND	ND	ND	ND	<0.0051
		ND					ND	ND	ND	<0.0051	
		Armstrong, TX, 米国	-	-	綿実	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	-
			1	20	綿実	193	ND	ND	ND	ND	<0.0051
ND	ND	ND					ND	<0.0051			
Carson, TX, 米国	-	-	綿実	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	-		
	1	20	綿実	193	ND	ND	ND	ND	<0.0051		
ND					ND	ND	<0.01	<0.0080			
Marshall, OK, 米国	-	-	綿実	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	-		
	1	20	綿実	186	ND	ND	ND	ND	<0.0051		
ND					ND	ND	ND	<0.0051			

- 1 種子処理
- 2 綿実：繊維を取らない状態の綿実
- 3

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	処理量 (g a.i./100 kg 種子)	部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
							フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)											
綿	30% SC	Yuma, AZ, 米国	-	-	綿実	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	-
			1	20	綿実	174	ND	ND	ND	<0.01	<0.0080
		Fresno, CA, 米国	-	-	綿実	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	-
			1	20	綿実	172	ND	ND	ND	ND	<0.0051
		Madera, CA, 米国	-	-	綿実	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	-
			1	20	綿実	176	ND	ND	ND	ND	<0.0051
							ND	ND	ND	<0.0051	

- 1 種子処理
- 2 綿実：繊維を取らない状態の綿実
- 3 ND: <0.002 ppm
- 4

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回数	処理量 (g a.i./100 kg 種子)	部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
							フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)											
綿	30% SC	Turner, GA, 米国	-	-	***	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	-
			1	20	***	156	ND	ND	ND	ND	<0.0051
				ND	ND	ND	ND	<0.0051			
			1	100	***	156	ND	ND	ND	ND	<0.0051
				ND	ND	ND	ND	<0.0051			
			Wilbarger, TX, 米国	-	-	***	-	<0.002	<0.002	<0.002	0.002
		1		20	***	174	ND	ND	ND	ND	<0.0051
			ND	ND	ND	ND	<0.0051				
		Gray, TX, 米国	-	-	***	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	-
			1	20	***	190	ND	ND	ND	ND	<0.0051
				ND	ND	ND	ND	<0.0051			
			1	100	***	190	ND	ND	ND	ND	<0.0051
		ND		ND	ND	ND	<0.0051				
		Armstrong, TX, 米国	-	-	***	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	-
			1	20	***	193	ND	ND	ND	ND	<0.0051
		ND		ND	ND	ND	<0.0051				
		Carson, TX, 米国	-	-	***	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	-
			1	20	***	193	ND	ND	ND	ND	<0.0051
		ND		ND	ND	ND	<0.0051				
		Yuma, AZ, 米国	-	-	***	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	-
			1	20	***	174	ND	ND	ND	ND	<0.0051
		ND		ND	ND	ND	<0.0051				
		Fresno, CA, 米国	-	-	***	-	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	-
			1	20	***	172	ND	ND	ND	ND	<0.0051
ND	ND	ND		ND	<0.0051						

- 1 種子処理
- 2 \*\*\*:Gin byproducts
- 3 ND:<0.002 ppm
- 4

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1 回 当り	1 作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド <sup>1</sup>	F002	F008	F048	合計
試験実施機関：Ag Research Associates, LLC (米国 ジョージア州)													
ラッカ セイ	6.25% EC	Worth, GA, 米国	-	-	-	-	子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			3	14 13	100	302	子実	7	<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01
									<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01
			子実	14	<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01				
					<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01				
			子実	21	<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01				
		<0.01			<LOD	<LOD	<LOD	<0.01					
		Colquit, GA, 米国	-	-	-	-	子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			3	14	100	302	子実	0	<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01
									<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01
			子実	4	<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01				
					<LOD	<LOD	<LOD	<0.01	<0.01				
			子実	7	<0.01	<LOD	<0.01	<LOD	0.01				
		<0.01			<LOD	<0.01	<LOD	0.01					
		子実	14	<0.01	<LOD	<0.01	<0.01	0.02					
				<0.01	<LOD	<0.01	<0.01	0.02					
		子実	21	<0.01	<LOD	<0.01	<LOD	0.01					
				<0.01	<LOD	<0.01	<LOD	0.01					
		Turner, GA, 米国	-	-	-	-	子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
			3	14	100	302	子実	7	<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01
									<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01
			子実	14	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD				
					<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD				
			子実	21	<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01				
<0.01	<LOD	<LOD			<LOD	<0.01							
Tift, GA, 米国	-	-	-	-	子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
	3	14 13	100	302	子実	7	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD		
							<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01		
	子実	14	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD						
			<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD						
	子実	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD						
<LOD			<LOD	<LOD	<LOD	<LOD							

1 すべて茎葉処理。

2

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)					
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計	
試験実施機関：Ag Research Associates, LLC (米国 ジョージア州)														
ラッカ セイ	6.25% EC	Jasper, SC, 米国	-	-	-	-	子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			3	14	100	302	子実	7	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	
									<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01
			子実	14	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD				
					<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD				
			子実	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD				
		<LOD			<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD					
		Hampton, SC, 米国	-	-	-	-	子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			3	14	100	302	子実	7	<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01
									<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD
			子実	14	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD				
					<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD				
			子実	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD				
		<LOD			<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD					
		Dale, AL, 米国	-	-	-	-	子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			3	13 14	100	302	子実	7	<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01
									<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01
			子実	14	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD				
					<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD				
			子実	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD				
		<LOD			<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD					
		Houston, AL, 米国	-	-	-	-	子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-	
			3	14	100	302	子実	7	<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01
									<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01
子実	14		<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD						
			<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01						
子実	21		<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD						
		<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD							

1 すべて茎葉処理。 <LOD: <0.002 ppm

2

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)						
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計		
試験実施機関：Ag Research Associates, LLC (米国 ジョージア州)															
ラッカ セイ	6.25% EC	Madison, FL, 米国	-	-	-	-	子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-		
			3	15 14	100	301	子実	3	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD		
										<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	
							子実	10	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	
										<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	
							子実	17	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	
										<LOD	<0.01	<LOD	<LOD	0.02	
										<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	
										<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	
				Marshall, OK, 米国	-	-	-	-	子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
		3	13 14		102	307	子実	7	<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01	
										<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	
							子実	14	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	
										<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	
							子実	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	
									<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD		
				Wilbarger, TX, 米国	-	-	-	-	子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
		3	14		105	310	子実	7	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	
										<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01	
							子実	14	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	
										<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01	
							子実	21	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	
									<0.01	<LOD	<LOD	<LOD	<0.01		
				Collingsworth, TX, 米国	-	-	-	-	子実	-	<LOD	<LOD	<LOD	<LOD	-
3	14	102	306		子実	7	<LOD	<LOD	0.07	<LOD	0.08				
								<LOD	<LOD	0.09	<LOD	0.10			
					子実	14	<LOD	<LOD	0.04	<LOD	0.05				
								<LOD	<LOD	0.09	<LOD	0.10			
					子実	21	<LOD	<LOD	0.05	<LOD	0.06				
							<LOD	<LOD	0.04	<LOD	0.05				

1 すべて茎葉処理。 <LOD: <0.002 ppm

2

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)							
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計			
試験実施機関: BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)																
トマト	6.25% EC	Wayne, NY, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-			
			2	6	100	201	果実	7	0.03	ND	ND	ND	<0.034			
									0.04	ND	ND	ND	<0.044			
			14	6	100	201	果実	7	0.02	ND	ND	ND	<0.024			
									0.03	ND	<0.01	<0.01	<0.041			
			21	6	100	201	果実	7	0.02	ND	ND	<0.01	<0.027			
									0.02	ND	<0.01	<0.01	<0.031			
			3	6	102	303	果実	7	0.03	ND	ND	ND	<0.034			
									0.06	ND	ND	ND	<0.064			
								14	0.03	ND	<0.01	ND	<0.038			
		0.03							ND	ND	ND	<0.034				
		21			0.01	ND	ND	ND	<0.014							
					0.02	ND	ND	<0.01	<0.027							
		Tift, GA, 米国			6	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-
										2	6	101	201	果実	7	0.12
			0.10	ND		ND	ND	<0.104								
			14	6		101	201	果実	7	ND	ND	ND	ND	<0.005		
										<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.026		
			21	6		101	201	果実	7	0.02	ND	ND	ND	<0.024		
										ND	ND	ND	ND	<0.005		
3	6		101	302		果実	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.026				
								<0.01	ND	ND	ND	<0.009				
			14	6		101	302	果実	7	ND	ND	ND	ND	<0.005		
		<0.01			0.01					<0.01	<0.01	<0.037				
		21	6	101	302	果実	7	0.02	<0.01	<0.01	<0.01	<0.041				
								<0.01	ND	ND	ND	<0.009				

- 1 すべて茎葉処理。
- 2 ND:<0.002 ppm
- 3 <LOQ: <0.01 ppm
- 4

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)								
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計				
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)																	
トマト	6.25% EC	Seminole, FL, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-				
			2	7	102	203	果実	7	ND	ND	ND	ND	<0.005				
										<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.026			
									14	0.03	ND	ND	ND	<0.034			
										0.03	ND	ND	ND	<0.024			
									21	0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.031			
										0.02	ND	ND	ND	<0.024			
					3	7	102	302	果実	7	ND	ND	ND	ND	<0.005		
											ND	ND	ND	ND	<0.005		
									14	ND	ND	ND	ND	<0.005			
										ND	ND	ND	ND	<0.005			
								21	ND	ND	ND	ND	<0.005				
										ND	ND	ND	ND	<0.005			
				Dane, WI, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-		
					2	7	100	200	果実	7	0.02	ND	ND	ND	<0.024		
											0.02	ND	ND	ND	<0.024		
									14	0.01	ND	ND	ND	<0.014			
											0.01	ND	ND	ND	<0.014		
									21	<0.01	ND	ND	ND	<0.009			
											<0.01	ND	ND	ND	<0.009		
							3	7	103	304	果実	7	0.04	ND	ND	ND	<0.044
													0.05	ND	ND	ND	<0.054
							14	0.02	ND	ND	ND	ND	<0.024				
												0.02	ND	ND	ND	<0.024	
						21	<0.01	ND	ND	ND	ND	<0.009					
												0.01	ND	ND	ND	<0.014	

- 1 すべて茎葉処理。
- 2 ND:<0.002 ppm
- 3 <LOQ: <0.01 ppm
- 4
- 5
- 6

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)					
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計	
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)														
トマト	6.25% EC	Dane, WI, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-	
			2	7	101	202	果実	7	<0.01	ND	ND	ND	<0.009	
										0.02	ND	ND	<0.01	<0.024
									14	0.01	<0.01	ND	ND	<0.024
										<0.01	ND	ND	ND	<0.009
									21	<0.01	ND	ND	<0.01	<0.009
										<0.01	ND	ND	ND	<0.009
			3	6 7	103	307	果実	7	0.07	<0.01	<0.01	ND	<0.088	
										0.04	ND	ND	ND	<0.044
									14	0.03	ND	ND	ND	<0.034
									0.02	ND	ND	ND	<0.024	
								21	0.01	ND	ND	ND	<0.014	
									0.02	<0.01	<0.01	ND	<0.038	
		Pepin, WI, 米国	-	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-
			2	6	103	202	果実	7	0.02	ND	ND	ND	<0.024	
										0.02	ND	ND	ND	<0.024
									14	0.01	ND	ND	ND	<0.014
										0.02	ND	ND	ND	<0.024
									21	<0.01	ND	ND	ND	<0.009
										<0.01	ND	ND	ND	<0.009
3	8 6		102	304	果実	7	0.04	ND	ND	ND	<0.044			
								0.03	ND	ND	ND	<0.034		
							14	0.02	ND	ND	ND	<0.024		
							0.01	ND	ND	ND	<0.014			
						21	<0.01	ND	ND	ND	<0.009			
							<0.01	ND	ND	ND	<0.009			

- 1 すべて茎葉処理。
- 2 ND:<0.002 ppm
- 3 <LOQ: <0.01 ppm
- 4
- 5
- 6

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)					
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計	
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)														
トマト	6.25% EC	RM of Portage la Prairie, MB, カナダ	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-	
			2	7	100	199	果実	7	0.05	ND	ND	ND	<0.054	
									0.06	ND	ND	ND	<0.064	
			14	7	100	199	果実	7	0.03	ND	ND	ND	<0.034	
									0.03	ND	ND	ND	<0.034	
			21	7	100	199	果実	7	0.02	ND	ND	ND	<0.024	
									0.03	ND	<0.01	ND	<0.038	
			3	6 7	100	296	果実	7	0.08	ND	<0.01	ND	<0.088	
									0.07	ND	<0.01	ND	<0.078	
			14	6 7	100	296	果実	7	0.04	ND	<0.01	ND	<0.048	
	0.04	ND							<0.01	ND	<0.048			
	21	6 7	100	296	果実	7	0.04	ND	<0.01	ND	<0.048			
							0.04	ND	<0.01	ND	<0.048			
	6.25% EC	PM of Portage la Prairie, MB, カナダ	PM of Portage la Prairie, MB, カナダ	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-
				2	7	100	200	果実	7	0.09	ND	ND	ND	<0.094
										0.08	ND	<0.01	ND	<0.088
				14	7	100	200	果実	7	0.06	ND	<0.01	ND	<0.068
										0.05	ND	ND	ND	<0.054
				21	7	100	200	果実	7	0.03	ND	ND	ND	<0.034
										0.04	ND	<0.01	ND	<0.048
3				6 7	101	300	果実	7	0.06	ND	<0.01	ND	<0.068	
									0.07	ND	<0.01	ND	<0.078	
14				6 7	101	300	果実	7	0.04	ND	ND	ND	<0.044	
	0.04	ND	<0.01						ND	<0.048				
21	6 7	101	300	果実	7	0.05	ND	<0.01	<0.01	<0.061				
						0.06	ND	<0.01	<0.01	<0.071				

- 1 すべて茎葉処理。
- 2 ND:<0.002 ppm
- 3 <LOQ: <0.01 ppm
- 4
- 5
- 6

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)										
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計						
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)																			
トマト	6.25% EC	Stafford, KS, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-						
			2	7	100	200	果実	7	0.01	ND	ND	ND	<0.014						
										0.03	ND	ND	ND	<0.034					
									14	<0.01	ND	ND	ND	<0.009					
										<0.01	ND	ND	ND	<0.009					
									21	<0.01	<0.01	ND	ND	<0.019					
										ND	<0.01	ND	ND	<0.015					
									3	7	105	307	果実	7	0.02	ND	ND	ND	<0.024
														0.11	ND	ND	ND	<0.114	
														0.03	<0.01	ND	ND	<0.044	
													<0.01	ND	ND	ND	<0.009		
													21	<0.01	ND	ND	ND	<0.009	
														ND	<0.01	ND	ND	<0.015	
				Vercheres, QC, カナダ	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-				
					2	7	99	195	果実	7	0.01	ND	ND	ND	<0.014				
											0.02	ND	ND	ND	<0.024				
											<0.01	ND	ND	ND	<0.009				
											<0.01	ND	ND	ND	<0.009				
											21	0.01	ND	ND	ND	<0.014			
												<0.01	ND	ND	ND	<0.009			
									3	6	105	307	果実	7	0.02	ND	ND	ND	<0.024
													0.02	ND	ND	ND	<0.024		
													14	0.01	<0.01	ND	ND	<0.024	
													0.01	0.01	<0.01	ND	<0.039		
													21	<0.01	<0.01	ND	ND	<0.019	
														<0.01	<0.01	ND	ND	<0.019	

- 1 すべて茎葉処理。
- 2 ND:<0.002 ppm
- 3 <LOQ: <0.01 ppm
- 4
- 5
- 6

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)						
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計		
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)															
トマト	6.25% EC	Vercheres, QC, カナダ	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-		
			2	6	101	200	果実	7	0.02	ND	ND	ND	<0.024		
										0.02	ND	ND	ND	<0.024	
									14	<0.01	ND	ND	ND	<0.009	
										<0.01	ND	ND	ND	<0.009	
									21	0.01	ND	ND	ND	<0.014	
										<0.01	ND	ND	ND	<0.009	
			3	7 6	100	295	果実	7	0.04	ND	ND	ND	<0.044		
										0.03	ND	ND	ND	<0.034	
									14	0.02	<0.01	ND	ND	<0.034	
									0.01	ND	ND	ND	<0.014		
								21	0.02	ND	ND	ND	<0.024		
									0.01	ND	ND	ND	<0.014		
				Cass, ND, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-
					2	7	100	199	果実	7	0.09	<0.01	ND	ND	<0.104
										0.04	ND	ND	ND	<0.044	
									14	0.04	ND	<0.01	ND	<0.048	
										0.03	ND	<0.01	ND	<0.038	
									21	0.01	ND	ND	ND	<0.014	
										0.03	ND	<0.01	ND	<0.038	
			3	7	103	306	果実	7	0.05	ND	ND	ND	<0.054		
								0.04	ND	ND	ND	<0.044			
							14	0.03	ND	<0.01	ND	<0.038			
								0.02	<0.01	<0.01	ND	<0.038			
							21	0.01	0.02	<0.01	ND	<0.063			
								0.02	ND	<0.01	ND	<0.028			

- 1 すべて茎葉処理。
- 2 ND:<0.002 ppm
- 3 <LOQ: <0.01 ppm
- 4
- 5
- 6

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)						
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計		
試験実施機関: BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)															
トマト	6.25% EC	Tulare, CA, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-		
			2	6	101	200	果実	7	0.04	ND	ND	ND	<0.044		
										0.05	ND	ND	ND	<0.054	
									14	0.04	ND	ND	ND	<0.044	
										0.05	ND	ND	ND	<0.054	
									21	0.04	ND	ND	ND	<0.044	
										0.03	ND	ND	ND	<0.034	
			3	8 6	100	299	果実	7	0.06	ND	ND	ND	<0.064		
										0.06	ND	ND	ND	<0.064	
									14	0.05	ND	ND	ND	<0.054	
										0.05	ND	ND	ND	<0.054	
									21	0.08	ND	ND	ND	<0.084	
									0.07	ND	ND	ND	<0.074		
				Tulare, CA, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-
					2	8	101	201	果実	7	0.03	ND	ND	ND	<0.034
										0.03	ND	ND	ND	<0.034	
									14	0.03	ND	ND	ND	<0.034	
										0.05	ND	ND	ND	<0.054	
									21	0.03	ND	ND	ND	<0.034	
										0.04	ND	ND	ND	<0.044	
					3	6 8	101	300	果実	7	0.03	ND	ND	ND	<0.034
										0.03	ND	ND	ND	<0.034	
									14	0.03	ND	ND	ND	<0.034	
										0.03	ND	ND	ND	<0.034	
							21	0.03	ND	ND	ND	<0.034			
								0.04	ND	ND	ND	<0.044			

- 1 すべて茎葉処理。
- 2 ND:<0.002 ppm
- 3 <LOQ: <0.01 ppm
- 4
- 5
- 6

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)					
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計	
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)														
トマト	6.25% EC	Tehama, CA, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-	
			2	7	98	195	果実	7	0.01	ND	ND	ND	<0.014	
										0.04	ND	ND	ND	<0.054
									14	<0.01	ND	ND	ND	<0.009
										<0.01	<0.01	ND	ND	<0.019
									21	ND	<0.01	ND	ND	<0.015
										ND	<0.01	ND	ND	<0.015
			3	7	99	294	果実	7	0.12	ND	ND	ND	<0.124	
										0.02	ND	ND	ND	<0.024
									14	0.02	<0.01	ND	ND	<0.034
										0.02	ND	ND	ND	<0.024
									21	<0.01	ND	ND	ND	<0.009
									ND	<0.01	ND	ND	<0.015	
		Glenn, CA, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-	
			2	7	98	196	果実	7	0.16	ND	ND	ND	<0.164	
										0.19	ND	<0.01	ND	<0.198
									14	0.14	ND	<0.01	ND	<0.148
										0.13	ND	ND	<0.01	<0.137
									21	0.19	ND	ND	<0.01	<0.197
										0.15	ND	ND	<0.01	<0.157
			3	7	98	293	果実	7	0.41	ND	<0.01	ND	<0.418	
										0.46	ND	<0.01	ND	<0.468
									14	0.33	ND	ND	<0.01	<0.337
										0.29	ND	<0.01	<0.01	<0.301
							21	0.22	ND	ND	<0.01	<0.227		
							0.15	ND	ND	<0.01	<0.157			

- 1 すべて茎葉処理。
- 2 ND:<0.002 ppm
- 3 <LOQ: <0.01 ppm
- 4
- 5
- 6

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)						
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計		
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)															
トマト	6.25% EC	Fresno, CA, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-		
			2	7	101	201	果実	7	0.06	ND	ND	ND	<0.064		
											0.11	ND	ND	ND	<0.114
									14	0.09	ND	ND	ND	<0.094	
											0.09	ND	ND	ND	<0.094
									21	0.06	ND	ND	ND	<0.064	
											0.06	ND	ND	ND	<0.064
			3	7	100	300	果実	7	0.11	ND	ND	ND	<0.114		
											0.08	ND	ND	ND	<0.084
									14	0.08	ND	ND	ND	<0.084	
										0.07	ND	ND	ND	<0.074	
								21	0.08	ND	ND	ND	<0.084		
										0.12	ND	ND	ND	<0.124	
				Fresno, CA, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-
					2	7	101	200	果実	7	0.13	ND	ND	ND	<0.134
											0.10	ND	ND	ND	<0.104
									14	0.05	ND	ND	ND	<0.054	
											0.07	ND	ND	ND	<0.074
								21	0.09	ND	ND	ND	<0.094		
										0.06	ND	ND	ND	<0.064	
			3	7	101	300	果実	7	0.15	ND	ND	ND	<0.154		
									0.10	ND	ND	ND	<0.104		
							14	0.09	ND	ND	ND	<0.094			
									0.08	ND	ND	ND	<0.084		
						21	0.08	ND	ND	ND	<0.084				
									0.07	ND	ND	ND	<0.074		

- 1 すべて茎葉処理。
- 2 ND:<0.002 ppm
- 3 <LOQ: <0.01 ppm
- 4
- 5
- 6

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)							
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計			
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)																
チェリー トマト	6.25% EC	Tulare, CA, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-			
			2	8	100	200	果実	7	0.13	ND	ND	ND	<0.134			
										0.12	ND	ND	ND	<0.124		
									14	0.11	ND	ND	ND	<0.114		
										0.11	ND	ND	ND	<0.114		
									21	0.20	ND	ND	ND	<0.204		
										0.10	ND	ND	ND	<0.104		
						3	7 8	100	300	果実	7	0.25	ND	ND	ND	<0.254
											0.22	ND	ND	ND	<0.224	
										14	0.28	ND	ND	ND	<0.284	
										0.25	ND	ND	ND	<0.254		
									21	0.16	ND	ND	ND	<0.164		
										0.16	ND	ND	ND	<0.164		
				Fresno, CA, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-	
					2	7	100	200	果実	7	0.10	ND	ND	ND	<0.104	
											0.04	ND	ND	ND	<0.044	
									14	0.02	ND	ND	ND	<0.024		
											0.03	ND	ND	ND	<0.034	
									21	0.02	<0.01	ND	ND	<0.034		
											0.02	<0.01	ND	ND	<0.034	
			3		7	100	299	果実	7	0.09	ND	ND	ND	<0.094		
									0.05	ND	ND	ND	<0.054			
							14	0.06	ND	ND	ND	<0.064				
								0.05	ND	ND	ND	<0.054				
						21	0.04	ND	ND	ND	<0.044					
								0.06	ND	ND	ND	<0.064				

- 1 すべて茎葉処理。
- 2 ND:<0.002 ppm
- 3 <LOQ: <0.01 ppm
- 4
- 5
- 6

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)						
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計		
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)															
ピーマン	6.25% EC	Tift, CA, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-		
			2	6	99	197	果実	7	0.01	ND	0.02	ND	<0.034		
										0.01	ND	0.02	ND	<0.034	
									14	<0.01	ND	<0.01	ND	<0.013	
										<0.01	ND	0.01	ND	<0.018	
									21	<0.01	ND	<0.01	ND	<0.013	
										ND	ND	<0.01	ND	<0.009	
			3	7 6	100	299	果実	7	0.01	ND	0.02	ND	<0.034		
										0.01	ND	0.01	ND	<0.023	
									14	<0.01	ND	0.01	ND	<0.018	
									<0.01	ND	0.01	ND	<0.018		
								21	ND	ND	<0.01	ND	<0.009		
									ND	ND	<0.01	ND	<0.009		
				Seminole, FL, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-
					2	7	103	203	果実	7	0.07	ND	0.04	ND	<0.115
										0.08	ND	0.04	ND	<0.125	
									14	0.02	ND	0.03	ND	<0.054	
										0.02	ND	0.04	ND	<0.065	
									21	<0.01	<0.01	0.02	ND	<0.038	
										<0.01	<0.01	0.01	ND	<0.028	
			3	7	100	298	果実	7	0.09	<0.01	0.05	<0.01	<0.157		
								0.09	ND	0.06	<0.01	<0.158			
							14	0.02	ND	0.03	ND	<0.054			
								0.02	ND	0.04	ND	<0.065			
							21	<0.01	<0.01	0.01	ND	<0.028			
								<0.01	0.02	0.01	ND	<0.063			

- 1 すべて茎葉処理。
- 2 ND:<0.002 ppm
- 3 <LOQ: <0.01 ppm
- 4
- 5
- 6

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)					
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計	
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)														
ピーマン	6.25% EC	Dane, WI, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-	
			2	7	101	201	果実	7	0.01	ND	<0.01	ND	<0.018	
										<0.01	ND	<0.01	ND	<0.013
									14	0.01	ND	0.01	ND	<0.023
										<0.01	ND	<0.01	ND	<0.013
									21	ND	ND	<0.01	ND	<0.009
										ND	ND	<0.01	ND	<0.009
			3	7	102	301	果実	7	0.03	ND	0.01	ND	<0.043	
										0.01	ND	0.01	ND	<0.023
									14	<0.01	ND	<0.01	ND	<0.013
								<0.01	ND	<0.01	ND	<0.013		
							21	ND	ND	<0.01	ND	<0.009		
								ND	ND	<0.01	ND	<0.009		
				-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-
				2	7	100	199	果実	7	0.04	ND	0.03	ND	<0.074
									0.03	ND	0.02	ND	<0.054	
								14	<0.01	ND	0.01	ND	<0.018	
									<0.01	ND	0.01	ND	<0.018	
								21	<0.01	ND	0.02	ND	<0.029	
									<0.01	ND	0.02	<0.01	<0.032	
			3	6 7	101	299	果実	7	0.02	ND	0.02	ND	<0.044	
								0.03	ND	0.02	ND	<0.054		
							14	<0.01	ND	0.02	ND	<0.029		
								0.01	ND	0.02	<0.01	<0.037		
							21	0.01	ND	0.02	ND	<0.034		
								<0.01	ND	0.02	ND	<0.029		

- 1 すべて茎葉処理。
- 2 ND:<0.002 ppm
- 3 <LOQ: <0.01 ppm
- 4
- 5
- 6

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)										
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計						
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)																			
ピーマン	6.25% EC	Stafford, KS, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-						
			2	7	106	209	果実	7	<0.01	ND	<0.01	ND	<0.013						
										ND	ND	<0.01	ND	<0.009					
									14	ND	ND	<0.01	ND	<0.009					
										0.01	ND	<0.01	ND	<0.018					
									21	ND	ND	ND	ND	<0.005					
										ND	<0.01	ND	ND	<0.015					
									3	7	105	309	果実	7	<0.01	ND	<0.01	ND	<0.013
														<0.01	ND	<0.01	ND	<0.013	
									14	ND	<0.01	<0.01	ND	<0.019					
									ND	<0.01	<0.01	ND	<0.019						
								21	ND	<0.01	ND	ND	<0.015						
									ND	<0.01	ND	ND	<0.015						
				Vercheres, QC, カナダ	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-				
					2	6	103	202	果実	7	<0.01	ND	<0.01	ND	<0.013				
											<0.01	ND	<0.01	ND	<0.013				
									14	ND	ND	<0.01	ND	<0.009					
										ND	ND	<0.01	ND	<0.009					
									21	ND	ND	<0.01	ND	<0.009					
										ND	ND	ND	ND	<0.005					
							3	7	101	299	果実	7	<0.01	ND	<0.01	ND	<0.013		
												<0.01	<0.01	<0.01	ND	<0.023			
							14	<0.01	<0.01	<0.01	ND	<0.023							
							ND	ND	<0.01	ND	<0.009								
						21	ND	<0.01	<0.01	ND	<0.019								
							<0.01	<0.01	<0.01	ND	<0.023								

- 1 すべて茎葉処理。
- 2 ND:<0.002 ppm
- 3 <LOQ: <0.01 ppm
- 4
- 5
- 6

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)						
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計		
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)															
ピーマン	6.25% EC	Cass, ND, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-		
			2	7	103	201	果実	7	0.07	ND	0.06	ND	<0.135		
										0.08	ND	0.06	ND	<0.145	
									14	0.02	ND	0.03	ND	<0.054	
										0.03	ND	0.04	ND	<0.075	
									21	<0.01	ND	0.03	ND	<0.039	
										<0.01	ND	0.02	ND	<0.029	
									3	0.10	ND	0.09	<0.01	<0.119	
										0.07	ND	0.06	<0.01	<0.138	
									14	0.04	ND	0.06	<0.01	<0.108	
									0.04	ND	0.06	<0.01	<0.108		
								21	<0.01	ND	0.02	ND	<0.029		
									0.02	ND	0.04	ND	<0.065		
				Tehama, CA, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-
					2	7	99	197	果実	7	0.12	ND	0.07	<0.01	<0.199
											0.07	ND	0.05	<0.01	<0.128
									14	0.03	ND	0.03	<0.01	<0.067	
											0.04	ND	0.03	<0.01	<0.077
									21	0.01	ND	0.01	ND	<0.023	
										<0.01	ND	<0.01	<0.01	<0.016	
							3	0.29	ND	0.15	<0.01	<0.452			
								0.18	ND	0.12	<0.01	<0.311			
							14	0.09	ND	0.08	<0.01	<0.179			
							0.14	ND	0.09	<0.01	<0.239				
						21	<0.01	ND	0.01	<0.01	<0.021				
							<0.01	ND	<0.01	ND	<0.013				

- 1 すべて茎葉処理。
- 2 ND:<0.002 ppm
- 3 <LOQ: <0.01 ppm
- 4
- 5
- 6

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)								
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計				
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)																	
その他の なす 科野菜	6.25% EC	Fresno, CA, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-				
			2	7	100	200	果実	7	<0.01	ND	<0.01	ND	<0.013				
										0.01	ND	<0.01	ND	<0.018			
									14	<0.01	<0.01	<0.01	ND	<0.023			
										<0.01	<0.01	<0.01	ND	<0.023			
									21	<0.01	0.01	<0.01	ND	<0.034			
										<0.01	ND	<0.01	ND	<0.013			
					3	7	100	300	果実	7	0.02	ND	0.02	ND	<0.044		
											0.01	<0.01	0.01	ND	<0.033		
									14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.026			
										0.01	0.01	0.01	<0.01	<0.048			
								21	0.01	ND	<0.01	<0.01	<0.021				
										<0.01	ND	0.01	<0.01	<0.021			
				Uvalde, TX, 米国	-	-	-	-	果実	-	<LOQ	<LOQ	<LOQ	<LOQ	-		
					2	7	100	199	果実	7	0.19	ND	<0.01	ND	<0.198		
											0.19	ND	<0.01	ND	<0.198		
									14	0.17	ND	<0.01	ND	<0.178			
											0.14	ND	<0.01	ND	<0.148		
									21	0.09	ND	0.01	ND	<0.103			
											0.05	ND	0.02	<0.01	<0.077		
							3	7	101	301	果実	7	0.28	ND	0.02	ND	<0.304
													0.31	ND	0.02	ND	<0.334
							14	0.25	ND	0.02	ND	<0.274					
												0.23	ND	0.02	ND	<0.254	
						21	0.05	ND	0.02	<0.01	<0.077						
												0.07	ND	0.02	ND	<0.094	

- 1 すべて茎葉処理。
- 2 ND:<0.002 ppm
- 3 <LOQ: <0.01 ppm
- 4
- 5
- 6

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
ばれい しょ	6.25% EC	Wayne, NY, 米国	-	-	-	-	塊茎	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-
			3	6 7	101	303	塊茎	7	<0.01	ND	ND	ND	<0.0091
									<0.01	ND	ND	ND	<0.0091
			3	6 7	101	303	塊茎	14	ND	ND	ND	ND	<0.0051
									<0.01	ND	ND	ND	<0.0091
								21	<0.01	ND	ND	ND	<0.0091
		ND							ND	ND	ND	<0.0051	
		Wayne, NY, 米国	-	-	-	-	塊茎	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-
			3	6 7	101	302	塊茎	7	<0.01	ND	ND	ND	<0.0091
									<0.01	ND	ND	ND	<0.0091
			3	6 7	101	302	塊茎	14	0.02	ND	ND	ND	<0.0241
									0.02	ND	ND	ND	<0.0241
								21	0.02	ND	ND	ND	<0.0241
		0.02							ND	ND	ND	<0.0241	
		Lehigh, PA, 米国	-	-	-	-	塊茎	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-
			3	6 8	104	308	塊茎	7	ND	<0.01	ND	ND	<0.0145
									ND	ND	ND	ND	<0.0051
			3	6 8	104	308	塊茎	14	ND	ND	ND	ND	<0.0051
									ND	ND	ND	ND	<0.0051
								21	ND	ND	ND	ND	<0.0051
		ND							ND	ND	ND	<0.0051	
		Queens, PEI, カナダ	-	-	-	-	塊茎	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-
			3	7 6	102	294	塊茎	7	<0.01	ND	ND	ND	<0.0091
		<0.01							ND	ND	ND	<0.0091	
Queens, PEI, カナダ	-	-	-	-	塊茎	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-		
	3	7 6	100	295	塊茎	7	ND	ND	ND	ND	<0.0051		
<0.01							ND	ND	ND	<0.0091			

1 すべて茎葉処理。

2 ND:<0.002 ppm

3

4

5

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)						
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド <sup>1</sup>	F002	F008	F048	合計		
試験実施機関: BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)															
ばれい しょ	6.25% EC	Tift, GA, 米国	-	-	-	-	塊茎	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-		
			3	6 7	120	319	塊茎	7	0.02	<0.01	ND	ND	<0.0335		
									14	0.01	<0.01	ND	ND	<0.0235	
										0.02	<0.01	ND	ND	<0.0335	
										0.01	<0.01	ND	ND	<0.0235	
									21	0.02	<0.01	ND	ND	<0.0235	
									<0.01	<0.01	ND	ND	<0.0185		
				Seminole, FL, 米国	-	-	-	-	塊茎	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-
		3	7		101	301	塊茎	7	<0.01	ND	ND	ND	<0.0091		
										<0.01	ND	ND	ND	<0.0091	
									14	<0.01	ND	ND	ND	<0.0091	
										<0.01	ND	ND	ND	<0.0091	
									21	ND	ND	ND	ND	<0.0051	
									ND	ND	ND	ND	<0.0051		
				Freeborn, MN, 米国	-	-	-	-	塊茎	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-
		3	6 7		102	305	塊茎	7	<0.01	ND	ND	ND	<0.0091		
										<0.01	ND	ND	ND	<0.0091	
									14	<0.01	ND	ND	ND	<0.0091	
										<0.01	ND	ND	ND	<0.0091	
									21	<0.01	ND	ND	ND	<0.0091	
									<0.01	ND	ND	ND	<0.0091		
				Cass, ND, 米国	-	-	-	-	塊茎	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-
		3	6 8		105	313	塊茎	7	ND	ND	ND	ND	<0.0051		
										ND	ND	ND	ND	<0.0051	
							14	ND	ND	ND	ND	<0.0051			
								ND	ND	ND	<0.01	<0.0080			
							21	ND	ND	ND	ND	<0.0051			
								ND	ND	ND	ND	<0.0051			
							28	ND	ND	ND	ND	<0.0051			
							ND	ND	ND	ND	<0.0051				

1 すべて茎葉処理。

2 ND:&lt;0.002 ppm



農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関： BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
ばれい しょ	6.25% EC	Cache, UT, 米国	-	-	-	-	塊茎	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-
			3	7	102	303	塊茎	7	ND	ND	ND	ND	<0.0051
									ND	ND	ND	ND	<0.0051
			14	ND	ND	ND	ND	<0.0051					
				ND	ND	ND	ND	<0.0051					
				21	ND	ND	ND	ND	<0.0051				
		ND			ND	ND	ND	<0.0051					
		Sacramento CA, 米国	-	-	-	-	塊茎	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-
			3	7	99	296	塊茎	7	ND	ND	ND	ND	<0.0051
									ND	ND	ND	ND	<0.0051
			14	ND	ND	ND	ND	<0.0051					
				ND	ND	ND	ND	<0.0051					
				21	ND	ND	ND	ND	<0.0051				
		ND			ND	ND	ND	<0.0051					
		Payette, ID, 米国	-	-	-	-	塊茎	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-
			3	6 8	102	301	塊茎	7	ND	ND	ND	ND	<0.0051
									ND	ND	ND	ND	<0.0051
			14	ND	ND	ND	ND	<0.0051					
				ND	ND	ND	ND	<0.0051					
				21	ND	ND	ND	ND	<0.0051				
		ND			ND	ND	ND	<0.0051					
		Washington ID, 米国	-	-	-	-	塊茎	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-
			3	7	102	305	塊茎	7	ND	ND	ND	ND	<0.0051
									ND	ND	ND	ND	<0.0051
14	ND		ND	ND	ND	<0.0051							
	ND		ND	ND	ND	<0.0051							
	21		ND	ND	ND	ND	<0.0051						
		ND	ND	ND	ND	<0.0051							

1 すべて茎葉処理。

2 ND:<0.002 ppm

3

4

5

6

7

8

9

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)						
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計		
試験実施機関： BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)															
ばれい しょ	6.25% EC	Bingham, ID, 米国	-	-	-	-	塊茎	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-		
			3	6 7	103	308	塊茎	7	ND	ND	ND	ND	<0.0051		
										ND	ND	ND	ND	<0.0051	
									10	ND	ND	ND	ND	<0.0051	
										ND	ND	ND	ND	<0.0051	
									15	ND	ND	ND	ND	<0.0051	
										ND	ND	ND	ND	<0.0051	
									21	ND	ND	ND	ND	<0.0051	
										ND	ND	ND	ND	<0.0051	
									28	ND	ND	ND	ND	<0.0051	
										<0.01	ND	ND	ND	<0.0091	
									塊茎	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-
					3	8 6	99	293	塊茎	7	<0.01	ND	ND	ND	<0.0091
										ND	ND	ND	ND	<0.0051	
									14	ND	ND	ND	ND	<0.0051	
										ND	ND	ND	ND	<0.0051	
									21	ND	ND	ND	ND	<0.0051	
										<0.01	ND	ND	ND	<0.0091	
					-	-	-	-	塊茎	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-
					3	7	102	300	塊茎	7	<0.01	ND	ND	ND	<0.0091
										<0.01	ND	ND	ND	<0.0091	
									14	<0.01	ND	ND	ND	<0.0091	
										<0.01	ND	ND	ND	<0.0091	
									21	<0.01	ND	ND	ND	<0.0091	
								ND	ND	ND	ND	<0.0051			
			-	-	-	-	塊茎	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-		
			3	7	104	308	塊茎	7	ND	ND	ND	ND	<0.0051		
								<0.01	ND	ND	ND	<0.0091			
							14	<0.01	ND	ND	ND	<0.0091			
								<0.01	ND	ND	ND	<0.0091			
							21	<0.01	ND	ND	ND	<0.0091			
								<0.01	ND	ND	ND	<0.0091			

- 1 すべて茎葉処理。
- 2 ND:<0.002 ppm
- 3
- 4
- 5





農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PH I (日)	残留濃度(ppm)							
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド <sup>1</sup>	F002	F008	F048	合計			
試験実施機関: BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)																
てん さい	6.25% EC	Tulare, CA, 米国	-	-	-	-	根	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-			
			3	7	100	290	根	7	0.03	ND	ND	ND	<0.0341			
										0.04	ND	ND	ND	<0.0441		
									14	0.03	ND	ND	ND	<0.0341		
										0.03	ND	ND	ND	<0.0341		
									21	0.02	ND	ND	ND	<0.0241		
										0.03	ND	ND	ND	<0.0341		
									根	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-	
						3	7	101	297	根	7	0.07	ND	ND	ND	<0.0741
											0.03	ND	ND	ND	<0.0341	
										10	0.03	ND	ND	ND	<0.0341	
											0.04	ND	ND	ND	<0.0441	
									15	0.05	ND	ND	ND	<0.0541		
										0.01	ND	ND	ND	<0.0141		
									21	0.04	ND	ND	ND	<0.0441		
										0.04	ND	ND	ND	<0.0441		
									28	0.02	ND	ND	ND	<0.0241		
										0.02	ND	ND	ND	<0.0241		
				Bingham, ID, 米国	-	-	-	-	根	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-	
					3	7	103	300	根	8	0.01	ND	ND	ND	<0.0141	
											0.02	ND	ND	ND	<0.0241	
									15	0.02	ND	ND	ND	<0.0241		
											0.02	ND	ND	ND	<0.0241	
									21	0.02	ND	ND	ND	<0.0241		
								0.03	ND	ND	ND	<0.0341				
		RM of Portage la Prairie, MB, カナダ	-	-	-	-	根	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-			
			3	9 7	120	326	根	8	0.05	ND	ND	ND	<0.0541			
									0.04	ND	ND	ND	<0.0441			
							15	0.02	ND	ND	ND	<0.0241				
									0.04	ND	ND	ND	<0.0441			
							20	0.02	ND	ND	ND	<0.0241				
								0.03	ND	ND	ND	<0.0341				

1 すべて茎葉処理。

2 ND:&lt;0.002 ppm

3

4

5



農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)																		
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド <sup>1)</sup>	F002	F008	F048	合計														
試験実施機関： BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)																											
てんさい	6.25% EC	Power, ID, 米国	-	-	-	-	葉 葉	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-														
			3	7	101	297		7	2.37	ND	0.04	ND	2.41														
									1.77	ND	0.03	ND	1.80														
			10	7	101	297		10	1.28	ND	0.04	ND	1.32														
									1.70	ND	0.04	ND	1.74														
			15	7	101	297		15	0.98	<0.01	0.03	ND	1.02														
									1.31	<0.01	0.04	ND	1.36														
			21	7	101	297		21	0.90	<0.01	0.04	ND	0.95														
									0.87	ND	0.03	ND	0.90														
		28	7	101	297	28	0.79	<0.01	0.05	ND	0.85																
							0.64	<0.01	0.04	ND	0.69																
		Bingham, ID, 米国	-	-	-	-	-	葉 葉	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-													
															3	7	103	300	8	0.84	ND	<0.01	ND	0.85			
																				0.83	ND	<0.01	ND	0.84			
															15	7	103	300	15	0.69	ND	0.01	ND	0.70			
																				0.69	ND	0.01	ND	0.70			
															21	7	103	300	21	0.85	<0.01	0.02	ND	0.88			
																				0.60	ND	0.01	ND	0.61			
															RM of Portage la Prairie, MB, カナダ	-	-	-	-	-	葉 葉	-	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	-
		2.92	ND	0.02	ND	2.94																					
15	9 7	120	326	15	2.32	ND	0.02	ND	2.34																		
					2.02	<0.01	0.02	ND	2.05																		
20	9 7	120	326	20	2.05	<0.01	0.03	ND	2.09																		
1.83	ND	0.02	ND	1.85																							

1 すべて茎葉処理。

2 ND:<0.002 ppm

3

4

5





農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付け 当り			フルサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
もも	6.25% EC	Wayne, NY, 米国	-	-	-	-	果実	-	<0.01	ND	ND	ND	-
			3	8 6	125 *	374 *	果実	0	0.37	ND	0.01	ND	0.38
								1	0.29	<0.01	0.02	ND	0.32
								7	0.07	ND	0.01	<0.01	0.09
								14	0.05	ND	0.01	ND	0.06
								0	0.43	ND	0.01	ND	0.44
								1	0.43	ND	0.02	ND	0.45
								7	0.10	ND	0.02	ND	0.12
								14	0.08	ND	0.03	ND	0.11
								0	0.43	ND	0.01	ND	0.44
								1	0.43	ND	0.02	ND	0.45
								7	0.10	ND	0.02	ND	0.12
							14	0.08	ND	0.03	ND	0.11	
							0	0.43	ND	0.01	ND	0.44	
							1	0.43	ND	0.02	ND	0.45	
							7	0.10	ND	0.02	ND	0.12	
							14	0.08	ND	0.03	ND	0.11	
							0	0.43	ND	0.01	ND	0.44	
							1	0.43	ND	0.02	ND	0.45	
							7	0.10	ND	0.02	ND	0.12	
							14	0.08	ND	0.03	ND	0.11	
							0	0.43	ND	0.01	ND	0.44	
							1	0.43	ND	0.02	ND	0.45	
							7	0.10	ND	0.02	ND	0.12	
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
					7	0.10	ND	0.02	ND	0.12			
					14	0.08	ND	0.03	ND	0.11			
					0	0.43	ND	0.01	ND	0.44			
					1	0.43	ND	0.02	ND	0.45			
			</										







農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)							
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計			
試験実施機関 : BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)																
ブラム	6.25% EC	Wayne, NY, 米国	-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-			
			3	7 6	125 *	374 *	果実	0	0.95	ND	ND	ND	0.95			
								1	0.32	ND	ND	ND	0.32			
								7	0.46	ND	ND	ND	0.46			
								14	0.43	ND	ND	ND	0.43			
								129 **	382 **	果実	0	0.79	ND	ND	ND	0.79
								1	0.29	ND	ND	ND	0.29			
								7	0.40	ND	ND	ND	0.40			
								14	0.09	ND	ND	ND	0.09			
					Allegan, MI, 米国	-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-
		3	6	131 *		379 *	果実	0	0.49	ND	ND	ND	0.49			
								1	0.46	ND	ND	ND	0.46			
								7	0.30	ND	<0.01	ND	0.31			
								14	0.17	ND	ND	ND	0.17			
								129 **	379 **	果実	0	0.42	ND	ND	ND	0.42
								1	0.34	ND	ND	ND	0.34			
								7	0.26	ND	ND	ND	0.26			
								14	0.20	ND	ND	ND	0.20			
				Niagara, ON, 米国		-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-
		3	7		123 *	364 *	果実	0	0.20	ND	ND	ND	0.20			
						1	0.17	ND	ND	ND	0.17					
						7	0.11	ND	ND	ND	0.11					
						14	0.09	ND	ND	ND	0.09					
						122 **	365 **	果実	0	0.24	ND	ND	ND	0.24		
						1	0.24	ND	ND	ND	0.24					
						7	0.14	ND	ND	ND	0.14					
					14	0.10	ND	0.01	ND	0.11						

- 1 すべて地上散布。
- 2 \* : concentrated spray volume, 水 463-930 L/ha
- 3 \*\* : dilute spray volume, 水 1116-2005 L/ha
- 4 ND:<0.002 ppm
- 5





農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)							
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計			
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)																
ブラム	6.25% EC	Polk, OR, 米国	-	-	-	-	果実	-	<0.01	ND	<0.01	ND	-			
			3	7	127 *	377 *	果実	0	0.30	ND	<0.01	ND	0.31			
								1	0.39	ND	ND	ND	0.39			
								7	0.37	ND	ND	ND	0.37			
								14	0.27	ND	<0.01	ND	0.28			
								129 **	381 **	果実	0	0.31	ND	ND	ND	0.31
								1	0.55	ND	ND	ND	0.55			
								7	0.48	ND	<0.01	ND	0.49			
								14	0.29	ND	<0.01	ND	0.30			

- 1 すべて地上散布。
- 2 \* : concentrated spray volume, 水 463-930 L/ha
- 3 \*\* : dilute spray volume, 水 1116-2005 L/ha
- 4 ND:<0.002 ppm
- 5

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)					
					1 回 当り	1 作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計	
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)														
りんご	6.25% EC	Wayne, NY, 米国	-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-	
			4	8 7 7	100*	399*	果実	0	0.16	ND	ND	ND	0.16	
								1	0.16	ND	ND	ND	0.16	
								7	0.11	ND	ND	<0.01	0.12	
								14	0.08	ND	ND	ND	0.08	
			101**	401**	果実	0	0.15	ND	ND	<0.01	0.16			
						1	0.14	ND	ND	<0.01	0.15			
						7	0.12	ND	ND	ND	0.12			
						14	0.10	ND	ND	ND	0.10			
			Wayne, NY, 米国	-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	<0.01	-
				4	7	101*	400*	果実	0	0.28	ND	0.08	ND	0.37
									1	0.13	ND	ND	ND	0.13
		7							0.14	ND	ND	<0.01	0.15	
		14							0.09	ND	ND	<0.01	0.10	
		101**		400**	果実	0	0.18	ND	ND	<0.01	0.19			
						1	0.15	ND	ND	ND	0.15			
						7	0.12	ND	ND	ND	0.12			
						14	0.10	ND	ND	<0.01	0.11			
		Wayne, NY, 米国		-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-
				4	7	100*	397*	果実	0	0.08	ND	ND	ND	0.08
									1	0.06	ND	ND	ND	0.06
			7						0.06	ND	ND	ND	0.06	
			10						0.05	ND	ND	ND	0.05	
			101**	402**	果実	0	0.08	ND	ND	ND	0.08			
1	0.07					ND	ND	ND	0.07					
7	0.06					ND	ND	ND	0.06					
10	0.06	ND				ND	ND	0.06						
14	0.05	ND	ND	ND	0.05									

- 1 すべて地上散布。
- 2 \* : concentrated spray volume, 水 693-824 L/ha
- 3 \*\* : dilute spray volume, 水 1405-2065 L/ha
- 4 ND:<0.002 ppm
- 5

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)					
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計	
試験実施機関 : BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)														
りんご	6.25% EC	Lenawee, MI, 米国	-	-	-	-	果実	-	<0.01	ND	ND	ND	-	
			4	7	102*	401*	果実	0	0.18	ND	ND	ND	0.18	
								1	0.24	ND	ND	ND	0.24	
								7	0.23	ND	ND	<0.01	0.23	
								14	0.15	ND	ND	ND	0.15	
			103**	406**	果実	0	0.15	ND	ND	<0.01	0.16			
						1	0.12	ND	ND	ND	0.12			
						7	0.12	ND	ND	<0.01	0.13			
						14	0.10	ND	ND	ND	0.10			
			Marion, IL, 米国	-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	<0.01	-
				4	7	102*	401*	果実	0	0.21	ND	ND	ND	0.21
									1	0.20	ND	ND	ND	0.20
		7							0.15	ND	ND	ND	0.15	
		14							0.07	ND	ND	ND	0.07	
		107**		406**	果実	0	0.19	ND	0.01	0.01	0.21			
						1	0.21	ND	ND	ND	0.21			
						7	0.13	ND	ND	ND	0.13			
						14	0.06	ND	ND	ND	0.06			
		Simcoe, ON, 米国		-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-
				4	7 7 6	103*	399*	果実	0	0.15	ND	<0.01	ND	0.16
									1	0.08	ND	ND	ND	0.08
			7						0.06	ND	ND	ND	0.06	
			14						0.08	ND	ND	ND	0.08	
			102**	396**	果実	0	0.08	ND	ND	ND	0.08			
1	0.09					ND	ND	ND	0.09					
7	0.07					ND	ND	ND	0.07					
14	0.07	ND				ND	ND	0.07						

- 1 すべて地上散布。
- 2 \* : concentrated spray volume, 水 693-824 L/ha
- 3 \*\* : dilute spray volume, 水 1405-2065 L/ha
- 4 ND:<0.002 ppm
- 5

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)					
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計	
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)														
りんご	6.25% EC	Brant, ON, 米国	-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-	
			4	7	101*	396*	果実	0	0.12	ND	ND	ND	0.12	
							1	0.14	ND	ND	ND	0.14		
							7	0.10	ND	ND	ND	0.10		
							12	0.09	ND	ND	ND	0.09		
			102**	397**	果実	0	0.14	ND	ND	ND	0.14			
					1	0.14	ND	<0.01	ND	0.15				
					7	0.11	ND	<0.01	ND	0.12				
					12	0.08	ND	ND	ND	0.08				
			Ottawa, MI, 米国	-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-
				4	7 8 6	100*	398*	果実	0	0.27	ND	ND	ND	0.27
								1	0.36	ND	ND	ND	0.36	
		7						0.10	ND	ND	ND	0.10		
		14						0.15	ND	<0.01	ND	0.16		
		101**		401**	果実	0	0.21	ND	ND	ND	0.21			
					1	0.13	ND	ND	ND	0.13				
					7	0.10	ND	ND	ND	0.10				
					14	0.15	ND	ND	ND	0.15				
		Cache, UT, 米国		-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-
				4	7	103*	400*	果実	0	0.31	ND	ND	ND	0.31
								1	0.24	ND	ND	ND	0.25	
			7					0.08	ND	<0.01	ND	0.09		
			14					0.03	ND	ND	ND	0.03		
			103**	401**	果実	0	0.22	ND	ND	ND	0.22			
1	0.15				ND	ND	ND	0.15						
7	0.05				ND	ND	ND	0.05						
14	0.04	ND			ND	ND	0.04							

- 1 すべて地上散布。
- 2 \* : concentrated spray volume, 水 693-824 L/ha
- 3 \*\* : dilute spray volume, 水 1405-2065 L/ha
- 4 ND:<0.002 ppm
- 5

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散 布 間 隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部 位	PHI (日)	残留濃度(ppm)								
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計				
試験実施機関: BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)																	
りんご	6.25% EC	Fresno, CA, 米国	-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-				
			4	7 7 6	102*	402*	果実	0	0.18	ND	ND	ND	0.18				
									0.17	<0.01	ND	ND	0.18				
								1	0.08	ND	ND	ND	0.08				
									0.09	ND	ND	ND	0.09				
								7	0.20	ND	ND	ND	0.20				
									0.23	ND	ND	ND	0.23				
			14	0.22	ND	ND	ND	0.22									
				0.13	ND	ND	ND	0.13									
			-	-	-	-	果実	-	<0.01	ND	ND	ND	-				
			4	7 7 6	101 **	398 **	果実	0	0.11	ND	ND	<0.01	0.12				
									0.11	ND	ND	ND	0.11				
		1						0.08	ND	ND	ND	0.08					
								0.09	ND	ND	ND	0.09					
		7						0.26	<0.01	ND	ND	0.27					
								0.25	ND	ND	ND	0.25					
		14						0.20	ND	ND	ND	0.20					
								0.17	<0.01	ND	ND	0.18					
		Power, ID, 米国						7	103*	404*	果実	-	ND	ND	ND	ND	-
												0	0.19	ND	ND	<0.01	0.20
												1	0.21	ND	ND	ND	0.21
												7	0.16	ND	ND	ND	0.16
			14	0.09	ND	ND	ND					0.09					
			103 **	400 **	果実	0	0.24					ND	ND	ND	0.24		
1	0.25					ND	ND					<0.01	0.26				
7	0.18					ND	ND					ND	0.18				
14	0.14	ND				ND	<0.01	0.15									

- 1 すべて地上散布。
- 2 \* : concentrated spray volume, 水 693-824 L/ha
- 3 \*\* : dilute spray volume, 水 1405-2065 L/ha
- 4 ND:<0.002 ppm
- 5

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)					
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計	
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)														
りんご	6.25% EC	Grant, WA, 米国	-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-	
			4	7	100*	391*	果実	0	0.3	ND	ND	ND	0.30	
							1	0.29	ND	ND	ND	0.29		
							7	0.27	ND	ND	ND	0.27		
							14	0.19	ND	ND	ND	0.19		
			99**	396**	果実	0	0.23	ND	ND	ND	0.23			
					1	0.26	ND	ND	ND	0.26				
					7	0.23	ND	ND	ND	0.23				
					14	0.19	ND	ND	ND	0.19				
			Grant, WA, 米国	-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-
				4	7	102*	400*	果実	0	0.32	ND	ND	ND	0.32
								1	0.35	ND	ND	ND	0.35	
		7						0.29	ND	ND	ND	0.29		
		14						0.18	ND	ND	ND	0.18		
		99**		395**	果実	0	0.21	ND	ND	ND	0.21			
					1	0.22	ND	ND	ND	0.22				
					7	0.16	ND	ND	ND	0.16				
					14	0.19	ND	ND	ND	0.19				
		Washington ID, 米国		-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-
				4	6 7 7	104*	408*	果実	0	0.37	ND	ND	ND	0.37
								1	0.31	ND	ND	ND	0.31	
			7					0.25	ND	ND	ND	0.25		
			10					0.27	ND	ND	ND	0.27		
			101**	400**	果実	0	0.27	ND	ND	ND	0.27			
1	0.24				ND	ND	ND	0.24						
7	0.19				ND	ND	ND	0.19						
10	0.30	ND			ND	ND	0.30							
14	0.19	ND	ND	ND	0.19									

- 1 すべて地上散布。
- 2 \* : concentrated spray volume, 水 693-824 L/ha
- 3 \*\* : dilute spray volume, 水 1405-2065 L/ha
- 4 ND:<0.002 ppm
- 5

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関: BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
なし	6.25% EC	Wayne, NY, 米国	-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-
			4	9 6 8	100*	398*	果実	0	0.21	ND	<0.01	ND	0.22
								1	0.17	ND	<0.01	ND	0.18
								7	0.15	ND	0.01	ND	0.16
								14	0.10	ND	<0.01	ND	0.11
			8 6 8	100**	400**	果実	0	0.18	ND	<0.01	ND	0.19	
							1	0.16	ND	<0.01	ND	0.17	
							7	0.11	ND	<0.01	ND	0.12	
		14					0.09	ND	<0.01	ND	0.10		
		Wayne, NY, 米国	-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-
			4	7	102*	406*	果実	0	0.26	ND	<0.01	ND	0.27
								1	0.24	ND	<0.01	<0.01	0.25
								7	0.27	ND	<0.01	ND	0.28
								14	0.19	ND	<0.01	ND	0.20
			103**	405**	果実	0	0.34	ND	<0.01	ND	0.35		
						1	0.34	ND	<0.01	ND	0.35		
						7	0.31	ND	<0.01	ND	0.32		
		14				0.19	ND	<0.01	ND	0.20			
		Allegan, MI, 米国	-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-
			4	7	103*	405*	果実	0	0.18	ND	<0.01	ND	0.19
								1	0.17	ND	<0.01	ND	0.18
								7	0.19	ND	<0.01	ND	0.20
								14	0.11	ND	0.01	ND	0.12
			102**	404**	果実	0	0.21	ND	<0.01	ND	0.22		
1	0.29					ND	0.01	ND	0.30				
7	0.14					ND	<0.01	ND	0.15				
14	0.06	ND				<0.01	ND	0.07					

- 1 すべて地上散布。
- 2 \* : concentrated spray volume, 水 693-824 L/ha
- 3 \*\* : dilute spray volume, 水 1405-2065 L/ha
- 4 ND:<0.002 ppm
- 5

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
なし	6.25% EC	Simcoe, ON, カナダ	-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-
			4	7 7 6	99*	388*	果実	0	0.13	ND	<0.01	ND	0.14
								1	0.16	ND	<0.01	ND	0.17
								7	0.05	ND	<0.01	ND	0.06
								14	0.04	ND	<0.01	ND	0.05
			101**	397**	果実	0	0.17	ND	<0.01	ND	0.18		
						1	0.18	ND	<0.01	ND	0.19		
						7	0.12	ND	<0.01	ND	0.13		
		14				0.05	ND	<0.01	ND	0.06			
		Ottawa, MI, 米国	-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-
			4	7	101*	400*	果実	0	0.38	ND	<0.01	ND	0.39
								1	0.29	ND	0.01	ND	0.30
								7	0.21	ND	<0.01	ND	0.22
								14	0.18	ND	0.01	ND	0.19
			100**	400**	果実	0	0.29	ND	<0.01	ND	0.30		
						1	0.20	ND	<0.01	ND	0.21		
7	0.19					ND	<0.01	ND	0.20				
14	0.17	ND				0.01	ND	0.18					

- 1 すべて地上散布。
- 2 \* : concentrated spray volume, 水 693-824 L/ha
- 3 \*\* : dilute spray volume, 水 1405-2065 L/ha
- 4 ND:<0.002 ppm
- 5

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)									
					1 回 当り	1 作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計					
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)																		
なし	6.25% EC	Tulare, CA, 米国	-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-					
			4	7	100*	400*	果実	0	0.13	ND	<0.01	ND	0.14					
								0	0.11	ND	ND	0.11						
								1	0.08	ND	ND	ND	0.08					
									0.08	ND	ND	ND	0.08					
								7	0.05	ND	ND	ND	0.05					
									0.07	ND	ND	ND	0.07					
			14	0.05	ND	ND	ND	0.05										
				0.04	ND	<0.01	ND	0.05										
			-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-					
			4	7	101**	397**	果実	0	0.19	ND	<0.01	ND	0.20					
								0	0.21	ND	<0.01	ND	0.22					
		1						0.15	ND	ND	ND	0.15						
								0.14	ND	ND	ND	0.14						
		7						0.15	ND	ND	ND	0.15						
								0.12	ND	ND	ND	0.12						
		14						0.11	ND	ND	ND	0.11						
								0.09	ND	ND	ND	0.09						
		Madera, CA, 米国						-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-
								4	7	101*	404*	果実	0	0.23	ND	<0.01	ND	0.24
		1											0.14	ND	ND	ND	0.14	
		7											0.11	ND	<0.01	ND	0.12	
		10	0.12	ND	<0.01	ND	0.13											
		14	0.10	ND	<0.01	ND	0.11											
100**	399**	果実	0	0.22	ND	ND	ND						0.22					
			1	0.19	ND	ND	ND						0.19					
			7	0.04	ND	ND	ND						0.04					
			10	0.14	ND	<0.01	ND						0.15					
			14	0.06	ND	<0.01	ND						0.07					

- 1 すべて地上散布。
- 2 \* : concentrated spray volume, 水 693-824 L/ha
- 3 \*\* : dilute spray volume, 水 1405-2065 L/ha
- 4 ND:<0.002 ppm
- 5

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)					
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計	
試験実施機関：BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)														
なし	6.25% EC	Grant, WA, 米国	-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-	
			4	7	100*	398*	果実	0	0.47	ND	ND	ND	0.47	
							1	0.36	ND	ND	ND	0.36		
							7	0.41	ND	<0.01	ND	0.42		
							14	0.31	ND	<0.01	ND	0.32		
			99**	395**	果実	0	0.4	ND	ND	ND	0.40			
					1	0.42	ND	ND	0.04	0.45				
					7	0.42	ND	<0.01	ND	0.43				
					14	0.26	ND	ND	ND	0.26				
			Grant, WA, 米国	-	-	-	-	果実	-	ND	ND	ND	ND	-
				4	7	101*	400*	果実	0	0.22	ND	0.01	ND	0.23
								1	0.17	ND	<0.01	ND	0.18	
		7						0.17	ND	0.02	ND	0.19		
		14						ND	ND	<0.01	ND	0.01		
		100**		397**	果実	0	0.23	ND	<0.01	ND	0.24			
					1	0.2	ND	0.01	ND	0.21				
					7	0.13	ND	0.01	ND	0.14				
					14	0.09	ND	0.02	ND	0.11				
		Hood River, OR, 米国		-	-	-	-	果実	-	<0.01	ND	ND	ND	-
				4	7	109*	410*	果実	0	0.1	ND	0.01	ND	0.11
								1	0.09	ND	<0.01	ND	0.10	
			7					0.04	ND	<0.01	ND	0.05		
			14					0.03	ND	<0.01	ND	0.04		
			111**	414**	果実	0	0.45	ND	0.01	ND	0.46			
1	0.09				ND	0.01	ND	0.10						
7	0.05				ND	0.01	ND	0.06						
14	0.02	ND			0.01	ND	0.03							

1 すべて地上散布。

2 \* : concentrated spray volume, 水 693-824 L/ha, \*\* : dilute spray volume, 水

3 1405-2065 L/ha

4 ND:<0.002 ppm

5

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロキ サド <sup>1)</sup>	F002	F008	F048	合計
試験実施機関: BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
なたね	6.25% EC	Macon, GA, 米国	-	-	-	-	種子	-	ND	ND	ND	ND	-
			2	14	105	208	種子	21	0.11	ND	0.02	0.01	0.14
							種子	21	0.07	ND	0.01	<LOQ	0.09
		Portage la Prairie, MB, カナダ <sup>2)</sup>	-	-	-	-	種子	-	ND	ND	ND	ND	-
			2	14	100	198	種子	22	0.04	ND	<LOQ	<LOQ	0.05
							種子	22	0.03	ND	<LOQ	<LOQ	0.04
		RM 314, SK, カナダ <sup>2)</sup>	-	-	-	-	種子	-	ND	ND	ND	ND	-
			2	14	100	199	種子	21	0.13	<LOQ	0.02	<LOQ	0.17
							種子	21	0.18	ND	0.03	<LOQ	0.22
		Power, ID, 米国	-	-	-	-	種子	(14)	0.01	ND	ND	ND	-
			-	-	-	-	種子	(21)	ND	ND	ND	ND	-
			2	13	104	202	種子	14	0.29	ND	0.10	0.10	0.47
							種子	14	0.20	ND	0.08	0.04	0.31
							種子	18	0.27	ND	0.10	0.12	0.46
							種子	18	0.26	ND	0.10	0.10	0.44
							種子	21	0.11	ND	0.03	0.02	0.16
							種子	21	0.11	ND	ND	<LOQ	0.12
							種子	24	0.12	ND	0.02	0.02	0.16
							種子	24	0.12	ND	0.03	0.02	0.17
		RM 404, SK, カナダ <sup>2)</sup>	-	-	-	-	種子	-	ND	ND	ND	ND	-
			2	15	99	197	種子	14	0.21	ND	0.03	0.01	0.25
							種子	14	0.08	ND	0.01	<LOQ	0.10
							種子	19	0.15	ND	0.02	0.01	0.18
							種子	19	0.11	ND	0.01	<LOQ	0.13
							種子	21	0.14	ND	0.01	<LOQ	0.16
							種子	21	0.24	ND	0.02	0.01	0.27
							種子	25	0.81	ND	0.09	0.05	0.94
					種子	25	0.64	<LOQ	0.05	0.04	0.73		
					種子	27	0.11	ND	0.02	0.01	0.14		
				種子	27	0.18	ND	0.02	0.01	0.21			

1 すべて茎葉処理。

2

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散布 間隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部位	PHI (日)	残留濃度(ppm)				
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド	F002	F008	F048	合計
試験実施機関: BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)													
なたね	6.25% EC	Franklin, ID, 米国	-	-	-	-	種子	-	ND	ND	ND	<0.01	-
			2	14	102	202	種子	21	0.02	ND	<LOQ	<LOQ	0.03
							種子	21	0.02	ND	<LOQ	<LOQ	0.03
		North Cypress, MB, カタ	-	-	-	-	種子	-	ND	ND	ND	ND	-
			2	15	100	198	種子	22	0.02	ND	<LOQ	<LOQ	0.03
						種子	22	0.02	ND	<LOQ	<LOQ	0.03	
		North Cypress, MB, カタ	-	-	-	-	種子	-	ND	ND	ND	ND	-
			2	15	99	198	種子	22	0.02	ND	<LOQ	ND	0.03
						種子	22	0.01	ND	<LOQ	ND	0.02	
		RM 404, SK, カタ	-	-	-	-	種子	-	ND	ND	ND	ND	-
			2	15	99	198	種子	21	0.27	ND	0.02	0.02	0.31
						種子	21	0.18	ND	0.02	0.01	0.21	
		RM 402, SK, カタ	-	-	-	-	種子	-	ND	ND	ND	ND	-
			2	15	100	199	種子	21	0.19	ND	0.04	0.02	0.25
						種子	21	0.24	ND	0.04	0.02	0.30	
		RM 402, SK, カタ	-	-	-	-	種子	-	ND	ND	ND	ND	-
			2	15	100	199	種子	21	0.20	ND	0.03	0.03	0.26
						種子	21	0.24	ND	0.03	0.02	0.29	
		Strathcona, AB, カタ	-	-	-	-	種子	-	<0.01	ND	ND	ND	-
			2	14	101	197	種子	21	0.09	ND	0.01	0.01	0.11
						種子	21	0.09	ND	0.01	<LOQ	0.11	
		Strathcona, AB, カタ	-	-	-	-	種子	-	0.06	ND	ND	ND	-
			2	15	103	200	種子	21	0.04	ND	<LOQ	<LOQ	0.05
						種子	21	0.12	ND	<LOQ	<LOQ	0.13	
		Lamont, AB, カタ	-	-	-	-	種子	-	<0.01	ND	ND	ND	-
			2	14	101	202	種子	21	0.06	ND	<LOQ	<LOQ	0.07
						種子	21	0.04	ND	<LOQ	<LOQ	0.05	
		Lamont, AB, カタ	-	-	-	-	種子	-	<0.01	ND	ND	ND	-
2	14		103	205	種子	21	0.05	ND	<LOQ	<LOQ	0.06		
				種子	21	0.05	<LOQ	<LOQ	<LOQ	0.07			
RM 434, SK, カタ	-	-	-	-	種子	-	ND	ND	ND	ND	-		
	2	14	100	200	種子	21	0.12	<LOQ	0.02	0.02	0.17		
				種子	21	0.11	ND	0.02	0.01	0.14			

農作物	剤型 (濃度)	試験実施 場所 (市,州,国)	回 数	散 布 間 隔 (日)	最大処理量 (g a.i./ha)		部 位	PHI (日)	残留濃度(ppm)					
					1回 当り	1作 付け 当り			フルキサ ピロ キサド <sup>1</sup>	F002	F008	F048	合計	
試験実施機関: BASF Agricultural Research Center (米国 ノースカロライナ州)														
ひまわり	6.25% EC	Portage la Prairie, MB, カナダ	-	-	-	-	種子	-	ND	ND	<0.01	ND	-	
			2	15	102	204	種子	21	0.02	ND	ND	ND	0.02	
						種子	21	<LOQ	ND	ND	ND	0.01		
		Rice, KS, カナダ	-	-	-	-	種子	(14)	ND	ND	ND	ND	-	
			-	-	-	-	種子	(21)	0.01	ND	ND	ND	-	
			2	14	102	203	種子	14	0.06	ND	ND	ND	0.06	
							種子	14	0.06	ND	ND	ND	0.06	
							種子	18	0.02	ND	ND	ND	0.02	
							種子	18	0.04	ND	ND	ND	0.04	
							種子	21	<LOQ	ND	ND	ND	0.01	
							種子	21	0.01	ND	ND	ND	0.01	
							種子	24	0.04	ND	ND	ND	0.04	
							種子	24	0.05	ND	ND	ND	0.05	
							種子	28	0.03	ND	ND	ND	0.03	
							種子	28	0.02	ND	ND	ND	0.02	
		RM 314, SK, カナダ	-	-	-	-	種子	-	0.02	ND	ND	ND	-	
			2	14	100	199	種子	21	0.15	ND	ND	ND	0.15	
						種子	21	0.10	ND	ND	ND	0.10		
		RM 314, SK, カナダ	-	-	-	-	種子	-	<0.01	ND	ND	ND	-	
			2	14	101	199	種子	21	0.09	ND	ND	ND	0.09	
						種子	21	0.09	ND	ND	ND	0.09		
		RM 283, SK, カナダ	-	-	-	-	種子	-	ND	ND	ND	ND	-	
			2	13	100	199	種子	21	0.06	ND	ND	ND	0.06	
						種子	21	0.06	ND	ND	ND	0.06		
		Hockley, TX, 米国	-	-	-	-	種子	-	ND	ND	ND	ND	-	
			2	14	99	197	種子	21	0.10	ND	ND	ND	0.10	
						種子	21	0.12	ND	ND	ND	0.12		
		North Cypress, MB, カナダ	-	-	-	-	種子	-	ND	ND	ND	ND	-	
2	15		101	201	種子	21	0.01	ND	ND	ND	0.01			
				種子	21	0.01	ND	ND	ND	0.01				
North Cypress, MB, カナダ	-	-	-	-	種子	-	ND	ND	ND	ND	-			
	2	15	101	202	種子	21	0.02	ND	ND	ND	0.02			
				種子	21	0.02	ND	ND	ND	0.02				

- 1 すべて茎葉処理。
- 2 ND:<0.002 ppm
- 3 <LOQ:<0.01 ppm
- 4
- 5

## 1 &lt;別紙 4：畜産物残留試験（海外）&gt;

## 2 ①ウシ

試料	試験日	休薬日数	フルキサピロキサド (mg/kg)				
			1 群 対照	2 群 通常量 EU	3 群 通常量 US	4 群 3 倍量 US	5 群 10 倍量 US
乳汁	-1	0	ND	ND	ND	ND	ND
	1	0	ND	<0.001 (<0.001)	0.00114 (0.00141)	0.00280 (0.00300)	0.0103 (0.0218)
	3	0	<0.001 (<0.001)	<0.001 (<0.001)	0.00167 (0.00280)	0.00378 (0.00433)	0.0144 (0.0253)
	5	0	ND	0.00101 (0.00104)	0.00181 (0.00289)	0.00405 (0.00480)	0.0132 (0.0275)
	7	0	ND	<0.001 (<0.001)	0.00167 (0.00281)	0.00517 (0.00631)	0.0146 (0.0265)
	10	0	ND	<0.001 (<0.001)	0.00186 (0.00295)	0.00446 (0.00457)	0.0154 (0.0374)
	14	0	ND	0.00109 (0.00128)	0.00152 (0.00252)	0.00360 (0.00462)	0.0123 (0.0295)
	17	0	ND	<0.001 (<0.001)	0.00153 (0.00259)	0.00389 (0.00442)	0.0130 (0.0271)
	21	0	<0.001 (<0.001)	0.00111 (0.00132)	0.00144 (0.00212)	0.00450 (0.00601)	0.0129 (0.0282)
	24	0	ND	0.00103 (0.00109)	0.00161 (0.00260)	0.00467 (0.00485)	0.0153 (0.0254)
	28	0	ND	0.00111 (0.00132)	0.00183 (0.00321)	0.00413 (0.00454)	0.0146 (0.0234)
	29	1	—	—	—	—	0.00409 (0.00565)
	30	2	—	—	—	—	0.00109 (0.00115)
	32	4	—	—	—	—	ND
	34	6	—	—	—	—	ND
35	7	—	—	—	—	ND	
脱脂乳 (21 日)			<0.001 (0.001)	<0.001 (0.001)	<0.001 (0.001)	<0.001 (0.001)	0.00234 (0.00526)
乳脂 (21 日)			<0.001 (0.001)	0.00577 (0.00703)	0.00432 (0.00541)	0.0313 (0.0564)	0.135 (0.334)

3 数値上段は平均値、下段（ ）内は個体別最大値、ND：検出下限未満（&lt;0.000153mg/kg）、

4 —：試料なし

5

試料	試験日	休薬日数	代謝物 008 (mg/kg)				
			1 群 対照	2 群 通常量 EU	3 群 通常量 US	4 群 3 倍量 US	5 群 10 倍量 US
乳汁	-1	0	ND	ND	ND	ND	ND
	1	0	ND	0.00105 (0.00115)	0.00120 (0.00160)	0.00295 (0.00349)	0.0108 (0.0153)
	3	0	ND	0.00118	0.00148	0.00336	0.0143

			(0.00134)	(0.00245)	(0.00398)	(0.0227)
5	0	ND	0.00122 (0.00143)	0.00177 (0.00261)	0.00389 (0.00454)	0.0128 (0.0225)
7	0	ND	0.00124 (0.00142)	0.00164 (0.00268)	0.00460 (0.00534)	0.0160 (0.0260)
10	0	ND	0.00108 (0.00124)	0.00157 (0.00228)	0.00400 (0.00532)	0.0129 (0.0228)
14	0	ND	0.00102 (0.00107)	0.00130 (0.00175)	0.00251 (0.00352)	0.00973 (0.0114)
17	0	ND	0.00104 (0.00112)	0.00133 (0.00198)	0.00315 (0.00437)	0.0118 (0.0165)
21	0	ND	0.00104 (0.00113)	0.00124 (0.00171)	0.00346 (0.00408)	0.0108 (0.0168)
24	0	ND	0.00138 (0.00170)	0.00163 (0.00251)	0.00395 (0.00488)	0.0147 (0.0261)
28	0	ND	0.00146 (0.00170)	0.00160 (0.00251)	0.00325 (0.00436)	0.0157 (0.0290)
29	1	—	—	—	—	0.00494 (0.00905)
30	2	—	—	—	—	0.00132 (0.00196)
32	4	—	—	—	—	ND
34	6	—	—	—	—	ND
35	7	—	—	—	—	ND
脱脂乳 (21 日)		<0.001 (0.001)	<0.001 (0.001)	<0.001 (0.001)	0.00132 (0.00178)	0.00370 (0.00479)
乳脂 (21 日)		<0.001 (0.001)	0.00365 (0.00522)	0.00287 (0.00493)	0.0160 (0.0198)	0.0721 (0.0984)

1 数値上段は平均値、下段（ ）内は個体別最大値、ND：検出下限未満(<0.000232mg/kg)、  
2 ー：試料なし  
3

試料	試験日	休薬日数	代謝物 002 (mg/kg)				
			1 群 対照	2 群 通常量 EU	3 群 通常量 US	4 群 3 倍量 US	5 群 10 倍量 US
乳汁	-1	0	ND	ND	ND	ND	ND
	1	0	ND	ND	ND	<0.001 (<0.001)	<0.001 (<0.001)
	3	0	ND	<0.001 (<0.001)	ND	ND	<0.001 (<0.001)
	5	0	ND	ND	ND	ND	<0.001 (<0.001)
	7	0	<0.001 (<0.001)	ND	ND	<0.001 (<0.001)	<0.001 (<0.001)
	10	0	ND	ND	ND	ND	<0.001 (<0.001)
	14	0	ND	ND	ND	ND	<0.001 <sup>1)</sup> (<0.001 <sup>1)</sup> )
	17	0	ND	ND	ND	ND	<0.001

						<0.001
21	0	ND	ND	ND	ND	<0.001 (<0.001)
24	0	ND	<0.001 (<0.001)	<0.001 (<0.001)	<0.001 (<0.001)	<0.001 (<0.001)
28	0	ND	ND	<0.001 (<0.001)	<0.001 (<0.001)	<0.001 <sup>1)</sup> (<0.001 <sup>1)</sup> )
29	1	—	—	—	—	<0.001 (<0.001)
30	2	—	—	—	—	ND
32	4	—	—	—	—	ND
34	6	—	—	—	—	ND
35	7	—	—	—	—	ND
脱脂乳 (21日)		<0.001 (<0.001)	<0.001 (<0.001)	<0.001 (<0.001)	<0.001 (<0.001)	<0.001 (<0.001)
乳脂 (21日)		<0.001 (<0.001)	<0.001 (<0.001)	<0.001 (<0.001)	<0.001 (<0.001)	<0.001 (<0.001)

1 数値上段は平均値、下段( )内は個体別最大値、ND：非検出あるいは検出下限未満

2 (&lt;0.0000487mg/kg)、—：試料なし、1)：改良法による再分析結果を含む

3

試験群		休薬日数	フルキサピロキサド (mg/kg)			
			筋肉	肝臓	腎臓	脂肪
1	対照群	0	ND	ND	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
2	通常量 EU	0	ND	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	0.0105 (0.0108)
3	通常量 US	0	<0.01 (<0.01)	0.0128 (0.0145)	<0.01 (<0.01)	0.0193 (0.0241)
4	3倍量 US	0	<0.01 (<0.01)	0.0308 (0.0317)	<0.01 (<0.01)	0.0447 (0.0585)
5	10倍量 US	0	0.0108 (0.0124)	0.0846 (0.0939)	0.0143 (0.0192)	0.147 (0.171)
		2	ND	<0.01	<0.01	<0.01
		5	ND	ND	<0.01	<0.01
		7	ND	ND	<0.01	<0.01

4 数値上段は平均値、下段( )内は個体別最大値、ND：非検出あるいは検出下限未満

5

試験群		休薬日数	代謝物 008 (mg/kg)			
			筋肉	肝臓	腎臓	脂肪
1	対照群	0	ND	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
2	通常量 EU	0	<0.01 (<0.01)	0.0229 (0.0318)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
3	通常量 US	0	<0.01 (<0.01)	0.0379 (0.0513)	0.0105 (0.0114)	<0.01 (<0.01)
4	3倍量 US	0	<0.01 (<0.01)	0.0875 (0.111)	0.0166 (0.0213)	0.0246 (0.0321)

5	10倍量 US	0	0.0244 (0.0314)	0.255 (0.347)	0.0504 (0.0757)	0.108 (0.125)
		2	ND	<0.01	<0.01	<0.01
		5	ND	<0.01	<0.01	<0.01
		7	ND	<0.01	<0.01	<0.01

1 数値上段は平均値、下段( )内は個体別最大値、ND: 非検出あるいは検出下限未満

2

試験群		休薬日数	代謝物 002 (mg/kg)			
			筋肉	肝臓	腎臓	脂肪
1	対照群	0	ND	ND	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
2	通常量 EU	0	ND	ND	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
3	通常量 US	0	ND	ND	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
4	3倍量 US	0	ND	ND	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
5	10倍量 US	0	ND <sup>1)</sup>	ND <sup>1)</sup>	<0.01 <sup>1)</sup> (<0.01 <sup>1)</sup> )	<0.01 <sup>1)</sup> (<0.01 <sup>1)</sup> )
		2	ND	ND	<0.01	<0.01
		5	ND	ND	<0.01	<0.01
		7	ND	ND	<0.01	<0.01

3 数値上段は平均値、下段( )内は個体別最大値、ND: 非検出あるいは検出下限未満、

4 1): 改良法による再分析結果を含む

5

## 6 ②ニワトリ

試料	試験日	休薬日数	フルキサピロキサド (mg/kg)				
			1群 <sup>1)</sup> 対照	2群 通常量 US	3群 通常量 EU	4群 3倍量 EU	5群/6群 <sup>2)</sup> 10倍量 EU
鶏卵	-1	0	ND	ND	<LOQ (<LOQ)	ND	<LOQ (0.00168)
	1	0	ND	ND	<LOQ (<LOQ)	<LOQ (<LOQ)	0.00248 (0.00327)
	3	0	ND	ND	<LOQ (<LOQ)	0.00143 (0.00179)	0.00294 (0.00376)
	5	0	ND	<LOQ (<LOQ)	<LOQ (<LOQ)	0.00135 (0.00159)	0.00648 (0.0124)
	7	0	<LOQ (<LOQ)	<LOQ (<LOQ)	<LOQ (<LOQ)	0.00128 (0.00148)	0.00529 (0.00543)
	9	0	ND	<LOQ (<LOQ)	<LOQ (<LOQ)	0.00143 (0.00180)	0.00432 (0.00585)
	13	0	<LOQ (<LOQ)	<LOQ (<LOQ)	<LOQ (0.00170)	0.00122 (0.00131)	0.00299 (0.00348)
	16	0	ND	<LOQ (<LOQ)	<LOQ (<LOQ)	0.00109 (0.00127)	0.0413 (0.0474)
	20	0	<LOQ (<LOQ)	ND	<LOQ (<LOQ)	0.00166 (0.00211)	0.00396 (0.00538)

23	0	<LOQ (<LOQ)	0.00143 (0.00212)	0.00170 (0.00309)	0.00196 (0.00269)	0.00453 (0.00643)
27	0	<LOQ (<LOQ)	<LOQ (<LOQ)	<LOQ (<LOQ)	0.00277 (0.00451)	0.00432 (0.00585)
27	0	—	—	—	—	0.00413 (0.00589)
28	0	<LOQ	—	—	—	0.00363 (0.00441)
30	2	ND	—	—	—	0.00158 (0.00165)
32	4	ND	—	—	—	<LOQ (<LOQ)
34	8	ND	—	—	—	<LOQ (<LOQ)
36	10	ND	—	—	—	ND
38	12	ND	—	—	—	ND
40	14	ND	—	—	—	ND
41	15	ND	—	—	—	ND

- 1 数値上段は群平均値、下段（ ）内は亜群別最大値、  
 2 ND：検出下限未満(<0.000191mg/kg)、LOQ：定量下限(0.001mg/kg)、—：試料なし  
 3 1)：休薬期間(6群)の対照4例(28～41日)を含む、2)：5群は-1～27日、6群は27～41日  
 4

試料	試験日	休薬日数	代謝物 008 (mg/kg)				
			1群 <sup>1)</sup> 対照	2群 通常量 US	3群 通常量 EU	4群 3倍量 EU	5群/6群 <sup>2)</sup> 10倍量 EU
鶏卵	-1	0	ND	ND	ND	ND	ND
	1	0	ND	ND	<LOQ (<LOQ)	0.00101 (0.00104)	0.00339 (0.00626)
	3	0	ND	<LOQ (<LOQ)	<LOQ (<LOQ)	0.00251 (0.00307)	0.00593 (0.00898)
	5	0	ND	<LOQ (<LOQ)	0.00121 (0.00125)	0.00427 (0.00490)	0.0127 (0.0184)
	7	0	ND	<LOQ (<LOQ)	0.00142 (0.00168)	0.00408 (0.00441)	0.0115 (0.0143)
	9	0	ND	<LOQ (<LOQ)	<LOQ (<LOQ)	0.00425 (0.00518)	0.0122 (0.0132)
	13	0	ND	<LOQ (<LOQ)	0.00128 (0.00148)	0.00379 (0.00400)	0.00895 (0.0138)
	16	0	ND	<LOQ (<LOQ)	0.00166 (0.00207)	0.00307 (0.00375)	0.0106 (0.0123)
	20	0	ND	<LOQ (<LOQ)	0.00130 (0.00152)	0.00477 (0.00545)	0.00854 (0.0140)
	23	0	ND	<LOQ (<LOQ)	0.00107 (0.00110)	0.00435 (0.00485)	0.00862 (0.0118)
	27	0	ND	<LOQ	0.00111	0.00412	0.0122

			(<LOQ)	(0.00119)	(0.00520)	(0.0132)
27	0	—	—	—	—	0.0114 (0.0147)
28	0	ND	—	—	—	0.0111 (0.0127)
30	2	ND	—	—	—	0.00720 (0.00811)
32	4	ND	—	—	—	0.00447 (0.00518)
34	6	ND	—	—	—	0.00118 (0.00126)
36	8	ND	—	—	—	<LOQ (<LOQ)
38	12	ND	—	—	—	ND
40	14	ND	—	—	—	ND
41	15	ND	—	—	—	ND

- 1 数値上段は群平均値、下段（ ）内は亜群別最大値、
- 2 ND：検出下限未満(<0.000142mg/kg)、LOQ：定量下限(0.001mg/kg)、—：試料なし
- 3 1)：休薬期間(6群)の対照4例(28～41日)を含む、2)：5群は-1～27日、6群は27～41日
- 4

試料	試験日	休薬日数	代謝物 002 (mg/kg)				
			1群 <sup>1)</sup> 対照	2群 通常量 US	3群 通常量 EU	4群 3倍量 EU	5群/6群 <sup>2)</sup> 10倍量 EU
鶏卵	-1	0	ND	<LOQ (<LOQ)	<LOQ (0.00100)	ND	<LOQ (<LOQ)
	1	0	ND	ND	ND	ND	ND
	3	0	ND	ND	ND	ND	ND
	5	0	ND	ND	<LOQ (<LOQ)	ND	ND
	7	0	<LOQ (<LOQ)	ND	<LOQ (<LOQ)	ND	<LOQ (<LOQ)
	9	0	ND	ND	ND	ND	<LOQ (<LOQ)
	13	0	ND	<LOQ (<LOQ)	ND	ND	<LOQ (<LOQ)
	16	0	<LOQ (<LOQ)	ND	<LOQ (<LOQ)	ND	<LOQ (<LOQ)
	20	0	ND	<LOQ (<LOQ)	ND	ND	<LOQ (<LOQ)
	23	0	ND	<LOQ (<LOQ)	ND	ND	<LOQ (<LOQ)
	27	0	ND	ND	ND	<LOQ (<LOQ)	ND
	27	0	—	—	—	—	<LOQ (<LOQ)
	28	0	<LOQ	—	—	—	ND
30	2	ND	—	—	—	ND	

32	4	ND	—	—	—	ND
34	6	ND	—	—	—	<LOQ (<LOQ)
36	8	ND	—	—	—	ND
38	12	ND	—	—	—	ND
40	14	ND	—	—	—	ND
41	15	ND	—	—	—	ND

- 1 数値上段は群平均値、下段（ ）内は亜群別最大値、  
 2 ND：検出下限未満(<0.000107mg/kg)、LOQ：定量下限(0.001mg/kg)、—：試料なし  
 3 1)：休薬期間(6群)の対照4例(28～41日)を含む、2)：5群は-1～27日、6群は27～41日  
 4

試験群	休薬 日数	フルキサピロキサド (mg/kg)			
		筋肉	肝臓	皮膚(皮下脂肪を含む)	脂肪
1 対照群	0	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
2 通常量 US	0	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
3 通常量 EU	0	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
4 3倍量 EU	0	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
5 10倍量 EU	0	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	0.0251 (0.0278)
6 10倍量 EU	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	対照	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

- 5 数値上段は平均値、下段（ ）内は個体別最大値

6

試験群	休薬 日数	代謝物 008 (mg/kg)			
		筋肉	肝臓	皮膚(皮下脂肪を含む)	脂肪
1 対照群	0	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
2 通常量 US	0	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
3 通常量 EU	0	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
4 3倍量 EU	0	<0.01 (<0.01)	0.0104 (0.0111)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
5 10倍量 EU	0	<0.01 (<0.01)	0.0143 (0.0184)	<0.01 (<0.01)	0.141 (0.157)
6 10倍量 EU	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	対照	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

- 7 数値上段は平均値、下段（ ）内は個体別最大値

1

試験群		休薬 日数	代謝物 002 (mg/kg)			
			筋肉	肝臓	皮膚(皮下脂肪を含む)	脂肪
1	対照群	0	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
2	通常量 US	0	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
3	通常量 EU	0	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
4	3 倍量 EU	0	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)	<0.01 (<0.01)
5	10 倍量 EU	0	<0.01 <sup>1)</sup> (<0.01 <sup>1)</sup> )	<0.01 <sup>1)</sup> (<0.01 <sup>1)</sup> )	<0.01 <sup>1)</sup> (<0.01 <sup>1)</sup> )	<0.01 <sup>1)</sup> (<0.01 <sup>1)</sup> )
6	10 倍量 EU	3	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		7	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
		14	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
	対照		<0.01	<0.01	<0.01	<0.01

2 数値上段は平均値、下段（ ）内は個別最大値

3 1) : 改良法による再分析結果を含む

4

5

6

7

- 1 <参照>
- 2 1. 農薬抄録フルキサピロキサド（平成 24 年 7 月 2 日改訂）：BASF ジャパン株式
  - 3 会社、一部公表予定
  - 4 2. <sup>14</sup>C-標識体のラットにおける動態試験（GLP 対応）：BASF 農薬研究所、2009
  - 5 年、未公表
  - 6 3. <sup>14</sup>C-標識体のラットにおける生体内代謝試験（GLP 対応）：BASF 農薬研究所、
  - 7 2009 年、未公表
  - 8 4. <sup>4</sup>C-標識体のヤギにおける動態試験（GLP 対応）：BASF 農薬研究所、2009 年、
  - 9 未公表
  - 10 5. <sup>4</sup>C-標識体のヤギにおける生体内代謝試験（GLP 対応）：BASF 農薬研究所、
  - 11 2009 年、未公表
  - 12 6. 産卵鶏における吸収、分布、排泄および排泄試験（GLP 対応）：BASF 農薬研
  - 13 究所、2009 年、未公表
  - 14 7. 産卵鶏における代謝試験（GLP 対応）：BASF 農薬研究所、2009 年、未公表
  - 15 8. <sup>14</sup>C-標識体のトマトにおける代謝試験（GLP 対応）：BASF 農薬研究所、2009
  - 16 年、未公表
  - 17 9. <sup>14</sup>C-標識体の大豆茎葉処理における代謝試験（GLP 対応）：BASF 農薬研究所、
  - 18 2009 年、未公表
  - 19 10. <sup>14</sup>C-標識体の小麦茎葉処理における代謝試験（GLP 対応）：BASF 農薬研究所、
  - 20 2009 年、未公表
  - 21 11. <sup>14</sup>C-標識体の小麦種子処理における代謝試験（GLP 対応）：BASF 農薬研究所、
  - 22 2009 年、未公表
  - 23 12. 好氣的土壤中動態試験（GLP 対応）：BASF SE、2009 年、未公表
  - 24 13. 好氣的土壤中動態試験（GLP 対応）：BASF SE、2009 年、未公表
  - 25 14. 好氣的土壤中分解速度試験（GLP 対応）：BASF SE、2009 年、未公表
  - 26 15. 好氣的土壤中動態試験（GLP 対応）：BASF SE、2009 年、未公表
  - 27 16. 土壌吸脱着試験（GLP 対応）：BASF SE、2009 年、未公表
  - 28 17. 加水分解動態試験（GLP 対応）：BASF SE、2009 年、未公表
  - 29 18. 水中光分解試験（緩衝液）（GLP 対応）：BASF SE、2009 年、未公表
  - 30 19. 水中光分解試験（自然水）（GLP 対応）：BASF SE、2010 年、未公表
  - 31 20. 泌乳牛における乳汁および組織中残留試験（GLP 対応）：Charles River、2009
  - 32 年、未公表
  - 33 21. 産卵鶏における卵および組織中残留試験（GLP 対応）：Charles River、2010 年、
  - 34 未公表
  - 35 22. BAS700F のマウスおよびラットにおける毒性薬理試験ラットにおける急性経口
  - 36 毒性試験（GLP 対応）：食品農医薬品安全性評価センター、2010 年、未公表
  - 37 23. ラットを用いた急性経口毒性試験（GLP 対応）：Centre International de
  - 38 Toxicologie、2008 年、未公表

- 1 24. ラットを用いた急性経皮毒性試験（GLP対応）：Centre International de  
2 Toxicologie、2008年、未公表
- 3 25. ラットを用いた粉塵ダストによる急性吸入毒性試験（GLP対応）：Bioassay  
4 GmbH、2008年、未公表
- 5 26. ラットにおける急性経口毒性試験（GLP対応）：Bioassay GmbH、2009年、未  
6 公表
- 7 27. ラットにおける急性経口毒性試験（GLP対応）：Bioassay GmbH、2009年、未  
8 公表
- 9 28. ラットにおける急性経口毒性試験（GLP対応）：Bioassay GmbH、2009年、未  
10 公表
- 11 29. Wistar系ラットを用いた急性経口神経毒性試験（GLP対応）：BASF毒性研究所、  
12 2009年、未公表
- 13 30. ウサギを用いた皮膚刺激性試験（GLP対応）：BASF毒性研究所、2006年、未公  
14 表
- 15 31. ウサギを用いた眼刺激性試験（GLP対応）：BASF毒性研究所、2008年、未公表
- 16 32. モルモットを用いた皮膚感作性試験（GLP対応）：BASF毒性研究所、2008年、  
17 未公表
- 18 33. ラットを用いた90日間反復経口投与毒性試験（GLP対応）：BASF毒性研究所、  
19 2009年、未公表
- 20 34. マウスを用いた90日間反復経口投与毒性試験（GLP対応）：BASF毒性研究所、  
21 2009年、未公表
- 22 35. ビーグル犬を用いた90日間反復経口投与毒性試験（GLP対応）：BASF毒性研究  
23 所、2009年、未公表
- 24 36. ラットを用いた90日間反復経口投与神経毒性試験（GLP対応）：BASF毒性研究  
25 所、2009年、未公表
- 26 37. ビーグル犬を用いた12カ月間反復経口投与慢性毒性試験（GLP対応）：BASF毒  
27 性研究所、2009年、未公表
- 28 38. マウスを用いた18カ月間反復経口投与発癌性併合試験（GLP対応）：BASF毒性  
29 研究所、2009年、2010年（改訂版）、未公表
- 30 39. ラットを用いた12カ月間および24カ月間反復経口投与慢性毒性・発癌性併合試  
31 験（GLP対応）：BASF毒性研究所、2009年、未公表
- 32 40. ラットを用いた2世代繁殖毒性試験（GLP対応）：BASF毒性研究所、2009年、  
33 未公表
- 34 41. ラットを用いた催奇形性試験（GLP対応）：BASF毒性研究所、2009年、未公表
- 35 42. ウサギを用いた催奇形性試験（GLP対応）：BASF毒性研究所、2009年、未公表
- 36 43. 細菌を用いた復帰突然変異試験：Ames試験（GLP対応）：BASF毒性研究所、  
37 2008年、未公表
- 38 44. 細菌を用いた復帰突然変異試験：Ames試験（GLP対応）：BASF毒性研究所、

- 1 2009年、未公表
- 2 45. チャイニーズハムスター卵巣細胞（CHO-K1細胞株）を用いた遺伝子突然変異試
- 3 験：HPRT試験（GLP対応）：BASF毒性研究所、2007年、未公表
- 4 46. チャイニーズハムスター卵巣細胞（CHO-K1細胞株）を用いた遺伝子突然変異試
- 5 験：HPRT試験（GLP対応）：BASF毒性研究所、2009年、未公表
- 6 47. チャイニーズハムスターV79細胞を用いた*in vitro*染色体異常誘発性試験（GLP
- 7 対応）：BASF毒性研究所、2009年、未公表
- 8 48. チャイニーズハムスターV79細胞を用いた*in vitro*染色体異常誘発性試験（GLP
- 9 対応）：BASF毒性研究所、2008年、未公表
- 10 49. 経口投与によるマウス骨髄細胞小核試験（GLP対応）：BASF毒性研究所、2006
- 11 年、未公表
- 12 50. 腹腔内投与によるマウス骨髄細胞小核試験（GLP対応）：BASF毒性研究所、
- 13 2009年、未公表
- 14 51. 経口投与ラットの肝細胞を用いた*in vivo*不定期DNA合成試験（GLP対応）：
- 15 BASF毒性研究所、2008年、未公表
- 16 52. 静脈内投与ラットの肝細胞を用いた*in vivo*不定期DNA合成試験（GLP対応）：
- 17 BASF毒性研究所、2009年、未公表
- 18 53. 細菌を用いた復帰突然変異試験：Ames試験（GLP対応）：BASF毒性研究所、
- 19 2009年、未公表
- 20 54. 細菌を用いた復帰突然変異試験：Ames試験（GLP対応）：BASF毒性研究所、
- 21 2007年、未公表
- 22 55. 細菌を用いた復帰突然変異試験：Ames試験（GLP対応）：BASF毒性研究所、
- 23 2009年、未公表
- 24 56. ラットを用いた肝酵素誘導試験（GLP対応）：BASF毒性研究所、2009年、未公
- 25 表
- 26 57. ラットを用いた甲状腺機能試験（パークロレート放出試験）（GLP対応）：
- 27 BASF毒性研究所、2009年、未公表
- 28 58. ラットを用いた肝細胞増殖反応曲線：S期反応試験-1（GLP対応）：BASF毒性
- 29 研究所、2010年、未公表
- 30 59. ラットを用いた肝細胞増殖反応曲線：S期反応試験-2（GLP対応）：BASF毒性
- 31 研究所、2010年、未公表
- 32 60. ラットを用いた肝細胞増殖反応曲線：S期反応試験-3（GLP対応）：BASF毒性
- 33 研究所、2010年、未公表
- 34 61. US EPA : Pesticide Fact Sheet Fluxapyroxad (2012)
- 35 62. EFSA : Conclusion on the peer review of the pesticide risk assessment of
- 36 the active substance fluxapyroxad (2012)
- 37